

名古屋短期大学・常葉学園短期大学

相互評価報告書

平成 23 年 4 月

名古屋短期大学・常葉学園短期大学

目 次

1. はじめに（学長挨拶）～相互評価を実施して～	1
2. 相互評価実施要項及び相互評価項目	5
3. 相互評価協定承諾書	9
4. 自己点検・評価に係る委員会規程	13
5. 自己点検・評価に係る委員構成	17
6. 両学園及び両短期大学の沿革・概要	19
7. 相互評価等に係る委員会等の実施記録	27
8. 相互評価会議	
(1) 実施要項・日程等	32
(2) 交換資料一覧	39
(3) 質疑応答の記録（議事録）	
第1回相互評価会議	41
第2回相互評価会議	64
9. 相互評価結果（相互評価一覧表）	89
10. あとがき ～相互評価を終えて～	105

1.はじめに（学長挨拶）

～相互評価を実施して～

はじめに ～相互評価を実施して～

名古屋短期大学
学長 大谷 岳

平成 14 年 11 月に学校教育法の一部が改正され、平成 16 年度からすべての短期大学は、教育研究、組織運営、施設設備、財務等の総合的状況について、少なくとも 7 年間に一度は、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価（認証評価）を受けることが義務づけられました。

名古屋短期大学は、平成 20 年度（財）短期大学基準協会による認証評価を受審し、「適格」の評価をいただきました。そして次の 7 年への認証評価に向け、今年度、（財）短期大学基準協会の指導に沿い、静岡県静岡市の常葉学園短期大学との相互評価を実施することができました。相互評価を進める中で、自己評価では見えない点を指摘し合い、よい点はともに学びあうことが出来、本学にとっては大変意義深いものでありました。

この相互評価を本学の今後の一層の改善に繋げ、完結した教育課程を有する短期高等教育機関としての役割をしっかりと果たし、本学に対する社会からの理解をさらに深める努力をしていきたいと考えます。

相互評価は、木宮岳志学長、ALO の一言哲也先生をはじめ、ご指導いただきました常葉学園短期大学の諸先生方のお力添えにより無事に終えることが出来ました。心より感謝申し上げます。

はじめに ～相互評価を実施して～

常葉学園短期大学
学長 木宮 岳志

7年に1回実施が義務づけられている認証評価機関による評価が、その制度的意義は別にして、大学教職員にとって相当な負担増になっていることは否めない事実です。さらに、その間に相互評価や外部評価を実施すれば、教職員からブーイングが起きても不思議ではないと思います。にもかかわらず、今回の名古屋短期大学との相互評価にあたって本学の教職員からはブーイングが起きませんでした。恐らく、これは、大学を取り巻く経営環境が年々厳しくなり、教職員の心の中に改善・改革をしなければならないという切実な気持ちが高まっているからだと推測します。

認証評価と異なり、相互評価は制度として義務づけられているものではなく、大学が自発的意思に基づいて行うものです。だからこそ、今回の名古屋短期大学との相互評価を通して、多くを学ぶことができたと思います。

学んだことの第一は、四大化という今のトレンドに流されることなく、短期大学の役割をしっかりと見つめ、学生の多様化にもかかわらず、学生の自主性を懸命に引き出そうとしていたこと、第二は、新入生歓迎会、大学祭、オープンキャンパスにおける学生の活動を正課外教育として位置づけ、学生の社会性を養成しようとしていたこと、第三は、一般的には厳しい就職状況にありながら、就業力育成のためにカリキュラムを構築し、高い就職率に結びつけていたこと、でした。

これらの学びは、平成26年度に予定されている2回目の第三者評価に向けてのステップにとどまらず、本学が短期大学として生き残るための大きなヒントになったと確信しています。これらの学びを教職員一同が共有して、確実な成果に結びつけたいと思います。

最後に、今回の相互評価のパートナーになっていただいた名古屋短期大学の学長はじめ教職員の皆様に対し心より感謝申し上げますとともに、益々のご発展をお祈り申し上げます。

2.相互評価実施要項及び相互評価項目

2. 相互評価実施要項及び相互評価項目

相互評価実施要項

名古屋短期大学 常葉学園短期大学

I. 相互評価の趣旨・目的

大学・短期大学の設置基準が大綱化されて以来、短期大学の教育研究水準の維持および向上を図るため、短期大学における意識改革や自己点検・評価が恒常化している。そして、より客観的な自己点検・評価を行うためには、短期大学間の相互評価は有意義であり、また、(財)短期大学基準協会の「短期大学評価基準」の評価領域X「改革・改善」においても、積極的な「相互評価」の実施が求められているところである。

このような観点から、名古屋短期大学と常葉学園短期大学は、それぞれの短期大学における教育研究の一層の質的向上を図ることを目的とし、短期大学基準協会による第三者評価後のそれぞれの自己点検・評価に基づき「相互評価」を実施し、その結果を公表することとした。

II. 相互評価の実施校と対象学科

名古屋短期大学（入学定員 452）

英語コミュニケーション学科(80)、現代教養学科(105)、保育科(240)

専攻科保育専攻(20)、専攻科英語専攻(7)

常葉学園短期大学（入学定員 475）

日本語日本文学科(80)、英語英文科(80)、保育科(200)、音楽科(55)

専攻科国語国文専攻(20)、専攻科保育専攻(20)、専攻科音楽専攻(20)

III. 相互評価の項目・内容

(財)短期大学基準協会の「短期大学評価基準」に定められる10の評価領域から、領域IX「財務」を除く9領域を対象とし、各領域中の「評価項目」に関する詳細については、両短期大学で協議のうえ調整するものとする。(別表「相互評価の項目」を参照)

IV. 相互評価の実施方法と対象年度

両短期大学の平成19～21年度の「自己点検・評価報告書」に記載されている上記項目について相互評価を行う。相互評価の方法は、まず、両短期大学が「自己点検・評価報告書」および関係資料等を交換し、相手校の現状や課題等を把握した上で、書面による質問書を取り交わし、その後、相互に訪問をして相互評価会議を開催し、質問書に対する回答を得るとともに、追加の質疑応答を行うものとする。

V. 相互評価に関わる日程等

別添の「相互評価の流れ」に基づくものとする。

VI. 相互評価のまとめ

次の項目をまとめ、相互評価報告書を作成し、関係機関への提出および公表を行う。

1. はじめに
2. 両短期大学の概要
3. 相互評価委員会の名簿
4. 自己点検・評価委員会規程
5. 交換資料一覧
6. 相互評価協定承諾書
7. 相互評価実施概要・経過
8. 質問事項とその回答
9. 相互評価結果（総評）
10. あとがき
 <その他> ① 相互評価実施要項、② 相互評価項目、
 ③ 相互評価会議での質疑応答の概要、④ 議事録

VII. 相互評価会議の構成等

- (1) 相互評価会議は、両短期大学の相互評価委員および必要とされる教職員によって構成する。
- (2) 会議においては、会場校の相互評価委員会委員長が議長を務める。
- (3) 記録は会場校が担当する。(なお、会場校は議事録を作成し、相手校に内容の確認を求めるものとする。)

相互評価の領域及び項目

短期大学基準協会が示す10領域中、「IX 財務」を除く以下の9領域を基本とし、領域各項目に関する評価の観点についての詳細は、相互の協議により調整する。

- 1 建学の精神・教育理念、教育目的、教育目標
 - ア 建学の精神・教育理念が確立していること
 - イ 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること
 - ウ 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること

2 教育内容

- ア 教育課程が体系的に編成されていること
- イ 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること
- ウ 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること
- エ 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること

3 教育の実施体制

- ア 教員組織等が整備されていること
- イ 教育環境が整備・活用されていること
- ウ 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること

4 教育目標の達成度と教育の効果

- ア 教育目標の達成への努力がみられること
- イ 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること

5 学生支援

- ア 入学に関する支援が行われていること
- イ 学習支援が組織的に行われていること
- ウ 学生生活支援体制が整備されていること
- エ 進路支援が行われていること
- オ 多様な学生に対する特別な支援が行われていること
(留学生・社会人・障害者・長期履修生等)

6 研究

- ア 教員の研究活動が展開されていること
- イ 研究活動の活性化のための条件設備が行われていること

7 社会的活動

- ア 社会的活動への取組みが推進されていること
- イ 学生の社会的活動を促進していること
- ウ 国際交流・協力への取組みの努力がみられること

8 管理運営

- ア 理事会等学校法人の管理運営体制が確立していること
- イ 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること
- ウ 事務組織が整備されていること
- エ 人事管理が適切に行われていること

9 改革・改善

- ア 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること
- イ 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること
- ウ 相互評価（独自に行う外部評価を含む）への取組みに努力していること

3.相互評估協定承諾書

名古屋短期大学と常葉学園短期大学
相互評価協定承諾書

双方で相互評価を実施することに同意いたします。
本承諾書を交換し、相互評価実施に関する事項について、
平成22年度中に終了すべく遺漏のないよう努めることと
いたします。

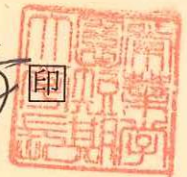
平成21年12月4日

名古屋短期大学
学長 大谷 岳 様

常葉学園短期大学

学長

山本伸靖



常葉学園短期大学と名古屋短期大学
相互評価協定承諾書

双方で相互評価を実施することに同意いたします。
本承諾書を交換し、相互評価実施に関する事項について、
平成22年度中に終了すべく遺漏のないよう努めることと
いたします。

平成21年12月4日

常葉学園短期大学
学長 山本 伸晴 様

名古屋短期大学

学長 大谷 岳



4.自己点検・評価に係る委員会規程

4. 自己点検・評価に係る委員会規程

名古屋短期大学 大学評価委員会規程

(準 拠)

第1条 名古屋短期大学（以下「本学」という。）学則第2条に規定する大学評価委員会（以下「委員会」という。）の運営は本規程による。

(目 的)

第2条 委員会は、本学学則第2条及び学校教育法第109条に対処するため以下の事項を行う。

- (1) 本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）の状況についての点検及び評価を行うとともに、その結果を公表すること。
- (2) 本学の教育研究等の総合的な状況について、政令が定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関（以下「認証評価機関」という。）による評価を受けること。
- (3) 認証評価機関による評価のほか、本学が依頼した外部評価員による外部評価会を随時実施すること。
- (4) 教育研究等の点検及び評価の結果、改善点が明らかになった場合、その改善を教授会に提案すること。
- (5) その他、大学評価に関連する事項

(構 成)

第3条 委員会の構成は次のとおりとする。

- (1) 学長
- (2) 学科長
- (3) 学科選出委員各1名
- (4) 図書館長
- (5) 教務部長
- (6) 学生部長
- (7) 事務部長
- (8) 委員会が指名する委員 若干名

(A L O)

第4条 本学に認証評価作業連絡調整担当者（以下「A L O」という。）を置く。

- 2 A L Oは、本学専任教員から委員会が選考し学長が任命する。
- 3 A L Oは、本学が依頼する認証評価機関（短期大学基準協会）等外部諸機関と本学との連絡調整にあたりとともに、本学の大学評価にかかわる全ての作業の統括・調整を行う。

(会 議)

第5条 委員会は学長が招集し議長となる。

- 2 学長に事故ある時はA L Oが議長を代行する。
- 3 会議は委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

(審議事項)

第6条 委員会は次の事項を審議し決定する。

- (1) 大学評価実施計画の作成
- (2) 各種報告書作成計画の決定と公表前の報告書の査読
- (3) ALOの選考
- (4) その他、大学評価に関する業務の計画

(教授会との関係)

第7条 第6条第1号による大学評価実施計画は、教授会の承認を得なければならない。

- 2 委員会は、第6条第1号以外の審議結果について、その主な内容を教授会に報告しなければならない。

(作業部会)

第8条 委員会に作業部会をおく。

- 2 作業部会は、委員会の基本方針にもとづいて、各種報告書の作成、短期大学基準協会の訪問調査への対応、本学主催の外部評価会の開催等、大学評価に関する具体的作業を行う。
- 3 作業部会は、各種報告書の編集・執筆を基本業務とする報告書執筆責任者1名を選考しなければならない。
- 4 報告書執筆責任者は、本学専任教員から選考し、学長が任命する。
- 5 本学の学科及び事務部等は、作業部会の要請によって、保有するデータの提供あるいは調査の実施等の協力を行うものとする。
- 6 作業部会は、ALO、第3条第2号及び第3号の委員並びに報告書執筆責任者で構成する。
- 7 ALOは作業部会を招集し、座長となる。

(関係者)

第9条 委員会及び作業部会は、関係者に出席を求め意見を聞くことができる。

(改 廃)

第10条 本規程の改廃は教授会の議によって行い、理事会の承認を得るものとする。

(事 務)

第11条 委員会及び作業部会の事務は、事務部が行う。

附 則

(施行期日)

1. この規程は、平成18年8月1日から施行する。

(施行に伴う名古屋短期大学評価委員会規程内規の廃止)

2. この規程の施行に伴い、「名古屋短期大学評価委員会規程内規」の規程は廃止する。
3. この改正規程は、平成23年4月27日から施行する。

常葉学園短期大学 自己点検・第三者評価委員会規程

(設 置)

第1条 常葉学園短期大学学則第4条及び第56条の規定に基づき、常葉学園短期大学(以下「本学」という。)に自己点検・第三者評価委員会(以下「本委員会」という。)を置く。

(目 的)

第2条 本委員会は、本学における教育・研究及び組織・管理運営の質的向上を図るため、必要な事項の審議及び点検・評価活動を行うとともに(財)短期大学基準協会による第三者評価を受けること及び相互評価に関することを目的とする。

(任 務)

第3条 本委員会は、次の事項の審議及び点検・評価並びに第三者評価の受入れを行う。

- (1) 自己点検・評価の項目及び実施計画に関すること。
- (2) 自己点検・評価の実施に関すること。
- (3) 自己点検・評価の報告書の作成及び公表に関すること。
- (4) 第三者評価の受入れに関すること。
- (5) 相互評価に関すること。
- (6) その他本委員会において必要と認めた事項

(組 織)

第4条 本委員会の構成及び委員等の選出は次のとおりとする。

- (1) 委員長は、本学教員の中から学長が指名する。
- (2) 副委員長は、委員の中から学長が指名する。
- (3) 委員は、各学科長・教養教育主任・第三者評価連絡調整責任者(ALO)・事務部長及び関係部署の長

(任 期)

第5条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第6条 委員長は、必要と認めたとき、これを招集しその議長となる。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある場合には、これを代行する。

(議 事)

第7条 本委員会は、構成員の3分の2以上の出席により成立する。

(委員以外の者の出席)

第8条 本委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第9条 本委員会の事務は、事務部が担当する。

附 則 この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

5.自己点検・評価に係る委員構成

5. 自己点検・評価に係る委員構成

(1) 平成 22 年度 名古屋短期大学 大学評価委員会委員

役職名等	氏名
学長・副学園長	大谷 岳
事務局長	島田 隆治
ALO・図書館長・保育科教授	小川 雄二
保育科長・教授	高田 吉朗
英語コミュニケーション学科長・教授	武田 貴子
現代教養学科長・教授	松崎 悟
教務部長・現代教養学科教授	井上 文人
学生部長・現代教養学科教授	茶谷 淳一
将来計画委員長・英語コミュニケーション学科教授	本田 伊早夫

(2) 平成 22 年度 常葉学園短期大学 自己点検・第三者評価委員会委員

役職名等	氏名
学長	木宮 岳志
ALO・学生部長・教授	一言 哲也
図書館長・専攻科長・教授	繁原 央
事務部長	木宮 俊峰
日本語日本文学科長・教授	上野 力
英語英文科長・准教授	永倉 由里
保育科長・教授	加藤 光良
音楽科長・准教授	高瀬 健一郎
教養教育主任・教授	鈴木 克義
進路支援室長	杉山 美治

6.両学園及び両短期大学の沿革・概要

6. 両学園及び両短期大学の沿革・概要

桜花学園及び名古屋短期大学の沿革・概要

(1) 学校法人桜花学園の沿革

学校法人桜花学園は、明治36年、大溪専（もはら）によって創設された桜花義会看病婦学校を母体とした学園である。「信念のある女性の養成」が大溪専の教育理念であった。以下は本学園の沿革の概要である。

年	
明治36年	名古屋市中区に桜花義会看病婦学校創立を創設（創立者：大溪専）
大正12年	名古屋市昭和区に桜花高等女学校を創立（創立者：大溪専）
昭和14年	名古屋商業実践女学校を創立
昭和18年	名古屋商業実践女学校を桜花女子商業学校に昇格、昭和20年廃止
昭和23年	桜花女子学園中学校と桜花女子学園高等学校を設置、中学校は昭和30年に廃止
昭和30年	名古屋短期大学（保育科）を名古屋市昭和区に設置、昭和42年に愛知県豊明市栄町に移転 桜花女子学園高等学校を名古屋短期大学附属高等学校に校名変更し、平成11年には桜花学園高等学校に校名変更
昭和42年	名古屋短期大学附属幼稚園を名古屋短期大学と同地に設置
昭和51年	名古屋短期大学に英語科を設置、平成10年に英語コミュニケーション学科に名称変更
昭和57年	名古屋短期大学に教養科を設置、平成10年に現代教養学科に名称変更
平成2年	豊田市に豊田短期大学を設置
平成3年	名古屋短期大学に専攻科（保育専攻1年課程）を設置、平成8年に保育専攻2年課程に改変
平成6年	名古屋短期大学専攻科（保育専攻）は、学位授与機構に認定
平成10年	豊田短期大学を桜花学園大学に改組 人文学部（豊田市）を設置
平成14年	桜花学園大学保育学部保育学科設置、桜花学園大学大学院修士課程人間文化研究科設置
平成15年	保育子育て研究所を設置
平成19年	名古屋短期大学専攻科（英語専攻）2年課程設置
平成20年	名古屋短期大学専攻科（英語専攻）は、学位授与機構に認定

(2) 名古屋短期大学の沿革

創設者大溪専の遺志を継いだ大溪賛雄はその教育理念を徹底させるために中学校、高等学校のほかに大学を持たなければならないと、昭和30年に名古屋短期大学を名古屋市昭和区緑町1-7にある現在の桜花学園高等学校の一角をキャンパスとして保育科（入学定員30人）のみの単科の短期大学として設立した。昭和42年に現在の豊明市のキャンパスに移転した。昭和51年には英語科（入学定員100人）が設置され、平成10年に英語コミュニケーション学科と名称を変更して今日に至っている。また、昭和57年に教養科（入学定員150人）が設置され、平成10年に現在の現代教養学科に名称変更している。平成3年に専攻科（保育専攻）1年課程を設置し、平成6年に学位授与機構の認定を受け、平成8年に2年課程に改編した。平成19年には専攻科英語専攻（2年課程）を設置し、平成20年度に学位授与機構認定専攻科となる。

(3) 名古屋短期大学の所在地、位置、周囲の状況（産業、人口）等

名古屋短期大学の所在地は愛知県豊明市栄町武侍48である。豊明市の西部に位置し、名古屋市緑区に隣接している。豊明市は近年名古屋市に隣接するベッドタウンとして、急速に発展し続ける「新しい街」と、織田信長が今川義元の大軍を破り天下統一の足がかりとした桶狭間古戦場を有する「歴史の街」と

いう二つの側面を持っている。豊明市の面積は 23.2km²、人口は約 69,300 人である。名古屋市緑区は、市の東南部に位置し、人口約 230,000 人の区である。東西に扇川、西部区界に天白川、南部に大高川が流れ、平地とゆるやかな丘陵地で形成され、大高緑地をはじめ多くの自然に恵まれた環境にあり、また、伝統産業として約 390 年の歴史を持つ「有松絞り」がある。本学は、名鉄中京競馬場前駅より徒歩 10 分のところに位置し有松に隣接している。



(4) 平成 16 年度～平成 22 年度の設置学科、入学定員等

学科・専攻名		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	備考
保育科	入学定員	200	200	200	240	240	240	240	
	収容定員	400	400	400	440	480	480	480	
	在籍者数	508	490	502	522	528	531	522	
	充足率 (%)	127	123	126	119	110	111	108	
専攻科 保育専攻	入学定員	10	10	10	10	10	20	20	
	収容定員	20	20	20	20	20	30	40	
	在籍者数	11	11	19	19	17	24	29	
	充足率 (%)	55	55	95	95	85	80	72	
英語コミュニ ケーション学科	入学定員	100	100	100	80	80	80	80	
	収容定員	200	200	200	180	160	160	160	
	在籍者数	256	217	193	184	157	142	144	
	充足率 (%)	128	109	97	102	98	89	90	
専攻科 英語専攻	入学定員			【新設】	7	7	7	7	
	収容定員				7	14	14	14	
	在籍者数				2	9	9	10	
	充足率 (%)				29	64	64	71	
現代 教養学科	入学定員	125	125	125	105	105	105	105	
	収容定員	250	250	250	230	210	210	210	
	在籍者数	313	290	273	275	269	256	240	
	充足率 (%)	125	116	109	120	128	122	114	
全体合計 ／平均	入学定員	435	435	435	442	442	452	452	
	収容定員	870	870	870	872	884	894	904	
	在籍者数	1088	1008	987	1029	980	962	945	
	充足率 (%)	125	116	113	118	110	108	105	

在籍者数は 5 月 1 日現在

(5) 平成19年度～21年度に入学した学生の出身別人数及び割合

地域	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
愛知県	398	83.3	400	83.68	367	81.19
岐阜県	43	9	42	8.79	40	8.87
広島県	0	0	1	0.21	0	0
三重県	21	4.4	22	4.6	30	6.64
静岡県	6	1.3	6	1.26	4	0.88
滋賀県	0	0	0	0	1	0.22
富山県	2	0.4	2	0.42	0	0
福井県	1	0.2	1	0.21	4	0.88
長野県	4	0.8	3	0.63	4	0.88
長崎県	1	0.2	1	0.21	0	0
鹿児島県	2	0.4	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	2	0.44
合計	478	100	478	100	452	100

(6) 法人が設置する他の教育機関の所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数

(平成22年5月1日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
桜花学園大学 大学院 人間文化研究科 人間科学専攻 地域文化専攻	豊田市太平町七曲12-1	5 5	10 10	5 15
桜花学園大学 保育学部 保育学科 学芸学部 英語学科	豊明市栄町武侍48	145 80	590(15) 160	619(2) 38
人文学部 人間関係学科 国際文化学科 観光文化学科	豊田市太平町七曲12-1	(23) (3)	140(0) 116(22) 106(3)	45 47(11) 50(5)
桜花学園高等学校	名古屋市昭和区緑町1-7	500	1,500	1,238
名古屋短期大学附属幼稚園	豊明市栄町武侍48	314	314	298

()内の数字は編入内数

平成21年4月 人文学部を改組・転換により学芸学部を設置。

人文学部は募集停止。(編入は23年4月から募集停止。)

常葉学園及び常葉学園短期大学の沿革・概要

(1) 設置の趣意

常葉学園の創立者木宮泰彦の創立趣意は、「女子の高等教育附与」にあり、昭和21年6月8日に創設した「静岡女子高等学院」は、その表れであった。同学院は各種学校ともいふべきもので、その後昭和25年、財団法人から学校法人への組織変更の認可を受けた。

この高等教育への念願により昭和41年4月、常葉学園として初めての大学「常葉女子短期大学」が誕生し、創立者木宮泰彦が初代学長に就任した。当初の学生数は国文科18人、保育科86人の合計104人であった。その後、昭和53年4月に「常葉学園短期大学」と名称変更をし、現在に至っている。

この間、昭和43年4月に音楽科を、同45年1月に専攻科（保育専攻、音楽専攻）を設置した。さらに昭和47年に英文科、美術・デザイン科を、平成7年には専攻科（国語国文専攻）を増設した。このうち美術・デザイン科と同専攻科は平成14年3月に常葉学園大学造形学部へ改組転換し、平成16年3月に廃止した。現在は、日本語日本文学科、英語英文科、保育科、音楽科の4科とともに、専攻科（国語国文専攻、保育専攻、音楽専攻）を擁する総合短期大学となり、平成18年度には創立40周年を迎えた。現在、静岡県下唯一の短期大学（短期大学部を除く）として地域の教育に貢献している。

(2) 学園の沿革

年	月	
昭和21	6	木宮泰彦、静岡女子高等学院を浅間神社北回廊で開校
昭和23	2	財団法人 常葉学園設置認可
昭和23	4	五島秀次、初代理事長に就任 常葉中学校開校
昭和25	12	財団法人常葉学園を学校法人に組織変更認可
昭和26	10	静岡女子高等学院を常葉高等学校と改称・認可
昭和34	3	木宮泰彦、第2代理事長に就任
昭和38	4	橘高等学校開校
昭和40	4	橘中学校開校
昭和41	4	常葉女子短期大学開学 短大付属こは幼稚園開園
昭和44	10	創立者木宮泰彦逝去
昭和44	11	木宮和彦、第3代理事長に就任
昭和45	4	短大附属たちばな幼稚園開園
昭和47	4	常葉学園菊川高等学校開校
昭和53	4	常葉学園橘小学校開校
昭和53	4	常葉学園傘下の各校(園)の名称変更
昭和55	4	常葉学園大学開学
昭和63	4	常葉学園浜松大学開学
平成2	4	常葉学園富士短期大学開学
平成8	4	常葉学園医療専門学校開学
平成10	4	常葉学園浜松大学を浜松大学と名称変更
平成12	4	富士常葉大学開学
平成14	4	木宮健二、第4代理事長に就任
平成15	4	菊川中学校開校
平成17	4	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校開校

(3) 常葉学園短期大学の沿革

年	月	
昭和 40	4	常葉女子短期大学創立事務所を橘高校に設置 所長に木宮乾峰就任
昭和 40	6	校舎建築着工
昭和 41	1	文部省より短期大学(国文科・保育科)及び附属とこは幼稚園設置認可
昭和 41	4	木宮泰彦、初代学長に就任 第1回入学式挙行
昭和 43	3	音楽科増設申請認可
昭和 44	11	木宮乾峰、第2代学長に就任
昭和 45	1	専攻科保育専攻・同音楽専攻設置認可
昭和 45	2	附属たちばな幼稚園設置認可
昭和 46	6	菊川校舎起工式
昭和 47	1	英文科、美術・デザイン科(菊川校舎)増設申請認可
昭和 53	4	常葉学園短期大学と名称変更
昭和 61	4	齋藤達雄、第3代学長に就任
平成 3	4	木宮一邦、第4代学長に就任
平成 5	1	附属環境システム研究所設置
平成 5	4	専攻科保育専攻・音楽専攻が学位授与機構の認定専攻科となる
平成 5	5	学生会館完成 「シトラスホール」と命名
平成 6	2	専攻科美術・デザイン専攻が学位授与機構の認定専攻科となる
平成 7	1	国文科を国語国文科に、英文科を英語英文科に科名変更
平成 7	2	専攻科国語国文専攻が学位授与機構の認定専攻科となる
平成 7	4	菊川キャンパスに学生会館完成 「グリーンホール」と命名
平成 9	4	丹治智義、第5代学長に就任
平成 12	4	英語英文科、菊川校舎より静岡校舎に移転
平成 13	4	国語国文科を日本語日本文学科に科名変更
平成 13	4	附属環境システム研究所を富士常葉大学へ移管
平成 14	4	奥村浩之、第6代学長に就任
平成 16	3	美術・デザイン科、専攻科美術・デザイン専攻廃止
平成 16	4	ライフデザインセンター開設、こども総合研究センター開設
平成 16	4	保育科に初の男子学生受け入れ
平成 17	10	平成17年度卒業生から「短期大学士」の学位を授与
平成 18	4	山本伸晴、第7代学長に就任
平成 22	4	木宮岳志、第8代学長に就任

(4) 常葉学園短期大学の所在地、位置、周囲の状況等

静岡市は、平成17年4月に全国14番目の政令都市となった。首都圏と中京圏のほぼ中間、また、静岡県の中央にあり、政治、経済、情報、文化等の中枢管理機能が集まる都市である。人口約72万人の商業都市であり、清水港を擁し駿河湾工業地帯の中心ともなっている。校舎は、静岡市葵区瀬名二丁目にあり、JR静岡駅からは7km(バスで約25分)、また、JR草薙駅からは3.5km(バスで約15分)で、今は住宅街となっている地区に立地している。

静岡市全体図



(5) 平成16年度～22年度の設置学科、入学定員等

(毎年度5月1日現在)

学科名・専攻名		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	備考	
日本語日本文学科	入学定員	80	80	80	80	80	80	80		
	入学者数	80	83	74	64	48	69	49		
	入学定員充足率(%)	100	104	93	80	60	86	61		
	収容定員	160	160	160	160	160	160	160		
	在籍者数	166	154	154	136	107	116	118		
	収容定員充足率(%)	104	96	96	85	67	73	74		
英語英文科	入学定員	80	80	80	80	80	80	80		
	入学者数	85	92	73	77	73	61	64		
	入学定員充足率(%)	106	115	91	96	91	76	80		
	収容定員	160	160	160	160	160	160	160		
	在籍者数	198	175	164	148	143	131	125		
	収容定員充足率(%)	124	109	103	93	89	82	78		
保育科	入学定員	200	200	200	200	200	200	200		
	入学者数	262	244	227	224	203	219	212		
	入学定員充足率(%)	131	122	114	112	102	110	106		
	収容定員	400	400	400	400	400	400	400		
	在籍者数	465	506	468	448	425	419	429		
	収容定員充足率(%)	116	127	117	112	106	105	107		
音楽科	入学定員	55	55	55	55	55	55	55		
	入学者数	52	45	51	55	43	54	43		
	入学定員充足率(%)	95	82	93	100	78	98	78		
	収容定員	110	110	110	110	110	110	110		
	在籍者数	98	98	96	105	95	95	95		
	収容定員充足率(%)	89	89	87	95	86	86	86		
専攻科	国語国文専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
		入学者数	5	5	7	5	8	10	1	
		入学定員充足率(%)	25	25	35	25	40	50	5	
		収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
		在籍者数	11	10	12	11	13	18	11	
		収容定員充足率(%)	28	25	30	28	33	45	28	
	保育専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
		入学者数	9	16	11	19	15	11	6	
		入学定員充足率(%)	45	80	55	95	75	55	30	
		収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
		在籍者数	28	23	27	29	32	25	15	
		収容定員充足率(%)	70	58	68	73	80	63	38	
	音楽専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
		入学者数	21	15	24	20	21	23	26	
		入学定員充足率(%)	105	75	120	100	105	115	130	
		収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
		在籍者数	52	34	38	44	39	43	50	
		収容定員充足率(%)	130	85	95	110	98	108	125	

6.両学園及び両短期大学の沿革・概要

(6) 出身地別学生数(平成19年度～21年度)

(毎年度5月1日現在)

地 域	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
北海道・東北	3	0.7	1	0.3	2	0.5
関 東	0	0.0	3	0.8	3	0.7
北 信 越	2	0.5	2	0.5	3	0.7
山 梨 県	0	0.0	5	1.4	2	0.5
静 岡 県	410	97.6	347	94.6	379	94.0
愛 知 県	1	0.2	1	0.3	3	0.7
岐阜・三重	1	0.2	3	0.8	1	0.2
近 畿	0	0.0	0	0.0	0	0.0
中国・四国	2	0.5	2	0.5	2	0.5
九州・沖縄	0	0.0	0	0.0	1	0.2
その他(認定等)	1	0.2	3	0.8	7	1.7
合 計	420		367		403	

(7) 法人が設置する他の教育機関の現状

(平成22年5月1日現在)

教 育 機 関 名	所 在 地	入学定員	収容定員	在籍者数
常葉学園大学	静岡県静岡市葵区瀬名1丁目22番1号	520	2,090	2,192
浜松大学	静岡県浜松市北区都田町1230番地	705	2,670	1,894
富士常葉大学	静岡県富士市大淵325番地	410	1,670	1,509
常葉学園医療専門学校	静岡県浜松市北区都田町1490番地	0	400	184
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	静岡県静岡市葵区鷹匠3丁目7番23号	80	320	242
常葉学園高等学校	静岡県静岡市葵区水落町1番30号	240	720	568
常葉学園橘高等学校	静岡県静岡市葵区瀬名2丁目1番1号	540	1,620	935
常葉学園菊川高等学校	静岡県菊川市半済1550番地	375	1,125	1,059
常葉学園中学校	静岡県静岡市葵区水落町1番30号	80	240	126
常葉学園橘中学校	静岡県静岡市葵区瀬名2丁目1番1号	90	270	216
常葉学園菊川中学校	静岡県菊川市半済1550番地	60	180	160
常葉学園大学教育学部附属橘小学校	静岡県静岡市葵区瀬名1丁目22番1号	60	360	338
常葉学園短期大学附属こは幼稚園	静岡県静岡市葵区城北37番地	90	240	240
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園	静岡県静岡市葵区瀬名中央3丁目18番1号	80	230	238

(注1) 「入学定員」欄については、大学は大学院の入学定員を含む。

(注2) 「収容定員」欄については、大学は3年次への編入学の定員を、幼稚園は3歳児入学定員を含む。

7.相互評価等に係る委員会等の実施記録

7. 相互評価等に係る委員会等の実施記録

年・月	名古屋短期大学	常葉学園短期大学
平21 3月	第三者評価適格認定	
平21 4月	新委員会発足 4/29●第1回評価委員会 (1)相互評価の実施にむけて	4/7●第1回自己点検・評価委員会 (1)「検討事項・指摘事項」の検証(平成20年度からの継続協議) —平成19年度「自己点検・評価報告書」および短大基準協会の認証評価から— (2)名古屋短大との相互評価の流れ(案)の確認 (3)自己点検・評価報告書の改定に向けて(平成19年度・20年度のデータ整理の依頼)
5月		
6月	6/8 両短大 ALO 打ち合わせ 6/17●第2回評価委員会 (1)評価の対象年度と実施年度 (2)相互評価協定書の締結について (3)相互評価のスケジュールについて (4)相互評価実施要項について (5)相互評価の対象とする領域・項目について (6)名古屋短期大学「相互評価委員会」について 20年度自己点検評価報告書の印刷	6/8 両短大 ALO 打ち合わせ 6/16●第2回自己点検・評価委員会 (1)名古屋短大 ALO との打ち合わせ(報告)と相互評価実施要項案の修正について (2)自己点検・評価報告書の改定に向けて(執筆分担・データ整理など) (3)「検討事項・指摘事項」の検証(平成20年度からの継続協議)
7月		7/14●第3回自己点検・評価委員会 (1)「検討事項・指摘事項」の検証(平成20年度からの継続協議) (2)自己点検・評価報告書の改訂に向けて(原稿執筆・資料整理など今後の作業確認)
8月		
9月		
10月		10/13●第4回自己点検・評価委員会 (1)自己点検・評価報告書の改訂に向けて(執筆の進捗状況報告・執筆上の問題点など) (2)名古屋短大との連絡(その後の報告)—学長・ALOの本学訪問について(協定の調印)—
11月	11/25 相互評価実施の教授会承認	
12月	12/4 協定承諾書の締結	12/4 協定承諾書の締結 (常葉短大において) 12/8●第5回自己点検・評価委員会 (1)自己点検・評価報告書の改訂に向けて(執筆の進捗状況報告・今後の日程確認など) (2)相互評価に関する今後の日程について ア. 自己点検・評価報告書および添付資料の交換

7.相互評価等に係る委員会等の実施記録

年・月	名古屋短期大学	常葉学園短期大学
		イ. 書面による質問書の交換 ウ. 相互訪問調査の時期 エ. 相互評価報告書の完成など 「相互評価協定承諾書」の調印(12月4日)について(実施の報告)
平22 1月	1/27●第3回評価委員会 相互評価にむけたスケジュールについて	
2月		2/9●第6回自己点検・評価委員会 (1)自己点検・評価報告書の改訂について(1次原稿の内容検討—その1)
3月	21年度自己点検評価書の完成	3/9●第7回自己点検・評価委員会 (1)自己点検・評価報告書の改訂について(1次原稿の内容検討—その2)
4月		4/13●第1回自己点検・評価委員会 (1)平成22年度自己点検・評価報告書の改訂について(1次原稿の内容検討—その3、編集担当チームの編成、今後の日程確認など) (2)副ALOの指名
5月	22年度自己点検評価報告書基礎資料作成開始	
6月	22年度自己点検評価報告書執筆開始 6/23●第1回評価委員会 (1)相互評価のスケジュールの修正について (2)訪問調査の日程調整について	
7月		7/10●第2回自己点検・評価委員会 (1)自己点検・評価報告書改訂について(これまでの執筆作業経過、編集担当チームの点検、今後の予定など) (2)名古屋短大との相互評価について(相互訪問メンバー、訪問日の日程など) (3)その他(確認事項) ア. 名古屋短大への質問紙作成と交換 イ. 名古屋短大訪問チームの受け入れ体制 ウ. 相互評価会議の日程 エ. 相互評価報告書の刊行
8月		
9月	9/22 報告書の交換(19・20・21年度) 9/22●第2回評価委員会 (1)当面の相互評価のスケジュール (2)常葉学園短大訪問調査にむけた「書面による質問」の担当 (3)常葉短大訪問調査日のスケジュール (4)名古屋短大訪問調査のスケジュール	9/22 報告書の交換(平成22年度自己点検・評価報告書及び事前交換資料)
10月	10/13 書面による質問の交換	10/12●第3回自己点検・評価委員会 (1)名古屋短大への質問について(名古屋短大へ送る質問一覧表作成) → 10/13 書面の質問交換 (2)その他

7.相互評価等に係る委員会等の実施記録

年・月	名古屋短期大学	常葉学園短期大学
	<p>10/20 第3回評価委員会</p> <p>(1)当面の相互評価のスケジュール (2)常葉学園短大訪問調査(11/2)にむけた「書面による質問」の担当箇所 (3)常葉短大訪問調査日スケジュール (4)名古屋短大訪問調査スケジュール</p> <p>10/27 書面による回答の交換</p>	<p>ア. 名古屋短大からの質問一覧に対する回答作成(日程確認) イ. 名古屋短大チーム(11/2)の受け入れ体制について(当日の実施要項)</p> <p>10/26●第4回自己点検・評価委員会 (1)名古屋短大からの質問一覧に対する回答(案)の作成について→10/27回答の交換 (2)その他 第1回相互評価会議の質疑応答内容を入れた「回答一覧」(議事録兼ねる)の作成について(日程確認)</p>
11月	11/4 第2回相互評価会議(名古屋短大にて) (口頭および書面での回答)	11/2 第1回相互評価会議(常葉短大にて) (口頭および書面での回答)
		11/30●第5回自己点検・評価委員会 (1)名古屋短大との第1回相互評価会議の議事録(案)について(内容確認)
12月	12/3 回答一覧の完成・交換	12/3 回答一覧の完成・交換
平23 1月		
2月	<p>2/7 相互評価一覧表1次案の完成</p> <p>2/11●第4回評価委員会 (1)相互評価一覧表の作成状況について (2)相互評価報告書の公表について (3)相互評価の今後のスケジュール</p> <p>2/22 相互評価一覧表の完成 ★22年度自己点検評価報告書の完成</p>	<p>2/8●第6回自己点検・評価委員会 (1)相互評価一覧表(案)について(本学に対する名古屋短大からの評価について内容確認) (2)その他(「相互評価報告書」に関する完成までの日程・発行形式・部数などの確認)</p>
3月	相互評価報告書の編集・校正	相互評価報告書の編集・校正
4月	相互評価報告書の印刷及びホームページ上で公開	相互評価報告書の印刷及びホームページ上で公開

8. 相互評価会議

8. (1) 第1回相互評価会議 実施要項・日程等

1 日時 平成22年11月2日(火) 12:45~16:00

2 会場 常葉学園短期大学

3 出席者

名古屋短期大学

役職名等	氏名
学長	大谷 岳
事務局長	島田 隆治
ALO・図書館長・教授	小川 雄二
保育科長・教授	高田 吉朗
英語コミュニケーション学科長・教授	武田 貴子
現代教養学科長・教授	松崎 悟
教務部長・教授	井上 文人
学生部長・教授	茶谷 淳一
将来計画委員長・教授	本田 伊早夫
事務局	河合 智幸

常葉学園短期大学

役職名等	氏名
学長	木宮 岳志
ALO・学生部長・教授	一言 哲也
図書館長・専攻科長・教授	繁原 央
事務部長	木宮 俊峰
日本語日本文学科長・教授	上野 力
英語英文科長・准教授	永倉 由里
保育科長・教授	加藤 光良
専攻科保育専攻主任・准教授	鈴木 久美子
音楽科長・准教授	高瀬 健一郎
教養教育主任・教授	鈴木 克義
進路支援室長	杉山 美治

4 日程

時間(所要時間)	内容	場所
10:00	名古屋短期大学御一行到着	正門の中へ
10:00~10:20(20)	挨拶会	学長室
10:00~11:45(85)	学内視察	短大施設内
11:45~12:45(60)	昼食	学長室
12:45~14:15(90)	相互評価会議	第一会議室
14:15~14:30(15)	休憩	
14:30~16:00(90)	相互評価会議	第一会議室

5 施設見学 (説明：影山、石原純、一言、木宮俊)

建物名	階	室名・設備名
本館	2階	進路支援室・事務室
	3階	032教室・第一会議室
	1階	学生部(教務課・学生課・入試課)・講師室
掲示板		
1号館	1階	学生相談室・保健室・調理実習室
	3階	メディア自習室
T号館	4階	ピアノ練習室
2号館	4階	体育室
	3階	視聴覚室・音楽室
	1階	コンピュータ室・和室
7号館	1階	シトラスホール(学生食堂)
	2階	シトラスルーム
3号館	2階	ピアノレッスン室
	3階	ピアノ練習室
中庭		
5号館	1階	体育館
	2階	美術室
8号館	4階	LL教室・コンピュータ室
	3階	共同研究室(日文・英文)・教員研究室
	1階	視聴覚室
4号館	1階・2階	図書館
		ひだまりガーデン
6号館	1階	専攻科室
	2階	共同研究室(保育)
T号館		オレンジホール
寮		常葉寮
		グリーンハウス

6 会議概要 (進行：常葉学園短期大学 ALO・学生部長 一言 哲也)

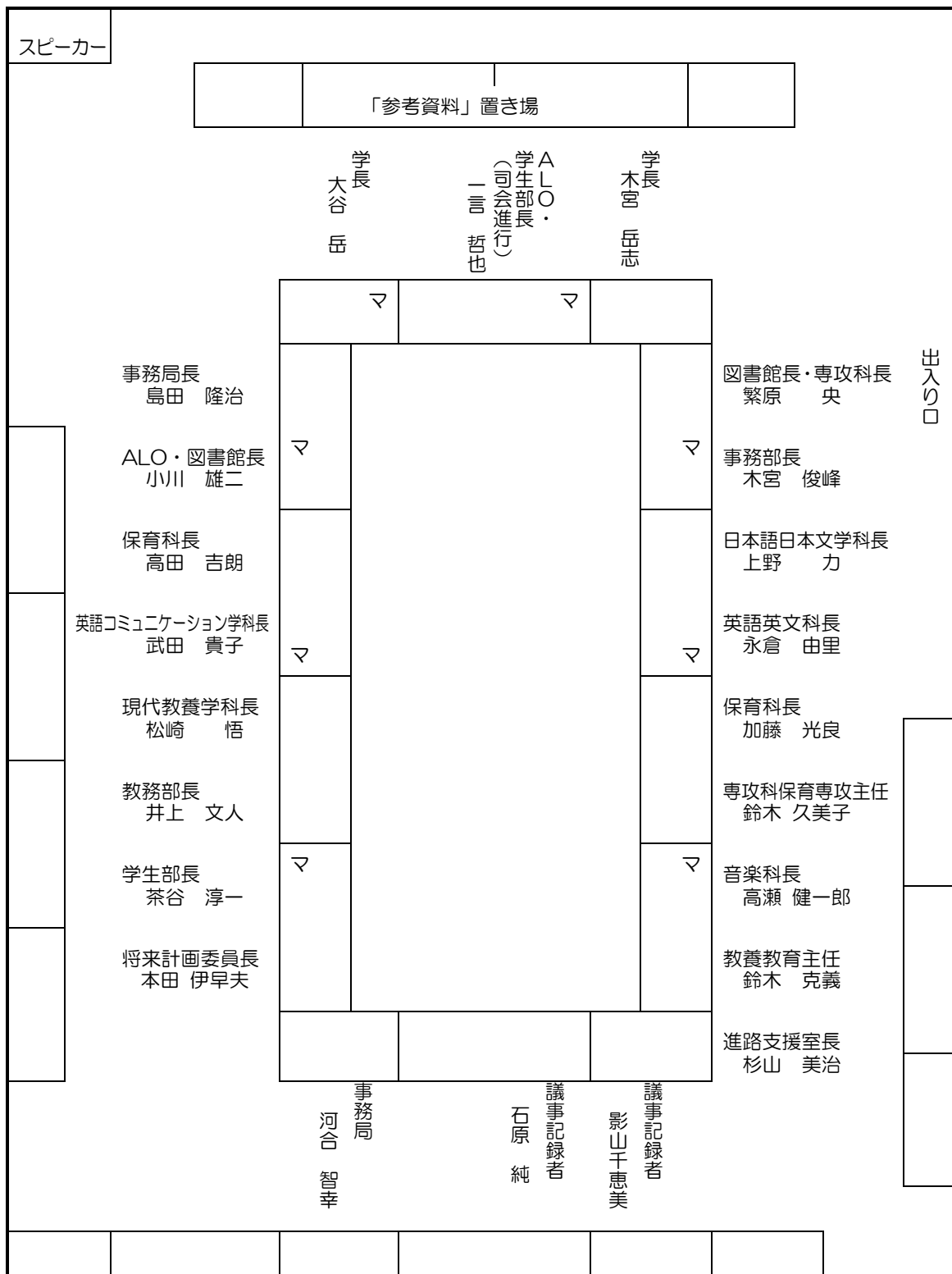
- (1) 学長挨拶(会場校：木宮岳志 学長、訪問校：大谷岳 学長)
- (2) 出席者自己紹介(常葉短大出席者、名古屋短大出席者)
- (3) 自己点検・評価報告書についての質疑応答
- (4) その他(連絡事項など)

以上

8. 相互評価会議(実施要項・日程等)

名古屋短期大学・常葉学園短期大学 相互評価会議 座席表

平成 22 年 11 月 2 日
常葉学園短期大学
第 1 会議室



第2回相互評価会議 実施要項・日程等

1 日 時 平成22年11月4日(木) 12:45~16:00

2 会 場 名古屋短期大学 大会議室

3 出席者

常葉学園短期大学		順不同 敬称略
役職名等	氏 名	
学長	木宮 岳志	自己点検・評価委員
ALO・学生部長・教授	一言 哲也	自己点検・評価委員
事務部長	木宮 俊峰	自己点検・評価委員
音楽科長・副ALO・准教授	高瀬 健一郎	自己点検・評価委員
専攻科保育専攻主任・准教授	鈴木 久美子	
学生部次長兼教務課長	石原 純	

名古屋短期大学		順不同 敬称略
役職名等	氏 名	
学長・副学園長	大谷 岳	評価委員
事務局長	島田 隆治	評価委員
ALO・図書館長・保育科教授	小川 雄二	評価委員
保育科長・教授	高田 吉朗	評価委員
英語コミュニケーション学科長・教授	武田 貴子	評価委員
現代教養学科長・教授	松崎 悟	評価委員
教務部長・現代教養学科教授	井上 文人	評価委員
学生部長・現代教養学科教授	茶谷 淳一	評価委員
将来計画委員長・英コミ学科教授	本田 伊早夫	評価委員
総務部長	稲垣 正義	
学務部長	式庄 憲二	
学務部次長	内藤 智徳	
教務課長	尾鍋 好憲	
学生課長	服部 園子	
入試広報部長	安永 芳男	
庶務会計課長	馬場 美津子	
図書課長	加藤 美智子	
学生課員	葛谷 賢司	議事記録
教務課員	原田 知子	議事記録
庶務会計課係長	河合 智幸	写真・音響

4 日 程

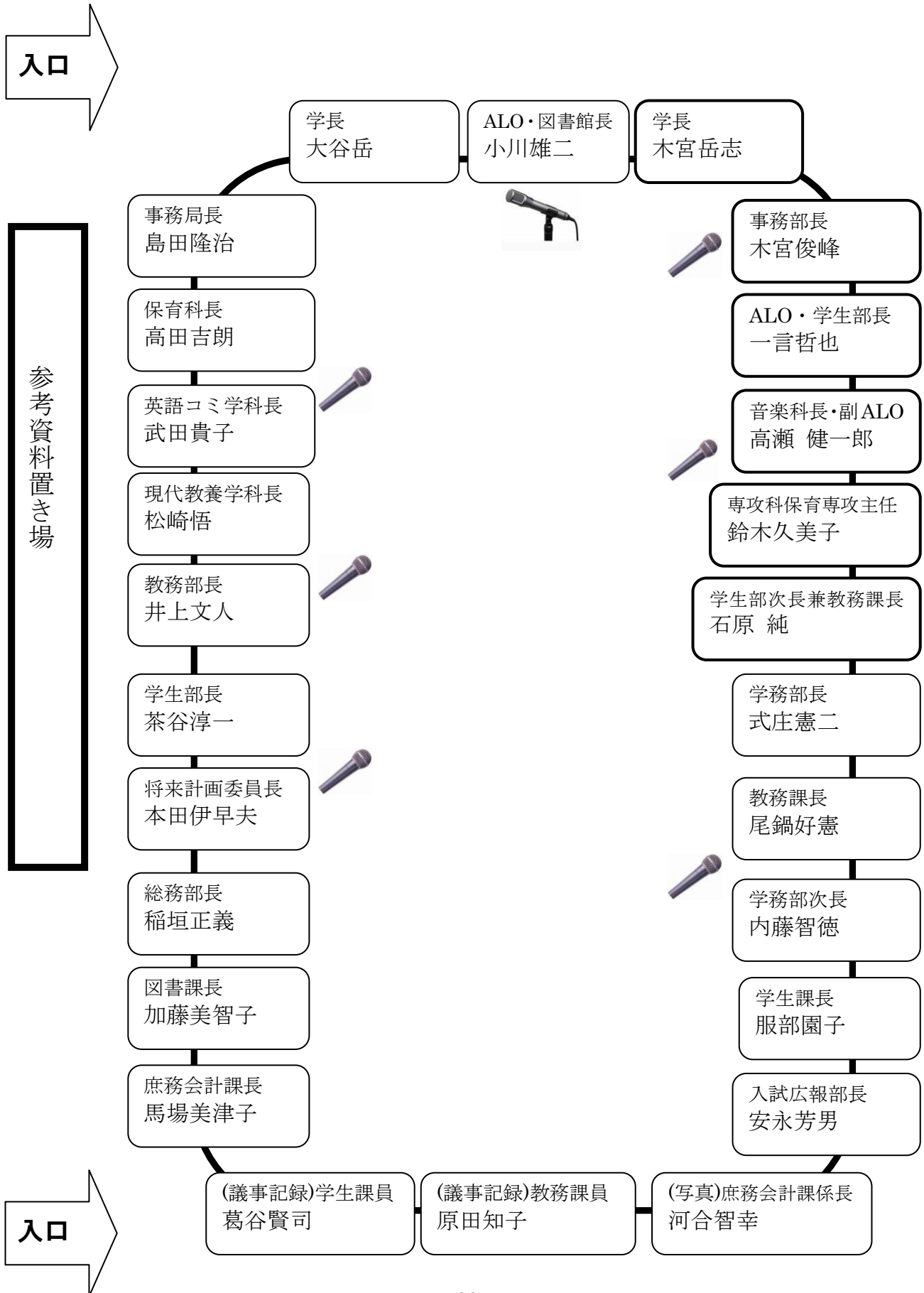
時間（所要時間）	内 容	場 所
10：00	常葉学園短期大学御一行到着	管理棟前
10：00～10：15（15）	挨拶会	学長室
10：15～11：45（90）	学内視察	キャンパス内各所
11：45～12：45（60）	昼食	小会議室
12：45～14：15（90）	相互評価会議①	大会議室
14：15～14：30（15）	休憩	
14：30～16：00（90）	相互評価会議②	
16：00～	懇談	学長室

5 詳細なスケジュール

時刻	内容と場所	出席者 ★は主な説明担当	準備に関するメモ
	<u>囲み</u> は省略の可能性あり	大谷学長・島田事務局長・稲垣総務部長・小川 ALO はすべてのスケジュールに同行	準備に関するメモ 部屋の鍵はすべて服部学生課長が準備し持参し同行する。
10:00	●お出迎え 管理棟前 ●懇談(15分) 学長室	大谷学長・島田事務局長・稲垣総務部長・小川 ALO 荷物は学長室にお預かりする	駐車場確保(管理棟前) お茶、名札
10:15	●学内視察(90分)		学内地図
	(1)管理棟 1階 就職資料室	★式庄学務部長	
	(2)学生会館 食堂・ラウンジ・ 売店・委員会室・同窓会 室・茶室	★内藤学務部次長 服部学生課長	
	(3)信長坂・ゴルフ練習 場・農園	★大谷学長	桶狭間の戦いの資料
	(4)駐車場・釜ヶ谷		
	(5)図書館 1階・2階	★加藤図書課長 小川図書館長	
	(6)チェリプラ 99 ラウンジ サークル室 ピアノレッスン室	★内藤学務部次長	
	(7)附属幼稚園	★附属幼稚園長	
	(8) <u>6号館</u>	★高田保育科長	

	(9) セミナーハウス (10) おみくじ階段 (11) 7号館 広報課 プレイルーム ESC (12) 体育館 (13) 5号館 (14) 管理棟 2階・3階、研究室など	★服部学生課長 内藤学務部次長 ★安永入試広報部長 ★馬場保育子育て研究所課長 ★武田英コミ学科長 ★服部学生課長 ★小川 ALO 学長室で荷物を お渡しして2階へ	
11:45	●昼食(90分) 小会議室	昼食は常葉6人+大谷学長・島田事務局長・小川 ALO の計9人とする。 残りメンバーは別途弁当を用意	昼食とお茶
12:45	●相互評価会議①(90分) ●学長挨拶 ●出席者自己紹介 ●名短自己点検・評価報告書についての質疑応答 I 建学の精神ほか II 教育の内容 III 教育の実施体制 IV 教育目標の達成度と教育の効果	司会は小川 ALO 会場校：大谷岳 学長 訪問校：木宮岳志 学長 評価委員9名 評価委員以外の出席メンバー ①大谷理事長 ②稲垣総務部長 ③式庄学務部長 ④安永入試広報部長 ⑤内藤学務部次長 ⑥馬場庶務会計課長 ⑦尾鍋教務課長 ⑧服部学生課長 ⑨加藤図書課長 ⑩葛谷学生課員(議事記録) ⑪原田教務課員(議事記録) ⑫河合庶務課係長(写真・音響) 資料不足の場合の対応担当者 ⑥馬場庶務会計課長	お茶(ペットボトル)
14:15	●休憩		コーヒーとケーキ
14:30	●相互評価会議② V 学生支援 VI 研究 VII 社会的活動 VIII 管理運営 IX 改革・改善		
16:00	会議終了 ①「相互評価一覧」 ②「相互評価報告書」 の作成について	両短大 ALO	お茶
16:30	●お見送り		
	片付け	庶務会計課	

6 相互評価会議（大会議室）席次表



8. (2) 交換資料一覧

常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	
事前交換資料			
1	平成 22 年度 自己点検・評価報告書	1	平成 19・20・21 年度 自己点検・評価報告書
2	平成 22・23 年度 学生募集要項	2	平成 23 年度 学生募集要項
3	常葉学園短期大学 2010 ライフデザイン・マガジン	3	平成 22 年度 大学案内 PlusMeitan2011
4	2010 学生生活ハンドブック	4	2010 年度 Campus Life Guide Meitan
相互評価会議当日配布資料			
質問 1	フレッシュマンキャンプの手引き(学生用) 研修センターゼミ実施要項	質問 1	専攻科保育専攻パンフレット
質問 2	「学科・専攻別プログラム」 ＝新年度科別ガイダンスについて (4/1 音楽科・科会資料) 「フレッシュマンキャンプ」 ＝フレッシュマンキャンプ実施要項教員用 (4 月教授会資料) 「研修センターゼミ」 ＝研修センターゼミ要項(1 月教授会資料) 「非常勤講師会」 ＝音楽科非常勤講師会実施要項 (4/1 音楽科・科会資料)	質問 4	非常勤講師担当学科一覧 専任教員担当授業一覧 履修の手引き
質問 3	短大運営協議会レジメ (平成 21 年度 3 月および平成 22 年度 6 月分)	質問 7	現代教養学科キャリアファイル I 現代教養学科キャリアファイル II
質問 4	学生生活ハンドブック		
質問 5	ライフデザイン総合セミナー授業計画のしおり 基礎力活用講座(手引き) (3 月教授会資料) ライフデザイン総合セミナー担当教員一覧 総合セミナー試行について (3 月教授会資料)	質問 1 2	海外保育実習 in オーストラリア募集チラシ 海外保育実習 in オーストラリア参加のしおり 英語コミュニケーション学科14週間海外留学実習プログラムパンフレット
質問 9	認定留学単位認定方法(案)	質問 1 7	卒業研究要約集

8. 相互評価会議(交換資料一覧)

常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	
質問 1 0	(音楽科) レッスン配当表 (声楽)	質問 2 1	受講のルール、秋のセミナーパンフレット 職業教養講座プログラム
質問 1 2	LCゼミナール、カフェ・ド・LC、職業と人生の概要、 企業説明会、キャリアアップ講座、 社会人準備講座の資料	質問 2 4	複数志望に関する併願者学力分布資料
質問 1 5	常葉短大卒業生の学習・仕事・生活に関する調査	質問 2 5	英語コミュニケーション学科セミナーパンフレット ハロー現代教養学科
質問 2 0	平成 22 年度橘香祭担当指導教職員(分担表)	質問 2 5	2009 年度・2010 年度サークル・委員会加入率 大学祭実行委員会との二者懇日程一覧 第47回名桜祭パンフレット 第47回名桜祭ちらし(学内地図入) 学生部ニュース 2007 年度学生支援 GP 採択についての資料
質問 2 7	子育て広場、子育て通信のプリント	質問 3 2	2010 年度公開講座募集チラシ
質問 2 9	平成 21 年度高大連携教育実施要項	質問 3 9	平成19年度外部評価報告書

8. (3) 第1回相互評価会議 一質疑応答の記録(議事録) 一

質問校	名古屋短期大学	回答校	常葉学園短期大学
-----	---------	-----	----------

評価領域			I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
1	建学の精神、教育、教育の理念について	7	各学科ガイダンス等において学科の教育目標と併せて周知とありますが、どのように周知しておられるかを具体的にご説明下さい。 配布資料: フレッシュマンキャンプの手引き(学生用)、研修センターゼミ実施要項 [追加質問] フレッシュマンキャンプ以外のガイダンスは行っていますか。	日文科: 教育理念の「より高きをめざす」が履修の基本方針の根幹であることを説明し、カリキュラム作成を通じて、各自の履修目的を認識させています。 英文科: 配布資料や Power Point を使いながら、主体的な英語学習(目標設定→学習法選択→実践→自己評価の繰り返し)が、ライフデザイン力(≒生きる力)に通ずることを示し、それに向けたカリキュラム編成がなされていることを説明しています。 保育科: 新入生対象のフレッシュマンキャンプにおいては、学長講話を受けて科長が科の教育目標等と併せて説明しています。またその他のガイダンスにおいても科長講話等で周知に努めています。 音楽科: フレッシュマンキャンプ中の科長講話で、学生生活ハンドブックを見ながら説明しています。3月の研修センターゼミ開講式でも、研修の意義と絡めながら、理念・目的を口頭で説明しています。 [追加説明] フレッシュマンキャンプ(4月:浜名湖2泊3日)にて、1日目学長より、2日目各学科長より講話をします。また研修センターゼミは2月後半～3月前半に各科ごと1泊で行いますが、ゼミ開講式を利用して各科長が講話をします。 年度当初の「入学オリエンテーション」は主に学生部からの事務連絡ですが、これに1日かけます。さらにガイダンスとして2日、そしてフレッシュマンキャンプとして2泊3日で行っています。
2	教育目的、教育目標の周知について	9	「学科・専攻別プログラム」、「フレッシュマンキャンプ」、「研修センターゼミ」、「非常勤講師会」で教育目的、教育目標の周知を図っておられますが、各行事について資料をもとに具体的にご説明	日文科: フレッシュマンキャンプで履修方法を説明する際、「自主独行」は「自由気まま」でなく、目的・整合性が必要とし、1年次での学習目標を「ストーリー」として説明できるようにレポートを書かせています。それを年度末のガイダンスでチェックし、2年次への修正を図っています。これによって好き・嫌いでの授業選択は

	<p>ください。また、これらの行事によって、教育目的・教育目標の周知が図られたかどうかについてどのように評価しておられますか。</p> <p>配布資料: 「学科・専攻別プログラム」=新年度科別ガイダンスについて(4/1 音楽科科会) 「フレッシュマンキャンプ」=フレッシュマンキャンプ実施要項教員用(4月教授会) 「研修センターゼミ」=研修センターゼミ要項(1月教授会) 「非常勤講師会」=音楽科非常勤講師会実施要項(4/1 音楽科科会)</p> <p>[追加質問] 非常勤講師会の開催場所はホテルですか。また会合のみですか。会食もありますか。</p> <p>[追加質問] 日文科の学習目標に「ストーリー</p>	<p>減少していると考えます。</p> <p>英文科:「学科・専攻別プログラム」、「フレッシュマンキャンプ」では、科の教育理念を各自がどのように具現化するかを、「履修・資格取得計画」の作成で確認させています。「研修センターゼミ」では、マインドマップによる自己分析やコミュニケーションゲームなどを行い、主体的にライフデザインを描こうとする気持ちを表現し確認する機会を設けています。</p> <p>保育科:各行事等における説明は「学生生活ハンドブック」を用いて説明しています。本科については、大多数の学生が保育や幼児教育の道に進み、保育者として社会で活躍していることを考えると、教育目的、目標の周知は図られていると考えています。</p> <p>音楽科:学科・専攻別プログラムでは、科長挨拶において口頭で伝えています。(フレッシュマンキャンプと研修センターゼミについては質問1と同じ) 非常勤講師会の音楽科分科会では、科長挨拶の中の「4.学生に伝えたこと」が、まさに音楽科の目的・目標の確認に当たり、伝達内容の共通化を図る中で先生方にも周知しています。周知が図られたかどうかの評価は、特に行っていません。<参考資料あり></p> <p>[追加説明] 音楽科:1日、新入生、2年生、専攻科の学生、さらに、非常勤講師に対して行います。学生には学生ハンドブックを持参させて、教育理念を記載した部分を読ませながら説明します。同日の非常勤講師会にて非常勤講師に伝える場合は、学生に伝えたことを先生方に伝えて理解していただき、専任教員との理念の共有をしています。</p> <p>全体会はホテルで4月に行います。前半は会合、後半は懇親会です。その他各科で行う非常勤講師会は開催時期が異なります。保育科は3月に、音楽科は全体会と同日に実施し、日文科、英文科は行っていません。</p> <p>保育科:3月に本学で行います。会合のみで、全体説明をしたあと、福祉、保育教育、心理、健康・医療、表現(音楽・美術)など分野に分かれて行います。</p> <p>日文科:授業を選択するときに、コアになる部分と枝葉になる部分がありますが、コアの部分はいくつか選択</p>
--	---	---

			化させる」とありますが、どのようなことですか。	することによって、展開が発生する。例えば、ABCと並べた場合と、BCAと並べた場合は、重要度が変わってきます。目標にたどり着くための道筋は一人ずつ異なります。1年次ではどんな授業を選択し、その選択した授業内容から、どんな自分になっていくのかを探っていき、それを「ストーリー」にしてまとめます。そして、1年後(2年生に進級する頃)、1年次で修得した科目と2年次に向けた目標が変わっているかもしれませんので、研修センターゼミ(2月後半)で第2版としてストーリーを改訂するという作業をしていきます。
3	定期的な点検等について	10	<p>「教育目標」を達成するために、短大運営協議会で議論されておられますが、どのような議論がされたのかを教えてください。</p> <p>配布資料: 平成21年度3月及び平成22年度6月の短大運営協議会レジメ</p> <p>[追加質問] 何年くらい行っていますか、このことが成果に結びついていますか。</p>	<p>この協議会は、例年5月頃と3月に開催されます。各部署(科・課・室など)から「課題と目標」が提出され、これに基づき、前半は資料説明、後半は質疑応答・協議が行われます。各科からの資料には、学生募集の目標数や方針、学科教育に関する諸事項、学生指導に関する方針や課題などがあげられます。</p> <p>3月には、5月に示した「課題と目標」の項目毎に達成度を踏まえて報告があります。教育目標の達成という視点で言えば、例えば、カリキュラム見直し、授業展開における課題解決、学生指導の成果などが、当初の目標と比べてどの程度達成できたかという反省があり、次年度の「課題と目標」に盛り込まれます。</p> <p><参考資料あり></p> <p>目標を立てて、それについて反省をする現在のスタイルになったのは平成16年からです。それまではその年の反省のみを年に1度行っていました。成果については、数値で示すのはなかなか難しいですが、このような機会を設けて、区切りを付けているということです。</p>
4	定期的な点検等について	10	<p>「建学の精神の解釈の見直し」を行われたことは、最近ありましたか。あれば、その議事録等をもとにご説明下さい。</p> <p>参考資料: 常葉学園規定集、平成20年1月教授会議事録</p> <p>配布資料: 学生生活ハンドブック</p>	<p>本学園の「建学の精神」は、常葉学園規程集の第6編「学則・園則」の各学校の学則等の直前に示されていますが、学園傘下の全学校に共通する精神として位置づけられています。従って、例えば本学が独自にその文言を改訂するというものではなく、学園本部での規程集改訂等の協議の中で行われるものです。</p> <p>しかし、その解釈については、報告書にも記述したように、社会情勢や本学の特徴等を考慮して変わるものであり、それは各学科の目的として具体化されています。現在のものは、平成20年1月の教授会を経て、</p>

8. 相互評価会議(第1回)

評価領域			II 教育の内容	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
5	教養教育の取組み	26	<p>すべての科で必修になっている「ライフデザイン総合セミナー」の具体的な運営方法と、その前提となっている「ライフデザイン」という考え方についてご説明下さい。</p> <p>参考資料: 授業内容ガイドブック</p> <p>配布資料: ライフデザイン総合セミナー授業計画のしおり、基礎力活用講座(手引き)(3月教授会)(→ 報告書<参考資料II-1>)、ライフデザイン総合セミナー担当教員一覧、総合セミナー一試行について(3月教授会)</p>	<p>平成20年度から学則の第1章総則第1条2項に明示してあります。<参考資料あり></p> <p>「ライフデザイン総合セミナー」の具体的な運営方法については、参考資料をご参照願います。「ライフデザイン」とは和製英語ですが、仮に訳すなら「人生設計」とも「生活設計」とも言い換えることが出来ます。中・長期的な目的に向かって着々と努力を積み重ねていくと同時に、日々の生活に主体的に関わり、常に自分の生き方・方向性を見つめなおしていく姿勢を持ってほしいという願いを込めた言葉が「ライフデザイン」であり、学生が社会の動静や自身の環境の変化に柔軟に(しなやかに)対応し、長い人生を強く(したたかに)生き抜いていける力を身に付けさせることが、本学のライフデザイン教育です。<参考資料あり></p> <p>[追加説明] 1年生のクラスは4学科混合とし、1クラス17~18人編成で教員を配置しています。内容は「授業内容ガイドブック」に記載の通り、基礎力活用講座として「相互理解」や「ノートテイキング」など各テーマに沿って展開しています。2年生は後期に「社会人準備講座」として、学科混合で5グループに分け、社会人として必要な講座(お茶の入れ方、カラーコーディネート、お金の仕組みなど)を展開しています。</p> <p>総合セミナーと称していた授業科目を「ライフデザイン」という言葉をつけて、新たにスタートさせました。最近の学生の学力低下も大変問題になっていますが、それよりも主体性、社会性の低下が非常に気になっています。このことは社会に巣立ってから問題となってくることで、実際に就職しても長続きしない学生が存在していることは事実です。学力低下より、どちらかといえれば、ライフデザイン力の向上に力を入れていかなくてはならないと認識しています。まだ始めたばかりで試行錯誤を重ねています。学科混合クラスであることに戸惑いもあります。それを一人の教員がゼミ形式で担当するという事は、教員の教育力を高めることが必要不可欠となります。これからの本学の大きな課題であり、これを成功させるために、われわれはますます精</p>

			<p>進しなければいけないと感じています。</p> <p>基礎力活用講座は昨年「試行プログラム」として始め、今年度少し改良を加えました。さらに来年度に向けて改良を加えるべく改訂作業を始めるところです。また、このような二年制大学での講座は、四年制大学の初年次教育とは、基本的な部分で少し異なるものがあると認識しています。</p> <p>昨年の「総合セミナー」は試行プログラムでした。コンセプトは変わりませんが、若干の改良を加えて「ライフデザイン総合セミナー」と科目名称を変更しました。なお、一昨年までの「総合セミナー」の内容は、学校行事中心で、各行事への参加に対して行事ごとに配点を設けていました。</p> <p>それについては、今後検討すべき大きな課題です。各学科のライフデザインは大きく異なっていますので、それをどのように乗り越えるかは重要な課題で、まさに試行錯誤しているところです。</p> <p>担任が評価します。優良可の評価はせず「認定」という評価をしています。基本的に参加すれば認定となります。</p> <p>宿泊を伴う「研修センターゼミ」などは、休んだ学生に対し補講を行うなどの対応をしています。</p> <p>共通テキストは使用していません。</p> <p>授業の内容は、専門性が高い内容を教えるというよりは、社会人として基本的に身につけておくべきことを、きちんと教えるということを第一目標としています。教員であれば誰でも教えられるような内容ですので、いまのところ担当教員に対して研修会を行ったことはありません。担当教員へは参考資料として「ガイドライン」のみを示し、あとは教員の得意分野を活かしつつ展開してもらっています。なお、図書館には参考になるような書籍を何冊か入れてあり、必要な時に利用できるようにしています。共通テキストについては、提案という形でガイドラインを配布しましたが、賛否両論ありましたので、今年度も共通テキスト等は使用しないで行っています。</p>
6	専門教育の内容	27 4)の 保育科	<p>[追加質問] ライフデザインという考え方は以前からお持ちだったと思いますが、「総合セミナー」から「ライフデザイン総合セミナー」に変更して、具体的な内容に違いがありますか。</p> <p>[追加質問] 各学科のライフデザインは異なっていると思いますが、どのように対応していますか。</p> <p>[追加質問] 評価はだれがどのように付けていますか。また、欠席してしまった場合は、どのように対応していますか。</p> <p>[追加質問] 指導教員の力量をどのように標準化するために、共通のテキストを作成または使用していますか。</p> <p>「各教科の授業内で基礎学力向上の工夫を行っている」とのこと</p> <p>読解力、文章表現力、発表力等の向上を図るため、各授業でレポート提出、グループ討議や発表等を積</p>

8. 相互評価会議(第1回)

			ですが、その工夫の内容についてご説明下さい。	極的に取り入れるとともに、毎時間小レポートを提出させるなどの工夫をしています。
7	学業への意欲	32 1)の 日文科	「学力的資質の低下は事実だが、それと学習意欲の減退は比例していない」とありますが、この点についての考えを更に詳しくお教え下さい。	入学者のいわゆるペーパー試験での成績や調査書、高校の偏差値などにおいて、低下しています。しかし、学びの目標や方法は個々人に合わせて設定できることが理解され、自己に合わせた方針を見つけられます。図書館関係科目や児童文学関連などの課題や作品提出でこちらの要求以上の成果を見ることがあります。また、クラブ・サークルや学科の活動でも能力が発揮できる機会を提供するようにしています。
8	教員間の意志の疎通や協力体制	34 1)の 学内 全体	「必要に応じて教養教育主任がまとめ役となって会議を実施」とありますが、各学科に所属している教員による教養教育の運営方法についてお教え下さい。 [追加質問] 「ライフデザイン総合セミナー」は教養教育に位置付けされていると思いますが、教養教育担当の教員の意見などはどのように反映されていますか。	本学では伝統的に「教養教育」という「くくり」で教員を配置し、そこに所属する教員が定例会議を開き、カリキュラム改訂・非常勤選定・時間割編成等を行っています。平成23年度からはこの配置を廃し、教務委員会や教務課と連携しながら、教養教育科目に関わる業務を行う予定です。 この内容については、総合セミナー委員会がとりまとめています。教養教育担当教員も含まれています。現在は、教養教育担当教員が主体で検討するというより、総合セミナーを担当する委員会で協議するという体制になっています。
9	海外研修制度について	36	英語英文科の「認定留学」について、単位はどのように認定されているのか、どのようにして二年で卒業できるようになっているのかについて詳しく教えてください。 配布資料: 認定留学単位認定方法(案)	提携校から提供される成績表等により、受講時間数、受講状況が基準を満たせば「海外長期留学A(3単位)」「海外長期留学B(3単位)」「海外長期留学C(6単位)」など、最大15単位が認められることになっています。

評価領域

Ⅲ 教育の実施体制

質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
10	その他の教育研究上の業務について	41 (d)の 記述	科によって異なるクラス担任制について詳しく教えてください。	クラス担任制は全科同じです。クラス担任による学生への学修・生活等全般的な指導・助言が基本となり、報告書にある科毎の記述は、この担任制に加えた指導・助言のための体制です。 日文科:入学時より卒業までを一人の教員が担任として指導助言しています。「オフィスアワー」は科の専任教員が全て特定の時間に研究室に在室し、担任だけ

			<p>でなくいろいろな教員と話す機会を設けたものです。</p> <p>英文科: 担任は入学時の教育理念の周知、履修指導に始まり、短大生活全般に関する相談窓口となっています。個人面談(前・後期各1回)、大学祭模擬店出典・クラスイベントへの協力、進路支援など、学生が気軽に日常的に研究室に立ち寄れる雰囲気は保たれています。「Class Time」はクラス全員が集まって、担任からの連絡や話し合いに使える時間を不定期で設定したものです。</p> <p>保育科: 保育科は各学年6クラス(1クラス35～37名)編成をし、演習系の科目はクラス単位の授業となります。年2回程度の全員面接と個別面談を通じ学生生活から進路まで個別的に支援をしています。</p> <p>音楽科: 本学科では、1学年を2クラスに分け、一人の担任が20～25名を担当します。この規模は、十分な個別対応にはぎりぎりの限度と考えます。業務は、出席・成績など修学状況及び進路状況の把握です。担任は学生の相談相手として最初の窓口となりますが、音楽科では楽器の個人指導をする実技指導担当教員がおり、特に進路についてはその専門性などの特質から実技指導教員に相談するケースが多く見受けられます。</p> <p>[追加説明] 日文科のオフィスアワーは平成20年度まで行っていました。また、本学では毎週火曜3限目にST(Student Time)という時間を全科共通で設けており、そのSTの時間の一部を、英文科では「Class Time」として利用しています。</p> <p>音楽科は専門性が高い学科ですので、クラス担任の他に、個人レッスン(実技指導)を受ける教員との結び付きも強くなります。学生は、専門に特化した進路指導を受けたい場合には個人レッスンの指導教員に、その他一般企業などへの就職相談や、履修に関する指導を受けたい場合にはクラス担任に、というように使い分けています。</p>
		<p>参考資料: 「(日)オフィスアワー」 「(英)ClassTime」「(保)実習事前指導」=学生生活ハンドブック</p> <p>配布資料: (音楽科) レッスン配当表 (声楽)</p>	
11	障害者の対応について	46	<p>今後のバリアフリー化のプランについて、教えてください。</p> <p>本学の校舎は、昭和40年代に建築したものが多く残っています。このため、耐震化の方が大きな問題として捉えています。学園全体の校舎建て替え計画では、本学よりもさらに古い高等学校2校の建て替え後</p>

8. 相互評価会議(第1回)

				<p>に本学の建て替えが行われる計画で、その時に必然的にバリアフリー化になると考えています。</p>
12	ライフデザインセンターについて	50	<p>ライフデザインセンターの実際的な活動について詳しく教えてください。</p> <p>配布資料: LCゼミナール、カフェ・ド・LC、職業と人生の概要、企業説明会、キャリアアップ講座、社会人準備講座</p>	<p>当センターは、単に就職指導だけでなく、学生が自分の進路や生き方を切り開く力を身につけるための教育も担う組織として開設されました。このために、在学中の早期から、ライフデザイン力を育む講座や進路意識を醸成させる授業「職業と人生」等を実施してきました。<参考資料あり> その後、就職支援に特化した部署と全学的なライフデザイン教育を構築するための協議会に分かれ、後者では将来を見据えた学生の教育・育成や建学の精神の具現化のためにどのような科目を立てるか、学科編制をどうするか等々、本学の将来も展望する様々な議論が行われました。そして今年度からは、同協議会は学長の諮問機関としての位置づけに変わり、与えられた課題に対し答申を行っています。</p> <p>[追加説明] ライフデザインセンターは、単に就職進路指導だけでなく、ライフデザイン教育全体を担うという幅広いコンセプトで始まりましたが、その後就職進路指導については進路支援室で、ライフデザイン教育についてはLC推進運営協議会で担当すべく2つに分かれました。LC推進運営協議会は本学教職員幹部で構成され、ライフデザイン教育をどのように推進するか、例えば教養教育の在り方、各科のカリキュラムの協議などを行いました。さらに今年度からは諮問機関に変わりました。</p> <p>進路支援室の目的は、就職させることだけでなく、生きていく力(＝ライフデザイン力)を養うことだと考えています。当センターはLC(Life-Design Center)と呼んでいます。LCゼミナール(1年前期)はこれからの自分の人生を考えてみようという主旨の講座です。カフェ・ド・LCは、昼休みにテラスを利用して、学科や学年関係なく、お茶を飲みながら語らう場となっています。「職業と人生」という授業科目の中で、各業界の方を招いて仕事のことについて話を聞く機会を設けていますが、「人生を考えてみよう」という視点も含めて講話をしていただいています。さらにこの科目では「大人と話してみよう」をテーマに、人事担当者の方を招いて、大</p>

				<p>人と話す機会を学生に与えつつ、会社や仕事のことを理解できるようにしています。キャリアアップ講座(1年後期)は、就職を意識した講座です。社会人準備講座は、内定後卒業するまでに社会人として身につけておくという良い内容を盛り込んでいます。(杉山)</p> <p>LC 推進運営協議会は、昨年まで教職員幹部で構成されていましたが、今年度はむしろ若い世代の方に参加してもらい、学長の諮問に答申する形式に変更しました。教職員全員のコンセンサスを高めるため、教職協働で柔軟な発想をしていくため、このような形式に変更しました。今年度は第1の検討テーマ「本学はどのようなライフスキルをどのように学生に身につけさせるか」の諮問に対し7月31日答申を受けました。それを踏まえ第2の検討テーマ「学生のライフスキルの開発に教員と事務職員はどのような役割を担うか」の諮問に対して12月31日までに答申をお願いしているところです。このようにして受けた答申を、各学科や各課・室に持ち帰り、できるところから実行に移していく予定です。</p> <p>この授業は進路支援委員会が担当しています。委員会には各学科から選出された教員が所属していますが、その中で、各回の授業を主に担当する教員の所属学科を示す言葉として「担当学科」を使用しています。</p> <p>その年度により参加者人数の増減はありますが、グループワーク形式で行うため、人数を制限しました。</p>
			<p>[追加質問] 「職業と人生」に担当学科と記載がありますが、これは何を意味していますか。</p> <p>[追加質問] キャリアアップ講座の参加者は20名強ですが、全体の学生数からすると少ないように思いますが。</p>	
評価領域			IV教育の達成度と教育の効果	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
13	授業に対する学生の満足度	65 66	満足度調査の結果を教員に返し、教員からコメントを提出させているとのことですが、その後はどのようにされていますか。また満足度調査及びコメントの学生への公開はどうなっていますか。また、「どの学科も90%の満足	コメントに記されたことが実際に行われているかは確認していません。ただし、満足度の向上が見られない教員についての助言システム、あるいはアンケート項目の精査、そして学生からの聞き取りを行うべきかと検討しているところです。学生への公開は行っていません。これも行うべきと考えています。時期、質問項目等は、参考資料をご覧ください。<参考資料あり>

8. 相互評価会議(第1回)

			<p>度」とのことですが、満足度調査の時期、質問項目、結果等も教えてください。</p> <p>参考資料: 学生の満足度調査 (→ 報告書<参考資料IV-1>)</p>	<p>[追加説明] 前・後期最後の授業で各1回、年2回実施します。質問数は12項目で、総合的判断を問う質問1つを入れて合計13項目です。この他に、授業を選んだ理由や所属学科がわかるような質問項目があります。方法は、授業中に教員が質問紙(マークシート)を配布・回収し、集計担当部署(教務課)へ提出します。5~6年ほど前から比べると、満足度85~90%で固定化されつつあります。分析してみると、最終的に本学の学生はあまりにも大人し過ぎるのではないかという結果が出ています。結果を公表しなくてはと考えていますが、なかなかできないのが現状です。来年度以降、新しい方策を検討しようと考えています。</p>
14	退学理由とその人数	68	<p>H19~H21で退学者が23人から9人に激減しています。どのような対策をとられたのかを教えてください。</p>	<p>何よりも各学科での細やかな指導が主因と考えています。併せて、学生相談室のカウンセラーを常駐にしたこと(平成20年度から開室日を週2日から5日に増加)が大きい効果をもたらしたと思います。担任がカウンセラーとの情報交換により、学生への対応を共通化出来るようになりました。さらに、孤立していた学生が居場所や新しい友人を見つけられ、退学を予防することに繋がったと思われます。</p> <p>[追加説明] 本学では担任制できめ細かな指導を実施していますが、平成20年度からのカウンセラー配置も大きな一因かと思えます。相談室で一緒にお弁当を食べたり、時間を過ごしたりする中で知り合いができるなど、相談室が新たな人間関係のきっかけの場になっているという報告もされています。</p> <p>日文科:以前1割の学生が退学していました。日文科は男性で年輩の教員が多いため、先生とは話しにくいと感じる学生がいるようでした。入学生の減少に伴い、教員の目が行き届くようになったこと、教員とは話しにくくても、学生相談室の先生となら気楽に話すことができる環境ができたことが大きな要因ではないかと考えます。一人で過ごすことには慣れているが、新しい友人関係をつくるのが苦手な学生が駆け込む場所として相談室が存在しています。学生相談室と教員が情報交換しながら、学生の動きを把握しています。人前でお弁当が食べられない、一人の居場所を作って与</p>

			<p>[追加質問] 担任と他の教員との連携はどのようにしていますか。(松崎)</p>	<p>えてやらないといけない学生がいることも事実です。そのような学生のケアを考えると、学生相談室のカウンセラー配置は週5日2人体制にならないかと思案しているところ です。</p> <p>毎週ないし月3回ほど開催している学科会議、それ以外でも教員が集うことが多い学科共同研究室で、情報交換が行われています。また、学生の欠席数については、前・後期それぞれ開始1カ月後、教務課で授業担当教員に調査をし、状況を把握し先生方に伝えています。</p>
15	卒業生に対して「学生時代のアンケート」等	75	<p>卒業生アンケートは卒業後1年目だけですか。又、アンケート結果は学科教育にどのように反映しておられますか。</p> <p>参考資料: 卒業生アンケート調査票等(平成20・21年度版)(→ 報告書<参考資料IV-2>)</p> <p>配布資料: 常葉短大卒業生の学習・仕事・生活に関する調査</p>	<p>はい。毎年、秋の大学祭の頃、卒業1年目の同窓生を対象に日・英・保の3科では「卒業生の集い」を実施し、そこでアンケートをとります。結果については、平成19年度の自己点検・評価報告書に掲載しましたが、その後は今回の報告書まで学内報告をしていません。従って、その結果を教養教育や学科の専門教育に反映させるという点では、不十分な状況にあります。<参考資料あり></p> <p>[追加説明] 6年ほど前に九州の8つの短大が卒業生アンケートを始め、その中間報告研修会に参加したのが発端です。平成16年から始めて、平成19年度の認証評価用報告書の中で1回目の報告をしました。その後も調査はしていますが、そのデータを有効活用していません。今後は、各学科の教育や本学のキャリア教育等に活かすよう検討したいと思います。</p>
16	短期大学全体に対する学長の認識	77 A) 学長認識	<p>地域懇談会の参加者、回数、懇談内容等について詳しく教えてください。</p> <p>参考資料: 地域懇談会ファイル</p>	<p>学生の安全確保や本学の地域貢献への理解を目的に、本学周辺の2つの学区の町内会の役員(6名)とこの地域を地盤とする市議会議員(1名)を招き、学生の通学、下宿、大学祭、地域活動などや本学の地域貢献活動などについて情報交換、意見交換を、毎年6月と11月(大学祭当日)の2回行っています。</p> <p>本学からの参加者は、学長、学生部長、事務部長、事務部次長、学生課長、公開講座・地域支援プロジェクト委員長の6名です。</p> <p>[追加説明] 平成9年から行っております。地元の方々に学生の様々な状況をご理解いただき、また逆に地元の方から学生の情報をお聞きして、トラブルのないように学生が</p>

8. 相互評価会議(第1回)

評価領域			V 学生支援	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
				安全に安心して暮らせるように情報交換しています。
17	入試委員会の権限と各学科における判定への関与について	79 80	入試委員会は広報戦略・入試戦略などの基本方針の決定だけでなく、事実上、判定会議として実際の判定に関して最終的な権限を持っているように思われます。実際に各科の判定と入試委員会の意志とが相違する場合もありますか。もしあるとすれば、そうした場合の調整はどのようになされているのですか。	現状では、各入試当日にまず学科毎の合否判定会議を行い、それに続いて全体の「判定会」を行います。ここで学科の合否案と異なる意見が出ることは稀ですが、仮に出た場合は全体の判定会の決議が優先します。そして、その合否結果は直近の教授会で数字のみが「報告」されます。ただ、この「判定会」はこれまでの慣例で招集されていて、必ずしも「入試委員会」とは位置付けられていません。出席メンバーも入試委員会の委員がかなり重複はしますが、完全に一致していません。今後検討し修正が必要な事項だと考えます。(なお、学内の委員会運営規程では、入学者の選抜は入試委員会の担当事項になっています。)
18	入学前指導について	80 81	入学前指導について、各科ごとに対象や充実度が異なるように思われます。各科の入学前指導についての基本的な考え方、指導の成果について教えてください。	<p>日文科: 高校での授業や教育が先にあると考えますので、1 月後半までは積極的なかわりを行わず、行事案内で、短大教育の中身を知ってもらうことにしています。具体的には大学祭、卒業研究発表会・春の体験ツアーなどで、在学生と懇談を通じて、数年後の目標の発見につながるかと考えています。参加した学生たちは入学時に余裕があるように感じられます。</p> <p>英文科: 入学前から英語及び英語圏の文化への興味関心を高めることが大切だと考え、自主的に学べる教材、著書、教育系 TV 番組などを紹介し、実践状況を記録し、入学時に提出させています。入学後の提出状況は良好で、それなりの成果を得ています。</p> <p>保育科: 保育科では入学までに 3 つの課題を全員に課すとともに、ピアレッスンを希望者に対して行っています。これによって、ピアノが苦手な学生は入学前から自らの課題を認識しながら準備ができます。なお、本年度は 3 月に全員を来校させ課題の進捗状況の確認とピアノの初心者に対しては 2 回目のレッスンを行うことにしています。</p> <p>音楽科: 体験入試合格者を事前指導の対象とするのは、入試時期が早く合格から入学までの間に実力の低下を招きかねないことと、この入試を選択する者にレベル向上を図る必要のある場合が比較的多いからです。実力を伴う者については早く大学レベルの指導</p>

			<p>に触れてその能力の更なる向上を図ること、そうでない者は入学までに能力向上を図り、4月からの学校生活を円滑にスタートさせることが目的です。なお、派生的な効果として雰囲気や環境に早く慣れることで友達作りができ、心理的余裕を持って新生活を始められることも実感として認められます。</p> <p>課題ですが、(1) 近くの幼稚園・保育園・施設などについて詳しく調べること、(2) 自分の目標を立てて、ピアノを練習すること、(3) 子どもや家庭に関するニュースや新聞記事の感想を書くことの3つです。これは年明けの一般入試とセンター利用入試の合格者も含め実施しています。また、昨年度まではピアノが苦手な合格者の中で希望者には12月に個別レッスンをしていたが、今年度から希望者ではなく、ピアノに自信がないと感じている合格者を対象(約50名)に11月と3月に個別レッスンを行うことにしました。これはレッスンへの意識付けと苦手意識の克服のためです。さらに、入学予定者全員(一般入試後期日程を除く)を対象に入学前(3月)に来校してもらい、先ほど説明した課題を確認し合うなどの準備教育を実施する予定です。近年入学後の成績が伸び悩む学生が多く見られるため、学ぶことへの意識付けにより、そのような学生を減らすことが目的です。</p>
19	体験入学試験について	81	<p>体験入学試験の日程、進め方、判定方法、入学者数について詳しく教えてください。</p> <p>参考資料：募集要項</p>

		<p>【追加質問】 学位取得コースについて、希望率、合格率あるいは静岡県内で四年制大学と同等の認識になっているのかなど教えてください。</p>	<p>【追加説明】 保育科: 本番の試験前、8月または9月に体験授業と個別面談を受けます。体験授業(ことば、音楽、美術、体育)を受けるには、エントリーシートに「高校時代に継続して行ってきたことを通して、自分が得たものや自分がどのように成長したか」などを記入してもらいます。個別面談は面接試験ではありませんので、受験生からの質問を中心に進めます。そして体験入試出願の際に体験授業と個別面談を受けた証明書を添付してもらいます。実際の入試では15分程度の面接(教員2名)を行います。 音楽科: 入試内容は理論と実技です。8月に受験講習会として模擬的な入学試験を受けることができます。そこで認定されれば当日の入試が免除されます。音楽科の場合には3つのコースから選択します。このコースは難易度で分かれていますので、8月に自分の希望するコースに合格できなくても、当日の入試の時に再挑戦できます。その際、8月の認定結果を生かしたまま、上位レベルのコースにチャレンジすることが可能です。また2月～3月に実技レッスン、ソルフェージュ(基礎技能訓練)をほぼ全員が受講しています。ただし県外受験生に対しては、実技レッスンは学生の都合に合わせて日程調整します。またソルフェージュ実施日は本学修了生の演奏会と同日に設定し、学生が演奏に触れることができるように配慮します。 このコースは日、保、音の3科の入試で実施し、一定基準をクリアすれば合格となります。他短大からの受け入れはありません。受験生のうちのどのくらいがこのコースを希望しているのか、ここでは数値が手元にないで、わかりません。 保育科: 専攻科への進学は本科保育科在籍数の1割程度で減少傾向です。本科卒業の時点で就職が決まってしまうと、学位取得コースを希望していても、実際には専攻科へ進学はしません。四年制大学へ進学する学生が増えていることも一因かと思えます。一部の幼稚園では四年制大学卒業生の求人もありますが、静岡県内は短大卒業生の求人がほとんどですし、歴史の長い本学は、現場から「常葉短大の卒業生なら・・・」と認められ、受け入れ状態は良好です。</p>
--	--	--	---

			<p>[追加質問]</p> <p>日文科と英文科は、体験入試試験日に授業も行い、試験も行うということでしょうか。</p>	<p>音楽科: 県内に音楽科をもつ四年制大学がなく、四年制大学に行きたいけれども、経済的に県外に出ることができない学生もいるため、本科音楽科卒業生の半数が専攻科に進学し、学位を取得しています。</p> <p>日文科・英文科: 体験授業を受け、その授業について、感想文を書いたり、授業内で発表したりする、ということを通じた適性検査としてとらえていただけてよしいかと思えます。日文科は、英文科と比べると当日の試験内容が多いかもしれません。この体験授業については、オープンキャンパスで模擬授業を行い、どんな授業なのか何度も示していますので、受験生にはどの程度のものかは周知されていると認識しています。</p>
20	大学祭支援プロジェクトについて	83	<p>大学祭支援プロジェクトを設置された理由と具体的な活動内容、及びその効果について教えてください。</p> <p>配布資料: 平成22年度橘香祭担当指導教職員(分担表)</p>	<p>大学祭は学生委員会の担当でしたが、学生の質の変化の中で大学祭の活性化・多様化が課題となり、企画・運営に関して、より実効的・日常的な支援をするという目的に特化した「プロジェクト」を設置しました。業務は準備段階から当日までの日程作成、テーマ・展示・模擬店の募集選定、パンフ作成、広報などで、平成21年度は5～9月に月1回、10～11月に週1回(計12回)のペースで、学生実行委員とプロジェクトの教職員が合同会議を行いました。今年度は、委員の学生36名とプロジェクトの教職員8名が活動し、この経験から委員の学生が成長する様子が見られる一方で、委員の一部の科への偏りや年度による学生のやる気の差などが課題となっています。学生自身の企画力・実行力が低下する中、今後は地域住民との連携など、模擬店中心からより幅の広い企画を考える必要があると思われれます。</p>
評価領域			VI 研究	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
21	科学研究費補助金の申請について	98	<p>科学研究費補助金の申請・採択のために短大として努力しておられることはありますか。</p>	<p>科学研究費補助金の公募要領が届いた時点で、全教員にその概要を案内しています。この案内に対して問合せのある教員にはさらに詳しく説明をし、申請の手伝いをしています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>毎年2件ほど申請しています。</p>
22	研修日の確保について	99	<p>一部の役職者を除いて、全員が研修日を2日確保しておられますが、公務、時間割編成、学生</p>	<p>研修日は、平日の1日と土曜日の2日間を認めています。また、平日のどの日を研修日として認めるかは、本人の希望だけで決めずに、時間割の都合を見ながら</p>

8. 相互評価会議(第1回)

			サービスとの関係で支障は生じておられませんか。	調整して決めます。また、公務は研修日以外の日にも事前の手続きを経ていれば認めています。いずれにしても、教育と研究・社会貢献とのバランスをとることが重要であり、この視点からみて大きな支障はありません。 [追加説明] 毎週火曜及び水曜は全教員出勤日となっていますので、この曜日に委員会や学科会議などを行っています。
23	研究時間の確保について	99	会議の時間を原則として90分以内にする取り組みは、具体的にどのように申し合わせておられますか。効果はありますか。	学長が、第2回科長会(4/27実施)において、業務の円滑な遂行と研究時間の確保の観点から、科長会の所要時間を原則90分以内、最長でも2時間という方針を示し、コンセンサスを得ました。また、その他の会議でも同じ要領で運営することで確認されました。しかし、長年の習慣と課題が非常に多いことから、改善は不十分といわざるを得ませんが、少しずつ教職員の意識は変化しつつあります。 [追加説明] 科長会など実践が難しい会議もありますが、短縮に努め、他の業務に時間を充てようという意識が概ね根付き始めていると感じています。
24	研究の奨励について	100	木宮乾峰学術文化振興賞の内容と選考基準について教えてください。 参考資料: 木宮乾峰学術文化振興賞運営規程	本学第2代学長木宮乾峰先生からの寄付金5,000千円を基金とし、本学教員を対象に、①全国的なレベルの学会・学術団体等からその成果が認められて高く評価された者、②学術・教育・芸術の分野において極めて高い社会的評価を得た者、③博士の学位を取得した者、等を選考基準にし、平成8年度に創設しました。受賞者には、年度末の教授会で表彰状と副賞250千円が贈られることになっています。なお、該当者がいない年度もあり、過去14年間で8名が受賞しています。
評価領域			Ⅶ 社会的活動	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
25	公開講座「シトラスセミナー」について	101	教養講座の受講者はあまり多いとは思えませんが、今後の受講者を増やすための工夫は考えておられますか。受講者への修了証発行や図書館利用などのサービスを受けられるといったこと	現在、「公開講座・地域支援プロジェクト」において、講座の受講者を増やすため、主に本学周辺地域を中心にアンケートを取り、講座内容を検討する方向で話し合っています。さらに、宣伝範囲の半径を広げ、静岡市全域を対象とするよう検討中です。また、図書館利用については既に一般開放をしていますが、講座

			は考えられないでしょうか。	<p>受講者にもより利用しやすい環境にする方法を、今後も考えていきたいと思います。</p> <p>[追加説明]</p> <p>実技形式は参加者が多いが、講義形式は集客が難しいという傾向があるようです。本学の教員も数が限られておりますので、各専門研究分野に基づくテーマで開講しますと、次第に繰り返しとなり、既に聞いた講座として参加者が募れないことや、いろいろなところで公開講座が開講されていますので、新鮮味がなくなっているのかもしれませんが。常葉学園では、3 大学 1 短大持ち回りで、毎年開催している文化講演会があり、来年度は本学が担当校となりますので、これとの連携も含めシリーズ化を構想しています。</p> <p>図書館は3～4年前から一般公開し、地域の方、子供たちが絵本を利用する姿を見かけることもあります。特に受講者に限ったサービスということはありません。</p>
26	「夏期ゼミナール」について	101 102	毎年現職の保育者を対象に開催されるということですが、卒業生支援の意味も強いのでしょうか。参加者に占める卒業生と他大学の卒業保育者の割合について教えて下さい。	<p>当初は卒業生のみを対象として講演と課題別の分科会等を行っていましたが、近年は県内の保育所、幼稚園に呼びかけ、養成校として地域への情報発信という位置づけで卒業生以外にも開放し実施しています。参加者名簿では卒業生か否かの区分をしていませんので正確な割合は不明ですが、卒業生は全県に勤務していますので、相当数参加していると推測されます。</p>
27	「子育て広場」について	103	「子育て広場」は学生にとっても大きな学びの場になっていると記されていますが具体的に学生や教員はどのように関わっているのですか。	<p>専攻科保育専攻の学生(保育士・幼稚園教諭二種免許状取得者)及び保育科教員によって運営されています。親子が心地よくいられるための環境設定や内容を考える事前準備、当日のかかわり、そのうえでの振り返りを行い、学生の学びの場、教員の研究の場となっています。<参考資料あり></p> <p>地域貢献の一環であり、授業科目「保育学演習」として展開しています。本学シトラスホール2階で、水曜2限を利用し、年10回開催します。今年は親子20組が参加しています。専攻科保育専攻1年生が担当し、1限に準備、2限に実施します。実施内容・環境設定など全て学生が行います。当日学生は、同じフロアで母親と関わるグループ、子どもと関わるグループ、全体を観ながら記録するグループに分かれて担当し、各グループには1名ずつ教員が付き指導します。幼稚園教</p>
			配布資料：子育て広場、子育て通信のプリント	

8. 相互評価会議(第1回)

			<p>諭免許状と保育士資格を取得した学生が携わっているということで、安心して参加してもらえています。今年度から、この子育て広場を核として「子育て支援論」「子育て支援演習Ⅰ～Ⅲ」を配置し、地域の子育てだけでなく、幅広く子育てをとらえていくカリキュラム編成に改訂しました。</p>	
28	ボランティア活動の評価	103 (2) 教養と英科の科目	<p>ボランティアはまさに奉仕活動であると思いますが単位として認定する場合の科目名や基準はどのようなものでしょうか。</p> <p>[追加質問] 英文科について、何単位ですか。また20時間以上とはどのように考えての時数ですか。</p>	<p>英文科:科目名は「英語ボランティア活動」です。公共団体が主催する国際交流事業の補助、ホームステイ受け入れなどで概ね20時間以上の活動を求めています。事前に計画書を、事後には活動状況報告書を提出させ、これを科会で審査しています。</p> <p>教養教育:設置しているボランティア関連の科目(通年2単位)は、「くらしとボランティア」(平成21年度までは「社会参加と活動」)です。講義は不定期の土曜日に15コマ分を6回に集中して行い、それ以外に夏期休業中に「介護等体験」または「自主的な活動体験」を行わせ、体験レポートを提出させます。</p> <p>単位は1単位で、評価は「認定」となります。3年に1度常葉学園で国際青少年音楽祭を行っております。海外から若者が大勢参加しますが、その際10日間ほどその若者たちのお世話をしてもらうことを活動内容としています。</p> <p>20時間というのは、授業1コマ1.5時間とし、半期13～15回ですので、1.5時間×15回で22.5時間。概ね20時間以上ということですが、また「授業内容ガイドブック」の中では、上記の音楽祭だけではなく、事例として公共団体が主催する交流事業や民間団体が行う国際的イベントの補助などを活動内容として挙げてあります。終了後は実施報告書を学生に提出させ、学科会議で認定に値するかを協議します。</p>
29	単位互換履修について	105	<p>高校時に学ぶべき基礎的な内容と専門的な内容とが問題なく行われているのでしょうか。また高大連携において行われる単位互換は他校から入学した学生との区別化が生じるなどの問題はないのでしょうか。</p>	<p>授業は高校生専用に展開し、専門的に学んでいくことの面白さを基礎的なところから体験する「導入及び興味付け」を目的としているため、受講生徒や高校側から問題を指摘されたことはありません。また、受講生徒が入学した場合、「総合基礎講座」として単位認定をしますが、他校出身の学生から区別・差別等に関して疑義を表明されたことはありません。</p> <p>[追加説明] 大学の授業で行うほど専門的な内容ではなく、興味を</p>

			配布資料: 平成 21 年度高大連携教育実施要 項	もたせる内容、これから勉強する内容についての幅を 広げるような内容を扱っております。本学入学後、高 大連携の授業を受けた学生と受けない学生との差が 付くような問題は生じていませんし、学生からの苦情も ありません。
評価領域			VII 管理運営	
質問 番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回 答
30	大学・短大の統合化 について	112	3大学・1短大の統合化を検討し ておられますが、そのメリット・デ メリットについてどのように考えて おられますか。統合化の具体案 はありますか。 [追加質問] 浜松大学、富士常葉大学の学 部は、常葉学園大学にもってくる のか。また教職員はどうするの でしょうか。	統合の主なメリットは、総合大学化による多様な教育 の提供と経営の合理化による財政の健全であると考え ています。しかし、統合化により、既存大学の伝統の 消失や組織改編の混乱といったデメリットも予想されま す。現在のところ、平成 25 年 4 月 1 日に常葉学園大 学を存続大学とし、浜松大学、富士常葉大学を廃止 する予定です。なお本学は四大化せず、常葉学園大 学短期大学部に名称変更される予定です。 [追加説明] この問題は本学の問題というより、常葉学園の問題と いうことになります。経済的理由で県外になかなか出ら れない学生の進むべき専門領域をある程度カバーで るような総合大学化をめざそうというのが、この統合化 の大きなねらいです。もちろん経営の効率化ということ は第 2 のメリットとしてはあるかと思いますが。 今のところは、枠を1つにするということで進んでおりま すので、平成 25 年 4 月 1 日現在においては、現行ど おりで統合する予定です。その後は様子を見て検討し ていくということです。
31	教職協働について	120 (5) 事務 職員の 信頼	「教職協働による組織的な学生 支援体制の確立」を目指し、役 割分担し、とあるが具体的にはど の様なことですか。	大学のユニバーサル化による学生の多様化に対し て、もはや教員だけですべての教育上の責任を果た すことは無理と認識しています。これからは学生指導、 就職進路指導、カウンセリング、ガイダンス等々や正 課外教育などに対し教員と連携し、事務職員が責任 を持って携わる必要があります。教員と事務職員間の コミュニケーションを密にし、相互理解と信頼関係を築 き、対等で補完し協力しあえる関係の確立を目指して います。このため事務職員の資質向上、能力開発は 不可欠であると考えています。

8. 相互評価会議(第1回)

32	人事管理について	123 2)① 教員の 人事 管理	採用、昇任については、学長が発議し、とありますが「教員資格審査委員会」等の委員会での検討はされていませんか。	専任教員の昇任の場合は、学長は諮問委員会を設け(常葉学園 大学教育職員任用・昇任規程第3条)、同委員会の答申を尊重して、発議することになっています。また、採用の場合は、諮問委員会を設ける必要はありませんが、「常葉学園 大学教育職員任用基準」において資格要件が定められているので、科長等が事前に資格審査をしなければならず、その上で学長は発議することになります。
33	人事考課について	123 2)②	人事考課規程はありますか。また職階制とは、どのような制度ですか。 [追加質問] 職階制の階級はいくつくらいに分けられていますか。	「常葉学園職員勤務評定実施要領」において、評定要素、評定項目、評定の仕方が定められていますが、この勤評の結果は賞与、特別昇給及び昇給・昇格に反映されることになっています(管理規則第8条第2項)。また、職階制は、専任事務職員に対し、職務の等級を定め、本人の学歴・実務能力・所属上長の評価・登用試験結果等を考慮して職階の格付をする制度です。平成22年度からスタートした制度です。事務職員の昇格を制度化したものであり、意欲・能力の高い職員のモチベーションを維持・向上させ、組織を強化する狙いがあります。 7つに分かれています。今までは主任以下の事務職員は職階がなく、どのようにしたら主任になれるのか、課長になれるのか、制度上明確ではありませんでした。大学・短大の事務職員の場合、特に高い専門性が必要ですので、職員の力量を向上するため、また職員のモチベーションをあげるため職階制を導入しました。
34	情報の伝達について		事務職員に対し日常的な情報は、どのように周知していますか。	毎朝行っている朝礼で口頭又は文書にて伝達しています。また、日頃から事務部長が各部署へ出向きコミュニケーションを取るよう努めています。
評価領域			X 改革・改善	
質問 番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
35	自己点検・評価について	133	「自己点検・第三者評価委員会」の構成メンバーの「事務部長及び関係部署の長」の括弧内表記で「...など」とありますが、具体的に教えて下さい。	「など」の意味は、「関係部署の長」の顔ぶれが年度ごとの人事配置・兼務の状況により多少変わることです。括弧内表記の冒頭に「例えば」を付けてお読みください。今年度の例で説明すると、副学長はおりません。また、ALOと学生部長は同一人物ですが、別人ならば委員の数が増えます。

36	自己点検・評価について	133	「年度ごとの発行や改訂は、その後行っていない」、「将来的には報告書の改訂は毎年行い、年度ごとの発行も必要であると思われる」とありますが、この点についての具体的な予定や学内での議論の状況を教えてください。	年度ごとの改訂・発行については、学内での協議によって正式に決定したというものではありません。貴学における年度ごとの発行の体制や是非についてのご意見も伺い、かつ、年度ごとにした場合の本学での作業体制等をよく検討した上での判断となります。ただ、他の事例を見ると、毎年改訂している短大が増えているように思われます。また、全面改訂でなくても、表やデータだけでも毎年新しいものを加えるといった改訂方法もあり得ると考えています。
37	自己点検・評価の教職員の関与と活用について	133 134	「授業評価等作業部会」の具体的な活動及び「自己点検・評価委員会」の活動とどのように関連または連携しておられるかを教えてください。	現在、同作業部会はFD委員会に移行し、学生による授業評価が行われています。具体的には、報告書P. 33～34及びP. 65～66をご覧ください。自己点検・評価委員会との関連では、特に授業評価そのものを議題にして、その分析や点検をするというような形での連携はありません。しかし今後は、授業評価だけでなく、より広範なFD活動に向けたFD委員会の在り方への点検が必要かもしれません。
38	特記事項について	137	「短大運営協議会」での活動はまさに自己点検・評価の活動と思えますが、そこでの議論・活動と「自己点検・第三者評価委員会」での議論・活動がどのように連携しているのか、活かされているのかについて教えてください。	自己点検・評価委員会の委員は全て運営協議会メンバーにもなっていますから、その意味では連携が取れ、各科・課にもその内容が伝わる体制になっています。しかし残念ながら、現在は両方の会が有機的に連動して、日常的な自己点検や評価になっているとは言い難い状況です。まず、運営協議会は年2回(5月頃と3月)しか開催されず、自己点検・評価委員会は2カ月に1度程度の開催です。今後は、例えば、年2回の運営協議会を「(拡大)自己点検・評価委員会」という位置づけにし、それに続く2カ月に1度の定例委員会を、3月の運営協議会に繋がる途中のチェックポイントとして行うことも可能ではないかと思えます。

<p>その他 (全体を通して)</p>	<p>[追加質問①] 学則第43条第2項「前項第3号によって除籍になった者は、別に定めるところにより復籍を許可されることがある」と記載がありますが、第3号に対してのみ復籍が許可されるのか。また「別に定めるところ」の資料があれば拝見させてください。</p> <p>[追加質問②] 男女共学の短期大学は珍しいと思います。メリット・デメリットを教えてください。</p> <p>[追加質問③] 日文科、英文科は共学にする予定はありますか。</p> <p>[追加質問④] キャリアデザインの考えについて教えてください。「ライフデザイン総合セミナー」、「職業と人生」、「キャリアアップ講座」、「社会人</p>	<p>復籍についての事例はここ何年かありません。 除籍の例がありませんので、復籍もありません。また「別に定めるところ」の規則もありません。 数年前に教務委員会で議論をしたことがありました。休学の場合は在籍料として年10万円納入しなくてはいいませんが、除籍され復籍すれば在籍料は必要ありません。法の抜け道のように利用されてしまうのではないかという懸念もあり、慎重に扱うべきだと、当時は判断しました。 学納金を納めていない場合は除籍処分となるわけですが、復籍の規定もきちんと整備しておくべきとの認識から、学園内の学校はみな同じように学則に除籍と復籍を規定しました。 保育科:現在、男子は1年6名、2年4名、専攻科1年2名、2年3名が在籍しています。大勢の女子学生の中にいるため男性の特徴が埋もれてしまう感じはあります。就職はやはりなかなか難しいのが現実です。女性中心の職場に進出していくため、離職率が高くなる傾向にあります。 専攻科の中では、本科と違って女性の人数がぐっと少なくなるため、男子学生がリーダー性を発揮し活躍しています。男性保育者の会を結成して、本学の卒業生が活動し始めています。 音楽科:男女区別がない分野なので、特に問題はありません。また、就職についても男女の区別はありません。両性がいることで違った価値観に触れることができ、バランスがとれているのではないかと思います。 日文科:やはり男性の就職が難しいですし、男性の受け入れは考えていません。 英文科:募集のことを考えると男子学生の受け入れも検討した方がよいのかもしれませんが、就職がやはり難しいことと、在籍している学生を見ていると、現在のままで特に問題なく、雰囲気も良好なので、今のところは男子学生の受け入れは考えていません。 正課の授業として「職業と人生」と「ライフデザイン総合セミナー」を全学科に設置、さらに各科にキャリア教育の科目を置いています。正課外の代表として、進路支援室の「キャリアアップ講座」、ST時の就職ガイダンス、公務員講座(外部依頼:有料)があります。</p>
-------------------------	--	---

		<p>準備講座」等々、これらを同時に進行しているという現状の体制について、今後の方針なども含め、教えてください。</p>	<p>各学科あるいは進路支援室など、各部署にちりばめて行っていますが、これを一つの方向性あるものに集約して、教養教育に位置づけるなどして検討していく必要があると感じていますが、具体的に検討しているということはありません。</p> <p>LCゼミナールは、日文科の「ライフデザイン研究」、英文科の「ライフデザインセミナー」の中で授業科目として展開しています。</p>
--	--	--	--



常葉学園短大 第1会議室にて

第2回相互評価会議 — 質疑応答の記録 (議事録) —

質問校	常葉学園短期大学	回答校	名古屋短期大学
-----	----------	-----	---------

前半：13:00～14:15 後半：14:30～16:15

評価領域		I 建学の精神・教育理念, 教育目的・教育目標		
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
1	【2. 教育目的, 教育目標】- (1) 保育科・専攻科保育専攻	9	<p>保育専攻の「リカレント教育の機能」について, 本科を卒業し就職した後に専攻科に入学してくる者はどれくらいいるのかご教示ください。</p> <p>また, 入学はせずに科目等の履修は認めているのかも合わせてご教示ください。</p> <p>配布資料: 専攻科パンフレット</p> <p>[追加質問] 四年制大学があるのに専攻科の入学定員を増やしたのは海外留学ができることが理由ですか。</p> <p>この先も短大・四大・専攻科の3つを共存していくのか。</p> <p>本学では夏季ゼミナールを実施し県外や現場から多くの方が集まってくるが, 貴学では現職教員に対してリカレント教育は実施していますか。</p>	<p>本学保育科を卒業し就職した後に専攻科保育専攻に入学してくる者はほとんどいないのが実情です。他の保育系短大を卒業して就職した後, 専攻科に入学してきた学生が現在1名おります。専攻科の科目等履修は可能ですが, 実際には希望者はありません。</p> <p>[追加説明] 短大の新しい魅力として専攻科に留学タイプを設置するなど, プラス2年間の学びを保障することで四年制大学に匹敵する教育をめざしています。また, 短大離れを防ぐ一つの要因になればと考えています。</p> <p>短大の海外保育実習とのつながりで専攻科にも留学タイプを開設しました。現在, 専攻科には留学タイプと国内タイプの学生がおり留学タイプの設置により入学者が増えています。</p> <p>専攻科は継続し, 同キャンパス内に共存することで学生の選択肢を増やすことになると考えています。</p> <p>保育系教員で愛知県現任保育士研修, 夏季保育セミナー(卒業生対象, 保育子育て研究所主催)を行っています。夏季保育セミナーは午前講演会, 午後分科会という内容で実施しています。</p>
2	【2. 教育目的, 教育目標】- (1) 専攻科英語専攻	10	<p>平成19年に開設され, 平成21年に桜花大学にも学芸学部の英語学科を開設されていますが, なぜ同じ英語の学科を専攻科と大学に創ったのでしょうか。</p>	<p>専攻科英語専攻は名古屋短期大学英語コミュニケーション学科の魅力のひとつとして設置しました。四年制大学志願者層と短大志願者層は競合しないと判断しています。短大としての独自の魅力ある進路を保障することが必要であると考</p>

			<p>えました。</p> <p>[追加説明]</p> <p>短大では2年ごとに学生へ選択肢(就職・編入・留学)を用意することができますし、安い授業料で学士を取得することができます。</p> <p>英語特別実習はまだ試行錯誤の段階ですが、学生自身が計画をして海外実習をしており、今年度は個人に合わせたオーダーメイドの実習を行うことができました。</p>	
3	【2. 教育目的, 教育目標】-(2)	10	<p>「それぞれの学科の教育目標・教育目的は、大学案内、各学科ホームページ、入試説明会、オープンキャンパス等において広く社会に周知している」との記述がありますが、特に通常の方法以外で工夫している周知方法はありますか(例:テレビCM, 携帯メールでの配信など)。</p> <p>[追加質問]</p> <p>自己点検評価書 P10 の学科研修会、満足度調査等からここ 1,2 年で変わったことはありますか。</p>	<p>教育目標・教育目的は、大学案内、各学科ホームページ、入試説明会、オープンキャンパス等において広く周知しておりますので、それ以外の工夫は今のところは行っておりません。</p> <p>[追加説明]</p> <p>現代教養学科では学外活動が少ないことが満足度調査でわかりました。英コミ学科では海外実習、保育科では実習などがあるので現代教養学科でもそれに値するものが必要だと考え、ボランティア実習やホームヘルパー実習、秋セミナーなど学外活動を取り入れてきました。</p>
評価領域			Ⅱ 教育の内容	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
4	短大・専攻科と四大の交流	12 ～ 34	<p>短大・専攻科と四大に同じ学科がありますので、同じ教員が両方で教えているかと思いません。教員の交流はどのくらいなされていますか。</p> <p>短大と四大における兼任教員(非常勤)と兼任教員の状況について詳しくご教示ください。</p>	<p>短大・専攻科と四大の双方に保育系、英語系の学科があることから、同じ教員が双方で教えるようにできるとよいと思います。2010 年度短大と四大の間の兼担は、短大教員が四大を担当しているものが 6 コマ、四大教員が短大の授業を担当しているものが 11 コマとなっています。なお、本学園内の 6 学科間の兼担を合計すると 63 コマになります。また、非常勤講師は短大四大合計で 201 人となっています。なお、保育系の就職対策など</p>

8. 相互評価会議(第2回)

			<p>配布資料：非常勤講師担当学科一覧，専任教員担当授業一覧，履修の手引き</p> <p>[追加質問]</p> <p>本学では四大と短大の教授では資格基準や任用基準は同じではないと言われることがあります。こちらではそのような問題は起きていませんか。</p>	<p>は短大と四大が共同で行っており，日常的に教員間の交流があります。</p> <p>[追加説明]</p> <p>教員資格審査委員会は短大・四大独立した組織ですが，本学園では資格基準は同じになっています。現在は四大と短大で研究費に差があるため短大からは研究費増額の要求が出ています。</p>
5	【1，教育課程】－(1) 教育課程表 表2－1c 英語コミュニケーション学科教育課程	15～17	<p>本学の日本語日本文学科・英語英文科では，中学校教諭2種免許状を取得するための授業科目の単位は，卒業要件に算入しない教育課程になっています。</p> <p>貴学の英語コミュニケーション学科の教育課程は，中学校教諭2種免許状を取得するのに必要な授業科目を専門教育科目に置いていますので，中免取得者は英語関係の授業科目の単位取得が他の学生に比べて少なくとも卒業要件を満たすこととなりますが，中免取得者の英語コミュニケーション学科の教育目標を達成するために，どのような方策を実施していますか。</p> <p>[追加質問]</p> <p>教科教育法だけでも専門科目にはしないのでしょうか。</p>	<p>学則に教育課程表と教職課程表を別に用意する方法もありますが，本学ではそのようにはしていません。英語コミュニケーション学科では教職科目は卒業要件に含めていませんので，教職課程履修者は他の学生より多くの単位を取得して卒業することになります。</p> <p>[追加説明]</p> <p>教職関係科目を専門科目にする予定は今のところありません。</p>
6	【1，教育課程】－(1) 教育課程表 表2－1e 現代教養教育	19	<p>現代教養学科では履修科目群を5つに分けているとのことですが，履修登録に際して教務委員や教務課での指導が具体的にどのような体制で行われていますか。また，学生個々の時間割をチェックしたり指導したりするのは，どのように行われている</p>	<p>まず，オリエンテーションで，学科の教務委員が学科カリキュラムの意味や全体的構造を詳しく説明し，その後，教務課員が科目登録の実際の仕方について説明しています。さらに，オリエンテーション直後の春のセミナーでは，時間割作りの時間枠を設け，ゼミ教員が指導し，同時にチェックをしています。</p> <p>登録後の履修訂正期間は毎回，1週間設けています。</p>

			<p>のかもご教示ください。</p> <p>「秋のセミナー」など後期開始直後に、履修訂正などリカバリーできる指導体制があると理解してよろしいのでしょうか。</p>	
7	【1, 教育課程】- (2) 教養教育の取り組み	22	<p>現代教養学科における「教養教育」とその他の学科における「教養教育」とは、制度趣旨及び内容において、どのような違いがあるのでしょうか。</p> <p>また、教養教育の在り方は短大全体で検討されているのか、それとも各学科で検討されているのかもご教示ください。</p> <p>配布資料: 現代教養学科キャリアファイルⅠ, 現代教養学科キャリアファイルⅡ</p>	<p>現代教養学科は他学科と違って、基礎教育科目と専門教育科目に分けてはいません。全科目を教養教育に含めています。学科の教育目標が人間教育である以上、基礎か専門かという分類がふさわしくないからです。</p> <p>内容はゼミを中核とした数科目のみを必修とし、選択科目を多くしています。</p> <p>短大全体としての教養教育のあり方については、残念ながら検討されてはいません。各科に任せているのが現状です。</p>
8	【1, 教育課程】- (2) 教養教育の取り組み, 専門教育の内容, 授業形態のバランス, 必修・選択のバランス, 専任教員の配置等について ①教養教育の取り組み	22	<p>本学では、各学科が指定した授業科目を、他学科の学生が履修することができ、12単位まで卒業に要する単位として認定しています(「他学科専門教育科目履修規程」を参照)。</p> <p>貴学では、3学科とも他学科開放科目を置き、6単位まで単位認定されていますが、この制度による履修・成績の状況はいかがでしょうか。</p> <p>そして、その教育効果はどのような形で表れていますか。</p>	<p>他学科開放科目の履修と成績の状況については、平成20年度で、保育科1年生で159名、英語コミュニケーション学科1年生で34名、現代教養学科1年生で74名の履修があり、秀と優の合計取得率で各々79.8%、76.5%、78.3%となっています。</p> <p>他学科開放科目の教育効果は、学生に幅広い視野を可能にする教養教育として機能していると考えています。</p>
9	【1, 教育課程】- (2) 教養教育の取り組み, 専門教育の内容, 授業形態のバランス, 必修・選択のバランス, 専任教員の配置等について 点検・評価, 改善・改	23	<p>「平成19年度には専任教員による新たな科目設置(生活経営)によってさらなる改善が行われた」との記述がありますが、これは専任教員全員で担当しているのでしょうか。また、内容はどのようなもののでしょうか。いわゆる「初年次教育」との関連はある</p>	<p>生活経営学専攻の一教員が担当しております。2年後期科目で、初年次教育と関連はなく、むしろ社会人になる前に必要なこと、家庭・家族にかかわる問題や女性が働くこと、少子高齢化、高齢期の生活課題等の内容で講義がなされています。</p>

8. 相互評価会議(第2回)

	革	<p>でしょうか。</p> <p>[追加質問]</p> <p>図書館に女性学の書籍が充実しているがこれは全学あげての方針なのでしょうか。「信念ある女性の育成」に関連していると見受けられていたがそうではないのでしょうか。</p>	<p>[追加説明]</p> <p>全学あげての方針とまでは言えませんが、10年程前に各学科で共通しているのは女性学であるとの議論があり本の収集をしてきました。</p> <p>女性学の書籍の充実と建学の精神とのつながりについては、これまでは明確にしていまいませんでしたが、ご指摘の通り、そのことを示した方が良いと思われまますので今後検討したいと思います。</p>
10	<p>【1, 教育課程】-(3)</p> <p>当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格表2-3</p> <p>教育課程と関係なく取得可能な資格</p>	<p>23</p> <p>貴学の英語コミュニケーション学科と現代教養学科では、河合塾のトライデントスクールと提携した就職対策講座を実施し、単位認定までされていますが、これの企画立案(時間割、履修登録、受講料など)と実施体制等はどのようにされていますか。</p> <p>また、このことにより就職状況への影響はどの程度あると評価されているかもご教示ください。</p> <p>[追加質問]</p> <p>就職対策講座を行う上での時間割の工夫はなにかありますでしょうか。</p>	<p>企画は、まず学科が要望をまとめ、教務委員が、秋に、トライデント側と協議に入ります。両方でプログラムを立案し、最終的には学科での了承を得て決定となります。登録や受講料等の実務は教務課員に担当してもらっています。</p> <p>この講座の受講が就職に及ぼす影響は不明です。ただ多くの学生がパソコン講座で資格を取得しており、履歴書の資格欄に書けるというメリットはあります。また、資格取得によって本人に自信がつくという心理的効果はあるかと考えています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>平成10年より開講しており、英語コミュニケーション学科・現代教養学科では単位認定をしています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>時間割については水曜日の午後や土曜日、長期休業期間等の授業がない時間帯に開講しています。</p>
11	<p>【1, 教育課程】-(5)</p> <p>卒業要件単位数及びその他の卒業要件表2-5 学生納付金</p>	<p>26</p> <p>本学は、授業料・施設設備費等学生納付金のほか、教職課程費、司書課程費、保育実習課程費などを、受講する学生から徴収しています。これは、受益者の実費負担の原則、言い換えれば「その課程を履修しない学生からは費用を徴収しない。」との考え方です。</p> <p>貴学では、学生納付金に実習費(30,000円)又は演習教材費(20,000円)がありますが、こ</p>	<p>本学では、学則で定められている納付金以外は徴収しません。教職課程費、保育実習課程費及び教育実習や保育実習に掛かる経費は、授業料納付金等から大学が負担します。</p> <p>セミナーやゼミ旅行等の費用は学生が負担します。</p>

			<p>れ以外に学生から徴収することはないのでしょうか。</p> <p>また、これ以外に学生から徴収していないとしたら、教育実習や保育実習等に掛かる経費の原資はどのように工面されていますか。</p>	
12	<p>【1, 教育課程】- (3) 教育改善への努力- 特記事項</p> <p>VII社会的活動</p> <p>【3, 国際交流・協力への取り組み】</p> <p>(1) 保育科の「海外保育実習」、英語コミュニケーション学科の「海外インターンシップ」</p>	32 88 ~ 89	<p>海外保育実習(オーストラリア)の内容とその位置づけについて詳しくご教示ください(具体的な実習内容、実習先の概要、実習前の研修等の内容、単位認定はしているのかなど)。</p> <p>派遣状況を見ると、かなり多くの参加者がいますが、なぜここまでの参加者がいるのですか。教員の引率はどのような体制で行われるのでしょうか。</p> <p>さらに、海外からの教職員の来学も多いようですが、短期研修生や留学生の受け入れはありますか。</p> <p>また、英語コミュニケーション学科と現代教養学科の「海外インターンシップ」は、具体的にはどのような企業で行われているのか、またこれをきっかけに、学生が海外の企業に就職したり、ワーキングホリデーに出たりという事例があるのかもご教示ください。</p> <p>配布資料: 海外保育実習 in オーストラリア募集チラシ, 海外保育実習 in オーストラリア参加のしおり, 英語コミュニケーション学科 14週間海外留学実習プログラムパンフレット</p>	<p>海外保育実習は保育科の学科企画という位置付けで、15日程度オーストラリア・ゴールドコーストに滞在し、コンドミニアムに1室4人で宿泊して、現地のチャイルドケアセンター(保育園)で1園に4人、1クラスに1人ずつ入って、7日間の保育実習を行います。単位認定はしていません。</p> <p>事前に6回程度のガイダンスを行い、オーストラリアの保育制度、園の状況について学習しています。</p> <p>参加者が多いのは、非常に満足度が高い企画になっており、そのことが前年度の参加者から次年度に受け継がれることによります。企画内容の改善を重ねてきた結果、実施後のアンケートで多くの項目が5段階評価で5と評価されるなど、充実度の高い企画になっています。また、この企画があることが本学への進学理由になっている学生もおります。企画は希望者全員が参加できるよう、その年の希望者数にあわせて2~3のコース(A・B・Cコース)で実施しており、3コース実施の場合は2名の教員が各2回、1名の教員が1回の引率をするほか、現地世話人を雇用しています。</p> <p>なお、短期研修生や留学生の受け入れについてはありません。</p> <p>現代教養学科の「海外研修」はP.33で記しましたように、学生個人がプランを立て、所定の条件(研修期間が2週間以上、週15時間以上の研修プログラムが含まれていること)を充たした場合に単位を与えらるという制度です。研修は、語学が主で、たまにボランティア、インターンシップもあります。担当教員が巡回することもあります。毎回、すべての箇所を回っているわけではありません。</p> <p>英語コミュニケーション学科の海外インターンシップは他学科開放科目であり、保育科学生が多く参加</p>

		<p>[追加質問]</p> <p>14週間プログラムの参加学生の授業料はどうなっていますか。</p> <p>海外保育実習は1年生のみの参加でしょうか。保育について学ぶ前に海外に行くことについて保育科としてはどう考えていますか。</p> <p>保育専攻でオーストラリアの資格取得者はどのような進路を選択しているのでしょうか。</p>	<p>していました。インターンシップ先は、現地の幼稚園、小学校、福祉施設などです。2005年度より保育科で海外保育実習を行うようになり、海外インターンシップの参加学生が減少したことに加え、2010年度から英語コミュニケーション学科では4ヶ月プログラムも始まりましたので、現在は休止状態となっています。</p> <p>過去の海外インターンシップ参加者は保育科学生が多いことなどから、海外の企業に就職したり、ワーキングホリデーに出たりという事例はありません。</p> <p>[追加説明]</p> <p>保育科の「海外保育実習」は、当初20名でスタートをし、現在は70名以上の参加で実施しています。参加した学生が次年度の学生にとってもいい影響を与えてくれており、そのおかげで参加人数が増えています。</p> <p>後期に集中講義にて授業を実施していますので授業料は徴収しています。(武田英コミ学科長)</p> <p>原則として保育科の1年生対象となっています。日本の保育について3カ月ほど学んだ段階で海外での保育実習をしています。そのことのデメリットは特になく、むしろその後の学修にプラスになると考えています。</p> <p>現在留学中の学生の中には、将来海外で働きたいと考えている者もいます。留学した学生は精神面での成長が大きいと感じています。</p>	
評価領域		Ⅲ 教育の実施体制		
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
13	<p>【1, 教員組織】－(5)</p> <p>専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。</p>	36	<p>貴学の専任教員担当コマ数は、本学と同様6コマを基準とされていますが、減免措置のない教員で6コマに満たない者が多数いると推測されます。</p> <p>教員一人ひとりの担当授業・担当コマ数はどのような手順を経て決定されています</p>	<p>専任教員の担当授業と担当コマ数は学科の教育課程に責任を持つ学科会議において基本的に決定されています。具体的には、学科の教育課程を担う専任教員の採用時に、基準コマ数を念頭にすべての担当授業科目を含む当該専任教員の「公募条件」として決定されます。採用後は、学科の教育課程の定期的な検討の際に、科目担当者とその担当コマ数が必要に応じて考慮されることに</p>

	<p>(a)授業について 表3-3 専任教員 平均担当コマ数</p>	<p>か。 非常勤講師への委嘱との関係もあると思いますが、専任教員間の担当コマ数の差異に対し、どのように対処していますか。</p>	<p>なります。最終的には、毎年度、翌年の「開講授業科目と担当者一覧」とそれに基づき開講時数を考慮して編成される「授業時間割」として、学科会議・教務委員会・運営委員会を経て教授会で決定されています。</p> <p>専任教員間の担当コマ数の差異は学科内教員間と学科外教員間の差異に大別されますが、学科内については、各専任教員の教育・研究・各種業務等の状況を具体的に且つ総合的に検討して対処しています。学科外の学科間の差異等については、全学の教務委員会等で必要に応じて検討を行うようにしています。</p> <p>【追加説明】 現在、6名が基準に満たない状態です。採用の時点で持ちコマ数が決まりカリキュラム改革がなければ持ちコマ数も変わらないというのが現状です。</p>
14	<p>【1, 教員組織】 (c)学生指導について および 領域V 学生支援 【2, 学習支援】 (6)ゼミ担当教員による指導助言 【3, 学生生活支援体制】 (1)日常の学生の相談にゼミ担当教員が当たる</p>	<p>37 「本学の学生指導は、1～2年を通し少人数(8人～15人)で行うゼミを基礎的単位として行っている。」とありますが、このゼミは授業科目として位置づけられているのでしょうか。 71 また、その具体的内容をご教示ください(該当する授業科目の中で、どのように行うのか。担当する教員や各ゼミの学生数など)。 さらに、ゼミ生の数や教員の経験等により学生支援に格差等が生じる場合は、教務部や学生部でサポートする体制が整備されている、とのことですが、役割分担等はどのようになっていますか。</p> <p>【追加質問】 保育科の教職実践演習と総合演習の関係はどのよう</p>	<p>本学で「ゼミ」と通称しているものはすべて授業科目です。保育科では「保育基礎演習」「保育総合演習」、英語コミュニケーション学科では「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「英語専門演習」、現代教養学科では「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」です。これらは全専任教員が担当する必修科目で、これらを通じて全学生が本学での短大としての学修の為の基本的な知識と技能を修得します。各授業の具体的内容と各ゼミの学生数などについては別紙資料[「2008年度ゼミ人数(在学者)」一覧と各科目のシラバス]をご覧ください。ゼミにおける学生に対する指導や支援は、教学から進路就職まで学生生活の全般にわたりますが、サポート体制は重層化されています。ゼミ担当教員が自己のゼミ学生を担当することを基本としつつ、必要に応じて、教務委員や学生委員という教員によるサポートと教務課員や学生課員という事務職員によるサポートが適宜行われます。その際、教学関係は教務部が、学生生活関係は学生部が、と基本的な役割分担がされています。</p> <p>保育科では総合演習は残して単位数を減らし、教職実践演習を追加して実施する予定です。</p>

		<p>にする予定ですか。</p> <p>事務職員のサポートの具体的な事例はありますか。</p> <p>ゼミの15回の授業の内容は具体的にどのようなものですか。</p> <p>専任教員(ネイティブ)の担当者のサポート体制はどのようなになっていますか。</p>	<p>事務職員のサポートの例として就職支援や各種会議への担当職員の参加を挙げることができます。また、事務局がワンフロアのオープンカウンターにして、学生が事務局窓口に気軽に来られるようにしています。教員が不在の時にも事務職員が対応できるようにし、副担任のような存在になっています。なお、事務職員は、毎朝朝礼で業務状況の報告、確認をしています。</p> <p>ゼミの15回の内容について、実際の運営は各教員任せとなっています。2年ゼミについては卒業論を含め学生に選ばせ、1年生については大学側で決めるので統一性を重視しています。大学祭の準備等をシラバスに含めている教員もいます。</p> <p>専任教員(ネイティブ)については2年生の担当を外しています。担当を持つ場合はサポートする体制があります。</p>
15	<p>【2, 教育環境】</p> <p>(5)校地, 校舎の安全性, 障害者への対応, 運動場, 体育館, 学生の休息場所等について</p>	<p>41</p> <p>本学は, 本館・1~8号館の9棟ありますが, 8号館にエレベータと障害者用トイレが設置されているだけでバリアフリー化は極めて遅れていると言わざるを得ない状況です。</p> <p>貴学も, 7号館にエレベータが設置されているだけと見受けられます。</p> <p>そのような状況のなか, 身体(特に足腰)に障害のある者の入学希望・受験希望があった場合はどのように対応されていますか。</p> <p>また, バリアフリー化の改修計画はありますか。</p> <p>[追加質問]</p> <p>身体が不自由な場合の問い合わせがあった場合は事前に対応できるとおもいますが, 事前に問い合わせがな</p>	<p>ご指摘の通り, 本学においてもバリアフリー化は重要な課題であると認識しています。身体(特に足腰)に障害のある者の受験希望ないし入学希望については, 入試委員会が受験を, 入学希望学科が学科での学修の検討を行います。その際, 必要に応じて, 教務部や学生部も検討を行います。また, 可能な限り, 本人自身に本学の施設設備の現状を確認してもらい, 最終的には, 入試の可否判定において教授会が決定することになります。本学では, 軽度ですが, 障害のある学生の入学・卒業の実績があります。施設の改修計画については, 通常の老朽化した施設設備の改修計画を先行させなければならないのが現状です。</p> <p>[追加説明]</p> <p>今までの事例では問い合わせがなく突然受験したことはありません。事前の問い合わせは何度かあり, 点字で問題作成をしたこともありました。</p>

			<p>かった場合はどのように対応しましたか。</p>	
16	<p>【3, 図書館】-(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書, その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館利用は活発か。</p>	41 ～ 44	<p>図書館の活発な利用促進のため、開館日の増加、開館時間の延長をされていますが、具体的に開館日はどの程度増加させましたか。開館時間の延長は何時までですか。開館時間の延長部分の利用者数、貸出数はどの程度ですか。</p> <p>また、学科と連携した図書館利用のための講座を開催されていますが、具体的にはどのような講座をどのように開催されていますか。</p> <p>図書館を四大と共有しているようですが、そのための良い面・悪い面など問題はありますか。</p> <p>さらに、専攻科生の貸出数が50冊という突出した数字になっていますが、その理由をご教示ください(ちなみに、本学専攻科生への貸し出し数の平均は21冊です)。</p> <p>[追加質問]</p> <p>水曜日の開館時間と延長部分の勤務形態はどうなっていますか。</p> <p>本学は専攻科の学生(司書免許取得者)がアルバイトとして対応しています。</p>	<p>図書館開館日は、2000年度232日でしたが、開館日数を増やす努力を続けて2008年度、2009年度はともに266日の開館をいたしました。基本的な教育資源である図書館は「授業開講日は開館している」のが原則であると、図書館運営委員会では考えております。会館時間は水曜日以外の平日は17時30分までですが、定期試験1週間前と定期試験期間は17時50分まで開館時間を延長しています。延長部分だけの利用者数、貸出数の統計はありません。学科と連携し講座として所要時間約40分の「図書館情報収集法」を毎年実施しています。本学OPAC利用方法のポイント、雑誌記事、論文の探し方、新聞の探し方を契約データベースの紹介とともにPC画面を参照しながら館員が説明しています。</p> <p>図書館を四大と共有することで、図書館予算を効率的に執行でき、蔵書充実させることができると思います。一方で、保育、教育実習期間が重なる場合、関連資料の不足が生じるため、それらの資料の収集に務めています。専攻科生の貸し出し数が多くなっているのは、教育の成果であると思いますが、利用制限の違いも影響していると考えられます。専攻科生は、通常貸出5冊に加えて卒業貸出5冊が認められています。なお、短大1年生は通常貸出5冊、短大生2年生は通常貸出5冊に加えて後期からは、卒業貸出5冊も可能となっています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>水曜日については16時50分までの対応となっています。延長部分の勤務形態は、専任1名契約1名時間給1名パート4名を3,4名で分けて各2名体制となるように延長部分の対応をしています。時間外手当ではなく振替というかたちで対応しています。</p>

評価領域			IV教育の達成度と教育の効果	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
17	【1, 単位認定】 表 4-1e 現代教養学科の単位認定	51	<p>現代教養学科の必修科目の一つ「卒業研究」について、5群の設定とのつながりがどのようなものかを、代表的な題目や学修した群との関連において、ご説明ください(P51 表 4-1eに卒業研究も含めいくつかの科目に単位認定方法として「実技」とありますが、この内容はどのようなものかもご教示ください)。</p> <p>配布資料：卒業研究要約集</p> <p>[追加質問]</p> <p>単位認定の「実技」は「レポート」ではないでしょうか。</p> <p>各科担当制のメリット・デメリットはどのように感じていますか。</p>	<p>現代教養学科はコース制を敷いておりませんので、厳密な意味で卒業研究と学習科目との関連を求めています。むしろ、ゼミ選択が重要で、ゼミ教員との面談を通して卒業研究のテーマを決めるのが普通です。(ゼミ選考の時に、学習科目との関連が考慮される場合があります。)</p> <p>実技というのは、400字詰 20枚の卒業研究論文の提出です。</p> <p>[追加説明]</p> <p>教務課が各学科担当制となっており学科の担当者の解釈によって表の通りとなっています。</p> <p>各科担当制にはデメリットもありますが今までの名短の良さを作ってきた体制だと考えています。学科担当のおかげで教員との関係も密になり非常勤講師と専任教員との間に入ることができています。</p>
18	【1, 単位認定】-(2)	54	<p>学位授与機構に認定された専攻科ですので、専攻科修了生が学位授与機構の審査を受けていると思いますが、その審査状況はいかがでしょう。</p> <p>本学専攻科では、保育専攻は全員合格していますが、国語国文専攻と音楽専攻で毎年審査に通らない者もいます。</p>	<p>保育専攻では、修了研究においてマンツーマンによる、きめ細かい論文指導を行っておりますので、学位授与機構の審査には全員が合格しています。英語専攻については、2008年度修了生は2名、2009年度修了生は5名全員が学位授与機構の審査に合格しています。</p>
19	【4, 資格修得の取り組み】-(1) 表 4-5 資格取得状況	60	<p>英語コミュニケーション学科の取得資格については「中学校教諭2種免許」と「秘書士」だけのようですが、このほかに新たに何か資格を考えていますか。</p> <p>(例えば、平成23年度からの小学校英語必修化に向けて、小学校教諭免許、J-SHINEなど)</p>	<p>英語コミュニケーション学科では現状を維持することを重視しており、現在のところ新たな資格取得を導入する計画はありません。</p>

20		<p>60 本学では中学校教員免許取得希望者に関しては入学時、履修登録時、関連科目授業時と常に成績や素行を含めて指導しています。その結果、毎年数名に2年次教育実習を辞退させる結果となっています。</p> <p>英語コミュニケーション学科では教職希望者を集めたクラスを設定するなど資格取得への支援体制があるようですが、成績などで希望者に辞退を促す指導体制があるのかどうか、また、中学校からの教育実習の評価が芳しくない学生もいると思われる(P50表4-1c)のですが、教職免許への取り組みや教職課程履修者への指導についてご教示ください。</p> <p>[追加質問]</p> <p>教職の面接はどのように行われていますか。</p> <p>学生への基準の明示はしていますか。</p>	<p>入学前に教職課程説明会を実施し、教職担当教員による面接を経て「教職クラス」を編成しています。その後、教育実習に至るまでの過程でさまざまな試験を行いますので、1年次後期には教職に対する姿勢や成績に問題がある学生は自然に教職課程から離脱するようになっています。</p> <p>教職免許への取り組みや教職課程履修者への指導について明確な指導基準は設けていませんので、教職課程科目担当者の裁量で行われています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>授業についていくことができなかった学生が必要な単位が取れないので教職課程から離脱しています。未履修科目(教職関連科目)があると実習に行けないため免許の取得ができません。</p> <p>入学直前の教職説明会で周知しています。</p>
21	【4, 資格修得の取り組み】-(1) 表4-6	<p>61 この表から、秘書検定取得者数の減少、英検取得者数の減少及びマイクロソフト系資格修得者数の増加が読み取れます。この増減については、何らかの指導があり、その結果が表れたものでしょうか。ご教示ください。</p> <p>なお、就職活動へのプラスの影響はありますか。</p> <p>配布資料: 受講のルール、秋のセミナーパンフレット、職業教養講座プログラム</p>	<p>本表は、本学の「職業教養講座」の受講を通じて資格を取得した学生数が表示されています。秘書検定の減少については、特別に調査を行っていませんが、一つの理由として、すでに高校で取得してしまった学生が増加し、短大で取得しようとする学生が相対的に減少したのではないかと考えられます。</p> <p>英検の減少については、同様の理由とともに、TOEICを推奨して来たことが考えられます。MOSの増加については、明らかに、Excel, Word, Accessが企業等で必需であるとして取得を推奨してきた結果と思われます。資格は、知識と技能の修得の一つの有力な証明であると同時に、何よりも、学生自身の確かな自信として、学生の就職活動にプラス</p>

8. 相互評価会議(第2回)

22	【5, 学生による卒業後の評価, 卒業生に対する評価】— (1)	62 ～ 63	<p>保育科において、公立園への就職率が非常に高く、貴学の学生支援が充実していることを裏付けていますが、公立園への就職支援の具体的内容についてご教示ください。</p> <p>(報告書 P77 の 9 行目 改革改善の記述にも関連)</p> <p>[追加質問]</p> <p>公務員対策講座の内容はどのようなものですか。</p>	<p>の影響があると考えています。</p> <p>多くの学生が公立園への就職を希望しますので、その学生を対象に一年次後半から一般教養の公務員対策講座を実施しています。2年次には専門対策講座も実施しています。また、各教員が願書の書き方、討論、面接練習、小論文対策、さらに実技試験対策など徹底した就職指導を行っています。</p> <p>さらに、学生課職員が求人情報をはじめ過去のデータ資料を基に、模擬面接、集団面接対策などを実施しています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>在学生の親に公務員が多いため、学生の公務員志向が高くなっています。対策講座は2月から7月まで業者による一般教養の講座を開講しています。30回前後で金額は 5 万円程度となっています。例年 200 名程度の学生が受講しています。2 年生には 4 月から 6 月にかけて専任教員による専門講座を開講し、各ゼミで願書や小論文指導を行い、2 次試験対策として実技や面接指導も空き時間を利用して対応しています。事務局も願書や面接の指導などにきめ細かく対応しています。</p>
評価領域			V 学生支援	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回 答
23	【1, 入試に関する支援】— (2) 入学者選抜の方法	68 及 び 入試ガイドより	<p>本学では、保育科の全入試で面接を課しています。貴学では保育科で面接を課さない入試があります。学力のみで合否を決め、保育者としての適性(人物)を見る機会がないのですが、入学後どのように指導していますか。同様に、ピアノ実技試験を全く課していませんが、入学後の指導はどのようにしていますか。</p> <p>[追加質問]</p> <p>保育者の適性などを見ないで入学することがありますが今後もこのような試験方法で</p>	<p>面接をせずに学力のみの入試に合格して入学した者が、保育者としての適性に問題があるとは考えていません。したがって、指導上の配慮も必要ないと考えています。</p> <p>ピアノ実技に関しては確かに初心者も入学してきますので、指導はその分大変ですが、レベルに合わせたクラス編成による個人レッスンできめ細かい指導をしています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>現在の入学者選抜方法で問題があるとは感じていません。</p>

			行いますか。	
24	【1, 入試に関する支援】 - (3) 広報及び入試事務についての体制	68 及 び 入試 ガイ ド より	<p>「入試ガイド」が四大の学部と短大で1つになっています。広報や募集活動において、短大・専攻科と四大学部の「住み分け」はどのようにしていますか。お互いに競合しないのでしょうか。</p> <p>例えば、それぞれの特徴やメリット・デメリットは、相反する点もあるかと思いますが、どのように対応していますか。また、専攻科の授業料を安く設定しているのは、四大との違いを出すためですか。</p> <p>配布資料: 複数志望に関する併願者学力分布資料</p>	<p>同一キャンパスに四大と短大あわせて5学科を設置しています。学生募集の基本戦略は一見競合し不利に見えるこの条件を有利に展開していく点にあります。</p> <p>保育系では、従来短大が優位でしたが、保育系四大が全国的に多く設置されるにつれて次第にその位置を下げつつあります。</p> <p>本学は桜花学園大学保育学部保育学科が設置された2002年4月時点においては、愛知県下の短期大学では入学時の偏差値や就職率においてトップを占めており、四大と比較してもひけをとらない位置にいました。そこで、後発の桜花学園大学保育学部の学生募集を好調に推移させる為と短大にも四大志向の受験生を取り込むために、2003年度から短大と四大を一度の試験で受験できる複数志望制を導入しました。その結果、短大か四大か迷っている受験生を取り込むことにも成功したと考えていますし、さらに近年では四大志向が進む中でも受験者の獲得に効果を挙げていると考えています。</p> <p>愛知県立の高校進路部ではおおむね「名短は四大と同じ扱い」というところが多いのもこうした戦略が効果を発揮しているものと考えています。また、他の学園の多くは保育系短大を廃止して四大を設置しているので、まだいる短大志望者を有効に取り込むことが出来ていない中、本学園では短大と四大の保育志望者の両方を有効に取り込んでいく点は経営面でも評価できると思います。</p> <p>また、桜花学園大学にとっては、短大志望者層は四大をあまり併願しないという傾向があり、募集上競合して打撃になるといったことは無いように思われます。</p> <p>英語コミュニケーション学科と現代教養学科にとって複数志望制は保育科からの受験生を獲得する有効な手段となっています。2010年度入試においては複数志望者での受験者は、英語コミュニケーション学科で122名(入学者3名)、現代教養学科では153名(入学者6名)になってい</p>

			<p>ます。</p> <p>この複数志望制を実施していくための手段として、お尋ねの「入試ガイド」や募集要項の短大と四大の統一版を作成し、短大志望者が四大を四大志望者が短大を複数志望しやすいように工夫をしています。</p> <p>専攻科は、募集戦略上、短大の四大に対する魅力づくりという点にあります。その充実した教育と同時に上級免許状の取得やオーストラリアの保育士資格取得などが短大受験の際に魅力になると思われます。保育専攻については短大保育から毎年20名～30名の受験がありますが、保育学部への3年次編入学についてはほとんどいないといった状況です。英語専攻も2010年は10名の受験がありました。もちろん短大の学生にとっては四大の3年次編入学という選択肢もあるので、就職・専攻科進学・四大への編入学という短大ならではの進路選択が可能です。</p> <p>なお、授業料の設定については、専攻科の方が4大学部より先に設置されており、4大との違いを出すために意図的に設定したわけではありません。</p> <p>【追加説明】</p> <p>短大と四大が競合して不利に見える点をいかに有利に見せるかということに重点を置いて広報活動をしています。</p> <p>入学検定料を2回目以降無料にしている効果はかなりあると考えています。10年ほど前から実施し、志願票も工夫して高校生が受験しやすくなっています。</p> <p>英語コミュニケーション学科・現代教養学科については年内に学生を確保しているが、保育科については一般入試でも確保できています。河合塾の調査では、短大の一般入試の受験者数のデータがあるのは本学を含めて2～3校です。</p>
25	【1, 入学に関する支援】 —(5) 入学後(入学直前	70 及 び キャンパ	<p>【追加質問】</p> <p>入学検定料を2回目以降無料にしていますがその効果はありますか？</p> <p>一般入試の志願者が多いが実際はどうなっていますか？</p> <p>各学科の行う「宿泊セミナー」、学生会が主催する「たてわり合宿」の教育的な意義・目的はどのようなものですか。構成・</p> <p>各学科が行う「宿泊セミナー」は、新入生の「ともだちづくり」と学科教育にスムーズに入ることができるようにするオリエンテーションの総仕上げという目的をもっています。具体的には各学科の特色を活かした内</p>

	<p>を含む), 入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要 (6) たてわり合宿</p>	<p>スライフガイド P.81</p>	<p>内容などを具体的にご説明願います。</p> <p>また、このことによる教育効果は達成されているのですか。</p> <p>宿泊先は、貴学が保有するセミナーハウス、美杉林間学舎を利用しているのですか。</p> <p>さらに、これらの合宿にかかる費用の財源はどのようにしているのですか。</p> <p>配布資料: 英語コミュニケーション学科セミナーパンフレット、ハロー現代教養学科</p> <p>[追加質問] 現在の学生は宿泊を嫌う傾向がありますが「たてわり合宿」は苦慮していますでしょうか。</p>	<p>容となっているために学科ごとにプログラムや日程が異なります。しかし共通して新入生が早く居場所をみつけることができるようにさまざまな工夫がなされています。</p> <p>「たてわり合宿」は学生会の新入生歓迎実行委員会が主催する「宿泊セミナー」で、新入生歓迎実行委員会、学生会、大学祭実行委員会、卒業を祝う会に所属する在学生在が全新生を対象に一日も早くキャンパスでの生活になじむことができるよう、毎年オリエンテーション期間終了後、約1ヶ月かけ、グループに分けて実施しています。ゲームやクイズ、ダンス、そして文字通り寝食をともにしながら、各学科の「宿泊セミナー」では聞くことができない「キャンパスライフ」を楽しむための「秘訣」を、新入生たちは在生から得ているようです。</p> <p>これらの合宿形式のセミナーによる教育効果は何よりも中途退学率の低下や高いサークル加入率となって表れていると思われます。また先輩-後輩という「縦のつながり」を作るきっかけになっています。</p> <p>なお各科のセミナーは学外の宿泊施設を、「たてわり合宿」はセミナーハウスを利用しています。各科のセミナーについては学生の旅費(宿泊費・バス代)を学生が実費負担します。また「たてわり合宿」については新入生自身が宿泊費の一部を負担し、不足分を学校が経費補助をしています。</p> <p>[追加説明] 各学科の特色が参加率に反映されています。保育系は参加率が高いが英コミ・現教は参加率が低くなっています。</p>
26	<p>【3, 学生生活支援体制】-(2) 「二者懇」と称する特別な支援体制</p>	<p>P.72 及 び キャンパスライフガイド P.82</p>	<p>学内の諸行事における「二者懇」の関わりを具体的にご説明願います(構成メンバー・人数・年間での活動内容・運営上の問題点、専攻科生の参加状況など)。</p> <p>また、この支援体制の効果をどのようにとらえていますか。</p> <p>(サークル加入率の高さ、大</p>	<p>学生部長、各科選出学生委員、学生課員によって構成される学生委員会全員が、学生会、新入生実行委員会、大学祭実行委員会、卒業を祝う会、サークルの担当者を分担して「二者懇」に対応しています。「二者懇」は学校側、または学生側のいずれかが申し入れることによって開催されます。学生側の出席する人数、メンバーは特に決められておらず、そのときのテーマによって異なります。開催する回数はほぼ月に1回程度ですが、時期によって多少間隔が空</p>

			<p>学祭への来場者の多さ等との関連もありますか。)</p> <p>配布資料: 2009年度, 2010年度サークル・委員会加入率, 大学祭実行委員会との二者懇日程一覧、第47回名桜祭パンフレット、第47回名桜祭ちらし(学内地図入り)、学生部ニュース、2007年度学生支援GP採択についての資料</p> <p>[追加質問] 二者懇に対応する教職員は物理的に負担ではないのでしょうか。</p>	<p>場合があります。また「二者懇」という形をとらずに、カウンター越しに担当する学生課員と随時話し合いをするケースが頻繁にあります。</p> <p>運営上の問題点としては「二者懇」の開催が4限目終了後になるため、担当する教職員の負担が重くなる場合があります。限られた人数で就職支援や修学支援などの業務と並行して「二者懇」などの課外活動支援を行っている学生課員の負担は相当重いと思われる。</p> <p>しかしこの「二者懇」は入学年と卒業年しかない短大生たちに諸行事やサークルの運営にかかわる「経験の円滑な継承」に極めて重要な役割を果たしているほか、「何でも相談できる」という「教職員に対する信頼感の醸成」にも大きな効果を発揮していると考えられています。当然、サークルや諸行事の円滑な運営につながっていますから、サークル加入率の向上や大学祭への来場者数の増大に間接的に貢献しているものと考えます。</p> <p>[追加説明] 教員、職員とも二者懇はかなりの時間的な負担ではありますが「二者懇」を通じて学生とのコミュニケーションをとることは非常に重要だと感じており、それが名短の特徴であると考えています。</p> <p>短期大学では経験が継承できなくなっているため教職員が二者懇を通じて学生一人ひとりが名古屋短期大学の構成員であることを自覚させています。</p>
27	<p>【4, 進路支援】- (2) 学生の就職を支援する組織や体制の現状及び就職支援システム “career mate”</p>	76	<p>学生の就職支援業務は学生課が担当しているとありますが、専任職員4人と兼任職員2人の少人数体制(報告書 P.37)で、学生指導に加えて就職指導まで、どのように行っていますか。</p> <p>学生の生活・学習支援も「ゼミ担当」制で広範に行い、たてわり合宿や「二者懇」等も担当する中で、学生課や学生委員の負担は大きいと思われます。その辺の現状や問題点を具体的に</p>	<p>「豊かな学生生活を実現する延長線上に就職がある」という学生支援の基本的な考え方に立ち、それを体現するものとして本学では学生課員一人ひとりが学生生活支援と就職支援を兼務しています。サークル活動などの支援活動を通じて学生一人ひとりと信頼関係を取り結びながら、活動状況や個性を把握し、それをまた学生一人ひとりの就職支援に具体的に活かしていることが高い就職率など就職実績の維持に役立っていると考えます。</p> <p>この体制を維持するために、サークル活動や大学祭など諸行事への参加や就活支援などの面で、すべての教員が学生をサポートする取り組みを行って</p>

			<p>ご説明願います。</p> <p>また、“career mate”の具体的な内容及び導入後の変化や効果をご教示ください。</p>	<p>います。さらに諸行事の実施にあたっては学生委員のほか、担当の垣根を越えた教職員同士の協力が他学に比べ円滑に行われています。</p> <p>ただ先に述べたとおり学生課職員の業務上の負担は重いものとなっているうえに、学生の変化や労働市場の変化に応じて新たにに取り組むべき課題が増えています。しかしその一方で学生課員を単純に増員することは難しい状況にありますし、増員したとしても新人が十分な支援ができるまで知識や技術を磨くためには一定の時間がかかります。よって現在、学生課には自らの業務の遂行方法を見直すことが求められています。本学の学生支援の基本的な考え方に立って、今一度自らの業務を見直し「コア」となる業務とそうでない業務を整理しながら、必要に応じて外部の資源を積極的に活用すること等の方策を採用する姿勢が求められていると考えます。</p> <p>“career mate”は本学の学生支援の強みである教職員の面談をより効果的に行うために考案しました。別々の機会と場所で行われた面談を通じて得られた情報(就職支援に役立つ情報に限る)をwebサイト上のカルテに書き込むことを通して、一人ひとりの学生の就活状況、就活支援状況などをゼミ担当教員と学生課員が共有するしくみです。また求人票の到着情報を学生の携帯に送ったり、求人票のデジタル化によって求人情報を蓄積したり容易に検索することができます。</p> <p>導入後の問題点としては、維持コストがかかることと、その効果が間接的であるために教職員の間はまだ完全に利用が浸透していないことがあります。</p> <p>しかし後期よりキャリアコンサルタントを配置していますが、キャリアコンサルタントと学生課、学科担当教員との情報交換に積極的に活用したいと考えています。これを契機に再び全学的な活用を促したいと考えています。</p>
28	【4, 進路支援】— (4) 過去3ヶ年の就職状況(現代教養学科)	77	<p>各科で就職支援に力を注ぎ、現代教養学科では、「教養演習Ⅰ」・「教養演習Ⅱ」も実施されています。書類作成の相談や添削、面接練習など実践的な支援</p>	<p>率直に申し上げて、現状では勉強会等を開催し知識の標準化を図るための取り組みが行われておらず、教職員の個々の問題意識にもとづく自己研鑽や情報交換によって実践的な支援を行っているのが実情です。</p>

			には、先生方や事務職員に標準的な知識が必要と思われますが、どのように対処されているのでしょうか。	しかし就活支援の最も重要なことは、学生たちの話に耳を傾けることであると考えています。学生は就活に必要な知識や技術的なことを講習会や自習などによって得られますので、実践的な支援は就活知識取得のための環境整備と面談に重点を置くべきであると考えています。面談では学生の就活への不安や緊張を和らげたり、自らの特長などを気づかせたりすることに支援の重点を置いています。このような面談であれば通常の面談の中で誰でもできることで、特に研修などを行う必要を感じておりません。
29	【4.進路支援について】- (5) 過去3ヶ年の進学実績について、その支援方法と体制	(64) 79	「編入学指定校」(P.64)とありますが、これはどういう制度でしょうか。 「編入学指定校推薦枠は36大学96学科から受けている。」とありますが、いつごろから、このような枠を受けているのですか。 また、36大学96学科はどの地域のどのような大学ですか。さらに、この制度が学生募集にどのような影響を及ぼしていますか。 [追加質問] 実際に編入する学生はどのくらいいますか。	「編入学指定校」とは、高校から短大への受験の際にあります「指定校推薦入学試験」と同様の、大学への編入学試験における入試制度の一つです。 本学を指定校として指定して頂いている大学を本学側でも「編入学指定校」と通称しています。大学から、「推薦枠」としての人数と、その推薦枠への出願可能な本学の学科の指定を頂いています。本制度は1970年代ごろに始まったと認識していますが、現在は全国の大学から指定を頂いています。具体的な大学名と学科名については別紙資料[「2008年度名古屋短期大学指定編入推薦大学一覧」]を御覧下さい。 編入学指定校制度と学生募集との関連に関する調査は特別に行っていませんが、『大学案内』の項目としても明確に位置付けて広報も行っていますので、短大卒業後の進路の一つとして多くの有力な選択肢を持った短大として高校生に認知されていると考えています。 [追加説明] 実際に指定校を利用して編入する学生はごくわずかです。
評価領域			VI 研究	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
30	【2.研究のための条件】 - (3) 教員の研究に係る機器、備品、図書	84	貴学では、機器備品を一般研究費から支出することを認められていませんが、それで、各教員の研究活動に支障はないのでしょうか。	研究に必要な30,000円以上の機器備品は、資産に計上されるため、必要な備品は大学で購入するようにしています。また、特別研究費の規程では機器備品の購入が認められています。 こうしたことから、一般研究費で機器備品を購入

	等の整備状況について		また、認めない理由は何でしょうか。	できないことによって研究活動に支障は生じていないものと思われます。研究費は研究旅費、学会費、図書費等に充当して頂くようにして、研究の支援をしています。 [追加説明] 研究旅費が足りない場合は科目間流用(50%)を認めています。 備品の購入については申請すればすぐに認めているわけではなくシラバスとの関連がないものは認めていません。
31	【2, 研究のための条件】 - (5) 教員の研修日等, 研究時間の確保の状況について	85	本学の研修日は, 研究時間の確保の観点から, 週に土曜日1日と月曜日～金曜日のうちから1日の計2日となっています。ただし, 事務局管理職を兼務している教員は月曜日～金曜日のうちからの1日のみとなっています。 貴学の研究日は, 週1日を保障とありますが, 土曜日は休日 で月曜日～金曜日のうちから1日という理解でよろしいのでしょうか。 また, 管理職(学生部長・図書館長など)を兼務している教員の研究日はどのようになっていますか。	本学の研究日は, 会議日の水曜日を除く, (月), (火), (木), (金)のうち1日を保障しています。土曜日については, 研究日という扱いにはしていません。部長, 館長などを兼務している教員の研究日についても同じ扱いです。
評価領域		Ⅶ 社会的活動		
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
32	【1, 社会的活動への取組み】- (3) 過去3ヶ年に行った地域社会に向けた公開講座等の実施状況	86	「公開講座は・・・(中略)・・・受講料を無料として広く地域社会に公開している。」とありますが, 財源はどのように捻出されていますか。 配布資料: 2010年度公開講座募集チラシ	地域貢献を目的とした公開講座では, 受講料を無料として, その実施にかかわる予算については大学として次のように計上しています。 2009年度 1,043,171円 2010年度 931,771円 一方, 昨今の事情に鑑み, チラシ, ポスター経費を削減しました。 2009年度 550,000円

8. 相互評価会議(第2回)

				2010 年度 400,000 円 [追加説明] 実際はこの金額より少ない費用で行なっています。また、公開講座は文科省の補助金も申請しています。
評価領域			Ⅷ 管理運営	
質問 番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回 答
33	【1, 法人組織の管理運営体制】－(1) 理事会開催状況表 8－1	92	この表中の「主な審議案」によると、平成 19 年度に、英語コミュニケーション学科及び現代教養学科からの 20 名ずつの定員振替により、保育科の定員を 200 名から 240 名に増加していますが(P6 入学定員等の表も参照)、この結果、保育科学生の質低下を招いていませんか。 また、質を維持しているならば、どのような教育上の工夫をされていますか。	保育科の定員が 200 名の時には約 240 名の入学がありました。厚生局の入学定員厳守の指導があり、それまでの入学実人数の 240 名を定員にしました。したがって、40 名の定員増をいたしました。実際の入学人数はそれほど増えている訳ではありません。 しかし、入試志願者は漸減傾向にあり、入試倍率も少しずつ下がってきていることから、入学生の質は低下傾向にあると感じられます。ゼミを中心とした、きめ細かい指導、わかりやすい授業の工夫、ボランティアなど体験活動の奨励などの工夫によって卒業生の質を下げないよう努力をしています。
34	【1, 法人組織の管理運営体制】－(2) 過去 3 ヶ年の理事会の開催状況等	92 ～ 95	理事会は定例 5 回開催が標準ですが、19 年度は 6 回、20 年度は 8 回も開催されています。外部理事の出席に支障をきたすことはないのでしょうか。	理事会を 19 年度は 6 回、20 年度は 8 回も開催しましたが、外部理事の出席に特に支障をきたすことはありませんでした。
35	【2, 教授会等の運営体制】－(2) 教授会についての学則上の規定、平成 20 年度における開催状況 (3) 各種委員会等の開催状況 【3, 事務組織】－(1) 現在の法人全体の事務組織図	98 102	「保育学部設置以降、名古屋短期大学教授会は保育学部教授会と合同して合同教授会として運営されてきた。」とあり、また「各委員会は審議を原則として各合同委員会に委任している。」とあり、さらに「名古屋短期大学と・・・保育学部がある名古屋キャンパスには名古屋キャンパス事務部がおかれ・・・」とあります。このように、短大と保育学部が一体的、効率的運営を図っているようですが、入口でも出口	事務局を一つで運営することが、利害の調整に大きな役割を果たしていると考えています。また、合同教授会も利害の調整に役割を果たしてきました。 保育系の学生募集の将来については、基本的に短大志望層と 4 年制大学志望層は異なっており、住み分けができると現時点では判断しています。 就職に関しては、短大と四大で就職委員会を一緒に行っており調整をしています。また、現時点では公務員の合格者数と私立園からの求人が十分にあることから、利害の対立はありません。

	【2, 教授会等の運営体制】-(2) 教授会の学則の規定, 開催状況 [点検・評価]の4～5行目	98	でも利害が衝突するおそれがある短大と保育学部が, どのように利害を調整されているのでしょうか。 同様に, 「短大と四年制保育学部が一体として効果的に運営されている状況は, 学生募集にもよい影響を与えており, 両者の入学者数は順調」, という記述もありますが, 同じ保育系の学部・学科間で, 将来的に学生の「取り合い」などが問題になる心配はないのでしょうか。 (P.103-(4)とも関連)	
36	【2, 教授会等の運営体制】-(2) 教授会についての学則上の規定 表8-4 合同教授会・名古屋短期大学教授会開催状況	98 ～ 101	貴学は, さまざまな面で桜花学園大学保育学部と密接な関係にあり, 一体的運営をされています。教授会においても合同教授会を設け一体的・効率的に管理運営がなされているものと推察します。 教授会の審議事項である学籍異動(除籍・退学)について, 平成20年10月までは合同教授会で審議されていますが, 平成21年1月以降は短大教授会で審議されています。 短大の学生の身分に関する審議は短大教授会で行うべきであると考えますが, 平成20年10月まで合同教授会で審議された理由とその根拠は何でしょう。	4大保育学部設置当時は, 4大教員も短大の授業を担当するなどしていたため, 学籍異動についても情報として共有する目的で, 合同教授会で扱っていました。ただし, 議決は当該大学の教員による採決により行っていました。しかし, ご指摘のとおりであり, 平成21年1月以降は短大教授会で扱うこととしました。
37	【4, 人事管理】-(3) 教員と事務職員との関係について	107 ～ 108	「事務職員は, 教員に対して自由に意見が言える関係にあり・・・」という記述にもあるように, 貴学の教員と事務職員の関係は, 各学科の学科会議に教務課・学生課の学科担当事務職員が出席し, 各学科の状況を把	教職員間の信頼関係は, 本学設置以来55年に及ぶ歴史の中で教職員が協力・共同をし, その時代, 時代で苦楽をともに運営をしてきたことによって築かれたと思います。また, 教員資格審査委員会を除いた14の委員会に事務職員から選出された委員が参加していますし, 教授会議事及び委員会の重要事項は, 朝の会議(毎日開催)で必ず報告し, 教員と情報

8. 相互評価会議(第2回)

			<p>握し、互いに自由に意見を述べることができる非常に良い関係が形成されています。そのようになるためには、事務職員の資質向上が不可欠ではないかと思えます。</p> <p>事務職員に対する教育・研修などについて、どのような策を講じていますか。また、事務職員の採用は公募ですか、それとも縁故ですか。</p> <p>[追加質問]</p> <p>短大から四大又はその逆での異動はあると伺いましたが高校・幼稚園からの異動はありますか。</p> <p>研修会の内容と職員採用について詳しく教えてください。</p>	<p>を共有できるように心掛けています。</p> <p>事務職員の教育・研修としては、短期大学協会等主催の研修会への参加(会議で研修内容の報告)、年2回の独自の事務研修会を開催しています。</p> <p>[追加説明]</p> <p>職員の採用について最近数年は公募ですが、以前は縁故採用で採用していました。</p> <p>法人本部・豊田キャンパスからの異動はありました。</p> <p>研修会については職員から出た課題をもとに研修をしていくこと、教員の情報を職員が共有していくことを重視しています。</p>
評価領域			X 改革・改善	
質問番号	報告書該当項目	頁	質問事項	回答
38	<p>【1, 自己点検評価】</p> <p>—(2)</p> <p>自己点検・評価報告書の発行状況</p>	115	<p>貴学では報告書をこの3年間毎年発行されていますが、担当者に負担にはならないのでしょうか(ALOと執筆責任者の作業分担はどのようにしていますか)。</p> <p>また、編集・発行までの作業等にあたっては、担当の事務部署が決められているのでしょうか。</p>	<p>本学では、毎年自己点検評価報告書を発行しています。</p>
39	<p>【3, 相互評価】—</p> <p>(1)</p> <p>平成20年度までに行った相互評価及び外部評価の概要</p>	116	<p>平成19年度に実施した外部評価について、その効果をどのように捉えていますか。</p> <p>また、その時の主な指摘事項があれば、可能な範囲でご教示ください(特に、保育現場の意見と市政からの視点で、どのよう</p>	<p>本学では、第三者評価を前にした平成19年度に外部評価を実施しました。外部評価を実施したことで、大学運営の改善につなげることができたことはもちろん、平成20年度に実施した第三者評価の際にも活かされたと考えております。</p> <p>外部評価における主な指摘事項としては(1)履修者の少ない科目について経営の観点からの検討の</p>

		<p>な評価がありましたか。 (本学では外部評価を経験していません。近い将来実施する可能性もあるため、参考にしたいと思います。)</p> <p>配布資料: 平成 19 年度外部評価報告書</p>	<p>必要性。(2)教員数が設置基準を上回っている学科についての検討の必要性。(3)教育計画と経営計画の相互機能の重要性。(4)学生が社会的活動をさらに積極的に行っていくに当たっての環境整備の必要性。(5)保育の現場からも学生による社会的活動を歓迎しており、更なる取り組みへの期待などでした。</p> <p>なお、外部評価の際には貴学園常務理事三浦均様にも委員をお務めいただき、大変示唆に富んだ多くの意見を頂戴できましたことを改めて感謝申し上げます。</p>
その他		<p>23年4月1日からの情報公開についてどのように取り組んでいますか。</p> <p>今年中に公開した場合は補助金が減額されないがどのように対応しますか。本学は学長判断で今年中に実施することになりました。</p>	<p>本年12月までに情報収集をし、公開できるものからホームページにて公開していきます。努力目標も重視して公開するようにしていく予定でいます。</p> <p>本学では間に合わないので今年の公開はできません。</p>



9.相互評估結果（相互評估一覽表）

9. 相互評価結果 (相互評価一覧表)

評価領域 I 建学の精神・教育理念, 教育目的・教育目標

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 建学の精神・教育理念が確立していること	評価できる点	「人間教育」を教育理念として、昭和 21 年の常葉学園創立以来、「より高きを目指して学び続ける人間」を育成してきており、現在は「ライフデザイン」を全学共通の目標とし、時代の要請に応える努力している。	学園創設者の教育理念「信念ある女性の育成」は、学校法人の設置目的として学則第 1 条に明記され、明治期からの基本的な精神・理念として継承されている。 これを受けた短大の「心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性の育成」も、50 年以上の歴史とともに確立されて今日に至っている。
	今後の課題	特記事項なし	学園全体と短大の教育理念が並立しているが、両者の使用目的・対象・場面などの区別を明確にしたうえで、短大生のライフデザインや実生活に即した解釈で提示する必要がある。この点は、特に同系の四年制学部が併設されている状況からも、今後はより大切な検討課題となろう。 また、各学科の個性・独自性を大切にしつつも、建学の精神の具現化など、学科を超えて名古屋短期大学で学ぶ共通性を、例えば教養教育を中心に図るような試みがあっても良いであろう。
イ. 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること	評価できる点	毎年度当初に教授会で示される教育目標は、短大運営協議会で議論され、年度末に点検評価が行われている。各部署（科・課・室）などから「課題と目標」が出され、それに対する議論、点検評価が行われており、素晴らしい取り組みである。	各学科の教育目的・目標は、入試ガイドや大学案内にもアドミッションポリシーとして示され、入学後には「履修の手引き」に明確に記述されている。 また、教職員は毎年度末に「学科研修会」を実施し、必要な点検を行っている。その際、学生に対し卒業時に行う満足度調査が参考にされ、具体的かつ有効な改訂につながっている点は、優れた点検体制であると言える。

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
	今後の課題	特記事項なし	<p>短大進学者の実学志向や資格志向が急速に進む時代背景の中で、特に英語コミュニケーション学科と現代教養学科では、学究的な教育と実学的な教育のバランス、あるいは資格関連科目の取り入れ方などにより、明確な教育目標が必要になると思われる。</p> <p>さらに、英語コミュニケーション学科では、専攻科英語専攻における教育と同系四年制学部との差別化も今後の課題となるであろう。</p> <p>また、現代教養学科では、「生きる力」の涵養を目指す中で「あえて専門分野を特定せず」にカリキュラムを構成しているが、一定の明確な方向性を持って教育を継続するためには、今後も絶え間ない点検が求められるものと思われる。</p>
ウ. 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること	評価できる点	<p>学生に対しては、年度当初に行われるフレッシュマンキャンプにおいて、学長、学科長から講話が行われている。また、4月当初に「非常勤講師会」が開催されており、教育目的・教育目標を周知する努力をしている。</p>	<p>教育の目的・目標は、入学前には大学案内・ホームページ・入試説明会・オープンキャンパス等において広く公表する形が出来ている。また入学後には、学生や保護者に対し、学科（長）からの講演・ガイダンス等で「履修の手引き」を利用し説明するシステムが確立されている。</p> <p>さらに、教職員に年度末の「学科研修会」で周知が図られているが、この研修会は、目的・目標の共通理解に大きな役割を果たす体制であると評価できる。</p>
	今後の課題	特記事項なし	<p>教育の目的・目標への理解は、「アドミッションポリシー」・「カリキュラムポリシー」・「ディプロマポリシー」がセットで示されて初めて体系的なものになると思われる。したがって、入試ガイドや大学案内などの印刷物には、アドミッションポリシーだけでなく、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーという言葉を使い、各学科の目的・目標に</p>

9.相互評価結果（相互評価一覧表）

評価項目	名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
		対し、より明確な説明を加えてはどうか。

評価領域Ⅱ 教育内容

評価項目	名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 教育課程が体系的に編成されていること	<p>評価できる点</p> <p>教育課程は、大学全体に共通する教養教育、専門教育、授業形態、必修・選択、専任教員の配置及び各学科の教育目標に基づいて、的確かつ体系的に編成されている。</p> <p>中でも特筆すべきは「ライフデザイン総合セミナー」が、全学科の必修科目として実施されていることである。この科目によって修得される力は、全学科の学修の為の基礎力であり、卒業後の人生を生きる為の基礎力にもなる。この取組みは「ライフデザイン（人生設計）」に基づく新しい体系性をもった教育課程の編成原理の提示でもある。</p>	<p>それぞれの学科の特徴・個性が良く現れた教育課程が体系的に編成され、必修と選択科目や、科目の学年配当の観点からもバランスがとれている。</p> <p>保育科は、幼稚園教諭・保育士養成に定められた諸規程を遵守し、十分な教育課程である。</p> <p>英語コミュニケーション学科は語学関連の諸技能が包括的に盛り込まれ、さらに第2外国語や日本語教師に必要な科目等も含めバランスよく編成されている。</p> <p>現代教養学科は、幅広い分野の科目が用意され、総合的な人間教育を掲げるにふさわしい科目編成が行われている。</p>
	<p>今後の課題</p> <p>平成22年度から開始された「ライフデザイン総合セミナー」が、効果的に実施されているかを検証し、さらなる改善が行うことが短期的な課題となる。さらに、「ライフデザイン総合セミナー」で展開される体系性に基づいて、教育課程全体を検討、改善するという課題があると思われる。</p>	<p>特記事項なし</p>
イ. 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること	<p>評価できる点</p> <p>各々の短大や大学は、夫々の設置以来、学生達の「多様なニーズ」に応えるために、さまざまな検討と努力を重ねて、実に「多様な教育課程」を夫々展開している。しかし、昨今の「学生の多様さ」は、実は、「学びたいことの多様さ」とは違う、「学力的資質の低下傾向」や「目的意識</p>	<p>各学科とも、それぞれの教育目的と学生のニーズの双方に良く適合した教育内容となっている。</p> <p>教員免許等、各学科の特徴である諸資格が取得できるほか、特に就職を念頭に置いたさまざまな資格が取得できる機会を設けており、さらに海外における研修等も充実して</p>

評価項目	名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
	や学習意欲を失いがちな学生」という「多様さ」である。これにどう「応える」かが教育課程として問われている。こうした時代にあって、「短大で学ぶ意味」を学ぶという全学生必修の「ライフデザイン総合セミナー」は、教育課程としての対応として極めて高く評価できるであろう。	いる。
	今後の課題 特記事項なし	特記事項なし
ウ. 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること	<p>評価できる点</p> <p>学生に明示されるべき授業内容・教育方法・評価方法が記載される情報媒体として、通常のシラバスが収録される『授業内容ガイドブック』とともに、『学生生活ハンドブック』が適切に準備されている。特に、『学生生活ハンドブック』は、教務・学生・就職・図書・課外活動・防災と学生生活全体を総合的にガイドするためのものとして作成されている。</p> <p>学生にとって必要となる教務事項を学生生活全体の中に布置し、『ハンドブック』として日常的に利用できるようになっている。シラバスは、その「別冊」としてシラバス自身の系統的な利用が意図されて学生に提示されている。</p>	<p>「履修の手引き」の中に科目ごとに講義概要が作成され、授業目標、授業計画、評価方法が明示されている。</p> <p>「履修の手引き」は巻末に科目の索引があり、内容確認の便宜が図られている。</p>
	今後の課題 『学生生活ガイドブック』とともに『授業内容ガイドブック』の製本形式や記載方法等の具体的な改善を、利用する学生の実態に基づきながら進めるべきであろう。系統的な日常的活用の実現が、今後の課題である。	特記事項なし
エ. 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること	評価できる 全教職員の参加による研修会を「短大教職員研修会」として、昭和57年以来の「短大教（職）員研修会」を含めて、定期的の実施し、短期大学全体の教育の改善を教員と	<p>学生による授業評価が全科目を対象に行われ、授業改善のために活用されている。</p> <p>学生の授業態度に関する問題も、不満の把握から改善策の実行まで、</p>

9.相互評価結果（相互評価一覧表）

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
	点	職員が一致して着実に進める姿勢と努力がみられる点は高く評価できる。 これは常葉学園全体の全教職員研修会の着実な実施の努力とも通底している。このような姿勢が「授業力向上強化月間」という常葉学園内の授業公開制度を可能にし、授業内容や方法の改善の努力の力の源泉の一つになっている。	その対応は速やかに行われた。
	今後の課題	授業内容と教育方法の改善に資する重要な情報である「授業評価アンケート」の活用が大きな課題である。本学でも「授業アンケート」は、「評価」が目的ではなく、教員が自らの授業を「改善」するために行うものであると位置付けている。この学生による授業アンケートに基づく授業改善を一つの素材に、「授業を知識や技術を伝達する一方通行の場から、双方向の参加できる場にする工夫も考慮する」という「授業」というものの在り方を、学生の立場から、根本的に考えるFDが求められている。この課題は、本学も含め、すべての大学が直面している課題であると考えている。	学生による授業評価が担当教員個人のレベルに留まらず、学科・大学全体としてカリキュラム編成等に活用されることや、それらを基とした実践的な研修の場の構築が望まれる。 また、保育科の科目の一部では、クラス規模が大きくなっており、改善が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 教員組織等が整備されていること	評価できる点	クラスタイムなど教員の学生指導体制が整っており、教員が学生指導に意欲的に取り組んでいる。	教員数は設置基準を充たしている。
	今後の課題	特記事項なし	特記事項なし

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
イ. 教育環境が整備・活用されていること	評価できる点	音楽科等のためのホールがあり、極めて有効に利用されており、おおいに評価できる。また7号館シトラスホール2階の多目的ホールが、まさに多目的に利用されている点は高く評価できる。	校地、校舎とも設置基準を十分に満たしている。自然環境に恵まれた緑の多い丘陵地に四大・幼稚園等が併設されており、教育環境が整っている。また、学生の休息場所や運動場など、充実した学生生活を送れる環境が整備されている。
	今後の課題	障害者のための環境を整える必要がある。具体的な実施時期等は決まっていないとのことだが、建て替え時には、優先的に検討される事項であろう。	障害者への配慮として、バリアフリー化の検討をされたい。
ウ. 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること	評価できる点	図書館に隣接して「ひだまりガーデン」が設置されており、快適な読書環境を作り出している。また図書館も大きな窓などの開口部をとってあり、明るく、気軽に利用できる雰囲気がある。	図書館は四大と共用していることから、蔵書数はかなり充実している。女性問題の関連図書の収集に力を入れるなど特徴のある図書館である。
	今後の課題	図書館利用者数が全体の7割程度にとどまっており、平均借り出し数も2冊にとどまっている。学生の図書館利用を促す方策を講じられることが課題である。	学生からの要望があれば、5時限目終了後に図書館を利用できるよう、さらに開館時間の延長を検討する必要があると思われる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 教育目標の達成への努力がみられること	評価できる点	<p>学生による授業評価において、どの学科も満足度が高く、約90パーセントが「満足」「ある程度満足」である点は十分評価できる。今後もこれをさらに継続、向上すべきであろう。</p> <p>クラス担任と他の教員、学生相談室の常勤のカウンセラーとの連携など、学生支援が総合的に実施され、退学者を激減させた努力は評価に値する。</p>	<p>単位取得や最終評価の状況、単位認定の方法から、適正に評価が行われていることがうかがえる。</p> <p>授業評価のほかに満足度調査も行って、学生からの反応の把握に努めている。また、保育科にある「出席カードの裏面に授業の感想を書く習慣」は、授業内容の浸透を測る上で良い取り組みであろう。</p>

9.相互評価結果 (相互評価一覧表)

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
	今後の課題	課題というべき点は特にないが、授業評価のフィードバックの工夫は必要であろう。これは、微妙な問題を含み、どこの大学も試行錯誤しながら進めている。現状以上の教育を目指すなら、さらに進んだ策を検討することが望ましい。	授業評価や満足度調査結果の検討が、授業担当教員個人に留まらず、教育目標達成のためのシステムへの課題として、学科単位等で組織的に行われることが望ましい。
イ. 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること	評価できる点	今後、大学は卒業生との関わりが重要視され、「面倒見の良い大学」が評価されるはずである。その点、「卒業生との集い」や「卒業生アンケート」等をいち早く実施されているのは先駆的であり、評価できる。	学生による卒業後の評価については、各学科の特性の中で聴取する機会を作り、教育内容の改善に役立てる努力がなされている。 卒業生に対する評価については、企業回りや保育科の実習巡回を利用して聴取している。
	今後の課題	「卒業生の集い」については、卒業後1年に限らず、3年後あるいは5年後にも実施して、卒業生の意見や動向を把握し、それを大学教育に反映させられたならば理想的であろう。 「卒業生アンケート」によれば、日本語日本文学科及び英語英文科では就職指導の不十分さが指摘されている。この声を学科のカリキュラム改革の中に生かす努力がなされることを期待する。	学生による卒業後の評価については、近況報告、職場の現状報告に留まっており、学生時代に受けた教育に対する評価を社会人としての立場からより積極的に受けることが望ましい。 卒業生からの情報収集の手段としては、同窓会等の活用も考えられる。 卒業生に対する評価については、アンケート等、より具体的な資料の収集が望まれるが、先方の負担への配慮も必要であろう。

評価領域V 学生支援

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 入学に関する支援が行われていること	評価できる点	体験入試等、入学手続き者に対する入学前教育が各学科の特徴を踏まえながら、しっかりと行なわれていることは大変評価できる。 またフレッシュマンキャンプや2年生を交えた新入生歓迎会などを通して入学者が早期に学科教育に入ることができるよう工夫されていることも、入学生の現状と短期大学の特性を踏まえた取組みとして	建学の精神や教育目標は大学案内等に明示され、入試制度は図表を多用した「入試ガイド」で見やすく示されている。オープンキャンパスや教員の高校訪問も頻繁に行われ、これをサポートする入試広報課の体制も十分である。入試は多様な種類があり、公正・厳格に入学者選抜が実施されている。AO入試合格者に課題を出し出校させて指導する

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
		高く評価できる。	「入学準備説明会」を募集要項に明記し参加を義務付けるなど、良い入学前指導体制も見られる。 さらに入学直後には、4日間の「新生オリエンテーション」や学科ごとの「宿泊セミナー」、学生会の新生歓迎行事や「たてわり合宿」等により、学習と生活の両面にわたる支援体制が充実している。
	今後の課題	特記事項なし	「入学準備説明会」はAO入試合格者のみを対象としているが、今後はこれをほかの年内入試の合格者にも実施するなど、さらなる充実が期待される。
イ. 学習支援が組織的に行われていること	評価できる点	フレッシュマンキャンプから2年間の学生生活や将来のライフデザインを意識した数々の学習支援がなされていることは、大いに参考になる点である。 特にライフデザインを常に意識するよう学生たちに働きかける取組みがオリエンテーション期間にとどまらず、2年間の学科教育において全学的、継続的に取り組まれていることは非常に素晴らしいと考える。	1～2年次を通し少人数で行うゼミが全学的に行われており、学生に対してきめ細かい指導は、教学から進路指導までサポート体制は重層化されており、必要に応じて事務職員によるサポートが行われるなど体制が組織的に整えられている点が評価できる。
	今後の課題	特記事項なし	特記事項なし
ウ. 学生生活支援体制が整備されていること	評価できる点	ちょっとしたところに日傘付きのテーブルと椅子を配置し周辺を緑で飾るなど、限られたスペースを有効に活用し、学生が気持ちよくおしゃべりや食事を楽しむことができるよう施設整備がされている。 また舞台を設置して発表をしたり、ダンスの練習をしたり、食事をしたりなど、さまざまに使えるフリースペースを設置しており、学生の主体性を重視し自主的な活動を積極的に支援しようとする大学の姿	学生会を中心に課外活動が非常に活発に行われており、各種委員会やサークルへの加入率がおおむね80%を超えるなど学生生活が充実している。「二者懇」と称される支援体制により、教職員と学生がコミュニケーションをとり、入学年と卒業年しかない短大の弱点を克服させている点が評価できる。

9.相互評価結果（相互評価一覧表）

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
		勢を感じとることができ、大変素晴らしい。	
	今後の課題	特記事項なし	特記事項なし
エ. 進路支援が行われていること	評価できる点	<p>フレッシュマンキャンプから2年間の学生生活や将来のライフデザインを意識した進路支援が展開されていることは、大いに評価できるとともに、参考になる。特にライフデザインを常に意識するよう学生たちに働きかける取組みが、授業、ゼミ、ガイダンスと全学的、継続的に計画し実行されていることは非常に素晴らしいことである。</p> <p>またライフデザインに関する協議会を設置し、進路支援室と連携しつつ、ライフデザイン教育との課題や目的の切り分けを明確にしている点も大変素晴らしいことである。</p>	<p>就職支援は、ゼミ担当教員と学生課員が連携をとり、学生との信頼関係を取り結びながら支援を行い、高い就職率を維持している。学生課がワンフロアのオープンカウンターにあり学生が相談しやすい環境や「就職支援プログラム”career mate”」を開発し導入するなど支援体制が充実している。とりわけ、公務員の保育職への合格率が非常に高く、公務員試験対策などの支援の成果が評価できる。</p>
	今後の課題	特記事項なし	特記事項なし
オ. 多様な学生に対する特別な支援が行われていること (留学生・社会人・障害者・長期履修生等)	評価できる点	<p>学生寮は静岡県という地域的な特性と学生たちのニーズを踏まえた施設となっており、低く抑えられた寮費も親元から遠く離れた場所で学ぶ学生たちの学費負担を軽減する意味で非常に重要な施設となっている。寮を独自に整備・維持することが一般的に難しくなっている状況のなかで、寮制度を維持されていることは、大学がしっかりと自らの果たすべき社会的な役割を自覚されている表れとして高く評価する。</p>	<p>社会人学生の支援として、社会人入試制度による入学者の授業料及び教育充実費を一般入学者の半額とするほか、自動車通学への配慮なども行っている。</p>
	今後の課題	<p>スペースを効率的に活用するため、段差や階段が多くなっている。もちろん、この点は大学としても十</p>	特記事項なし

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
	課題	分課題を意識しており、障害者支援の一環としてキャンパス再整備の時点でバリアフリー化に取り組むとされている。また、開学時からの建物が多く残っており、耐震化も課題となっている。	

評価領域Ⅵ 研究

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 教員の研究活動が展開されていること	評価できる点	科学研究費補助金は、3年間で申請11件、うち7件が採択されているなど、全体として、専門領域の研究、教育に関わる研究ともに旺盛に展開されていると評価することができる。	研究活動は多少の個人差は見られるものの、全般的に十分であると評価できる。また、科研費等の外部研究資金の申請・採択状況も良好であると認められる。学科毎の研究活動に関しては、保育科教員の共同研究が恒常的に行われている。今後は「保育子育て研究所」との連携による学科としての取組みにも期待ができる。英語コミュニケーション学科・現代教養学科では、年度末の学習会や「木曜会」などの開催が、具体的な成果を生むものと期待される。
	今後の課題	特記事項なし	特に現代教養学科においては、カリキュラムや教育内容を、1つのまとまりある体系として維持することが大切であると思われる。そのために、専門分野を越えた学際的な共同研究が、教育と一体化して行われる必要がある。そして、このような研究を奨励するために、教育業績に特化した「教育紀要」という考え方を、早期に具体化することが求められる。
イ. 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること	評価できる点	研究活動のための個人研究費に加えて、研究奨励制度が整備されている。さらに、木宮乾峰学術文化振興賞も設けられているなど、研究活動を活性化につながる金銭面での条件整備が行われている。	研究費・研修日・研究室については、それぞれ必要な条件が整っているものと認められる。また、機器・備品の購入は、特別研究費の規程によって適切に管理されている。

9.相互評価結果（相互評価一覧表）

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
		<p>また、研究紀要の発行に加えて、「常葉国文」「国文瀬名」「常葉英文」「保育の実践」といった学科独自の研究誌を発行している点も高く評価できる。</p> <p>教員の研修日が週に2日確保されているほか、会議の時間を原則90分として研究時間の確保をはかる取組みも始めている点も評価できる。</p>	
	今後の課題	特記事項なし	特記事項なし

評価領域Ⅶ 社会的活動

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 社会的活動への取組みが推進されていること	評価できる点	<p>昭和57年から地域社会に向けた公開講座「シトラスセミナー」が行われ、保育科では昭和53年から毎年、現職の保育者を対象に「夏期ゼミナール」、子育て支援活動、さらに、3年に1度の「日本国際青少年音楽祭」などの活発な社会的活動への取組みが行われている点などが高く評価できる。</p> <p>また、大学は今、地域との連携が求められている。この点から、貴学の年2回の「地域懇談会」は評価に値するであろう。</p>	<p>保育科を中心に運営している保育子育て研究会による「子育て交流会」は、年間1,000組を超える親子の参加者があり、地域に定着した社会的活動の核となっており、高く評価できる。また、現代教養学科では、ゼミ活動として積極的にボランティア活動を取り入れるなどの試みを行っている。</p> <p>公開講座は、桜花学園大学保育学部との共催で、統一テーマを設けた年5回の講座を、受講料を無料で開催している。さらに名古屋市生涯推進学習センターが主催する大学連携講座にも参加するなど、市民対象の公開講座への取組みは活発化しており、社会的活動への取組みは全体として評価できる。</p>
	今後の課題	<p>公開講座では宣伝範囲を広げ、より多くの人に参加できるように展開されるとよいであろう。「夏期ゼミナール」も卒業生の枠を超えた企画にしていくことも検討されたい。</p>	特記事項なし

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
イ. 学生の社会的活動を促進していること	評価できる点	地域清掃活動やクラブ活動による社会的活動が行われ、さまざまなボランティア活動を単位として認定している点は評価できる。	保育科学生は、学内の「子育て交流会」への参加が大きなものであるが、その他にも大学が系統的に紹介した恒常的な、あるいは単発的なボランティア活動への参加者はかなり多い。英語コミュニケーション学科では科として1件、現代教養学科ではゼミを中心とした多様な領域での活動参加がみられる。
	今後の課題	特記事項なし	現状では、教員個人や学生部がそれぞれ窓口となって、地域の要請に個別対応している。今後は、学生が地域に貢献するための組織的体制の構築が望まれる。
ウ. 国際交流・協力への取組みの努力がみられること	評価できる点	英語英文科、日本語日本文学科、音楽科では、それぞれ国際交流の取組みが行われている。	保育科では「海外保育実習」として、オーストラリアのチャイルドケアセンターでの実習を実施している。単位認定はないにもかかわらず、参加者は多く、進学理由のひとつにもあげられるなど、保育科のオリジナルな魅力としてこの企画を打ち出しており、評価できる。さらに専攻科保育専攻では、9ヶ月の留学をすることで「オーストラリアの保育士資格」を取得できるプログラムを設けるなど、専攻科の課程にも繋げている。また、英語コミュニケーション学科では「海外英語実習」「語学留学実習（14週間語学プログラム）」、現代教養学科では「海外研修」が教育課程に位置づけられており、単位認定されている。 このように、3学科がそれぞれの特長を生かして、国際交流に積極的に取り組んでおり、評価できる。
	今後の課題	保育科における国際交流の取組みを今後期待する。	特記事項なし

評価領域Ⅷ 管理運営

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 理事会等学校法人の管理運営体制が確立していること	評価できる点	理事長の方針は、事務部の収支を念頭に置いた運営にも表れており、法人の管理運営に十分に発揮されている。理事会・評議会等も適切に開催されており、所属上長会議、大学・短大・専門学校打ち合わせ会、学園連絡会で理事長の運営方針や経営計画を明らかにしていることは評価できる。	理事長のリーダーシップが適切に発揮されており、教授会の理事長への信頼も厚い。 理事会、評議員会は寄附行為の規定に基づき適切に開催され運営されている。理事、評議員、監事の出席率も高く、それぞれが責任をもって運営に参画していることがうかがえる。 平成20年度から監事の業務監査の比重を高めたことは、今後の学校法人全体の改革・改善の推進に寄与するものと期待される。
	今後の課題	3大学1短大の円滑な統合化が望まれる。	特記事項なし
イ. 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること	評価できる点	教授会は、学則や教授会規程に基づいて開催されていること、各種委員会及び特別委員会も規程に基づいて、きめ細やかに運営されていることは、評価できる。 また、各種委員会等の会議時間を制限している点は、見習いたい。	教授会の議題は、学科会等の意向を聴きながら委員会等の審議を経て、学長が委員長である運営委員会で事前整理されており、学長のリーダーシップは適正である。
	今後の課題	特記事項なし	保育学部設置(平成14年)以降、短期大学は保育学部と合同の教授会及び委員会を置いている。運営面では一体的、効率的であると解されるが、それぞれがまったく別の組織としての権限と責任を持つ運営体制が望まれる。
ウ. 事務組織が整備されていること	評価できる点	事務組織に関わる規程は適切に整備されており、問題ない。事務組織の課題も的確に把握し、改善に向けての努力をし、SD活動も積極的に取り組んでおり、評価できる。	事務組織は、短期大学と保育学部とで一体(兼務)で運営されている。 教職員が協力、共同し運営してきた歴史により、教員との信頼関係が形成されている。事務職員が各種委員会や学科会議に出席するなど十分な情報の共有化が図られ、事務職員の積極的に学生支援などに成果を上げている。

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
	今後の課題	特記事項なし	特記事項なし
エ. 人事管理が適切に行われていること	評価できる点	職員の採用は採用試験を行い、適切に実施されている。職員の勤務評定も職階制を定め、その制度基準に沿って、昇任試験の導入も予定され、公正な評価に向けての努力をしていることは、評価できる。	教員、事務職員間で自由に意見を言い合える職場環境が形成されている。また、法人本部との意思疎通も十分できていることがうかがえる。
	今後の課題	昇任試験の導入等公正な評価に向けての「努力」の実行が望まれる。	教務課員や学生課員は、担当の学科が割り振られて、長年、同一学科を担当している例がある。 法人内の人事異動や事務部署間の異動などを進め、将来を担う事務職員の総合力向上を図る策などの検討が望まれる。

評価領域X 改革・改善

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
ア. 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること	評価できる点	自己点検・評価活動の実施体制は確立しており、その組織を適切に運営するための諸規程も整備されている。さらに、自己点検・評価活動を担う「自己評価委員会」だけでなく、その下部組織である「第三者評価運営プロジェクト」、及び「授業評価等作業部会」、「短大運営協議会」など、自己点検・評価活動を支えるさまざまな組織の体制があることも評価できる。	平成4年度に大学評価委員会を立ち上げ、平成7年度以降は毎年「名古屋短期大学の現状と課題」と題した報告書を発行していることは大いに評価できる。 また、平成18年度の規程改正では、執筆責任者を明記し、その下で、理事長、法人本部役職者、教職員を評価担当者とするなど、自己点検・評価活動が全学的協同作業によって実施されていることは大いに評価できる。
	今後の課題	現在は「自己点検・評価報告書」を毎年作成していないが、これについて自己評価しているとおり今後の課題である。しかし、将来的には報告書の作成・発行を、毎年行うよう、できるだけ早期に対応することが期待される。	特記事項なし

9.相互評価結果（相互評価一覧表）

評価項目		名古屋短期大学から 常葉学園短期大学へ	常葉学園短期大学から 名古屋短期大学へ
イ. 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること	評価できる点	<p>「自己評価委員会」、及びその下部組織である「第三者評価運営プロジェクト」での活動に加え、「短大運営協議会」において年度当初に当該年度の努力目標を掲げ、年度末にその達成結果を報告書としてまとめておられる活動など、改革・改善への努力が行われている。</p> <p>また、毎年実施している「短大教職員研修会」では全教職員が参加し、教員、職員が一体となり、改革・改善への意識づけを行い、努力が払われている。</p>	<p>大学評価委員会の今後の中心課題として「大学全体の構造的改善」を挙げるなど、改革改善の必要性を充分認識していることや、学長やALOが、大学の将来像を念頭にマクロ的な改革を提案する姿勢をもってしていることなど、大学全体に改革改善へ向けての努力がうかがえる。</p>
	今後の課題	<p>上記の項目で述べたように、さまざまな組織において改革・改善への努力が行われているが、お互いの連携と効率性といった点で改善できる点がある。</p>	<p>特記事項なし</p>
ウ. 相互評価（独自に行う外部評価を含む）への取り組みに努力していること	評価できる点	<p>今回、極めて円滑に相互評価が実施できたことは、学長・ALOを中心とした見事な実施体制が構築されている。改善に向けて努力している。</p>	<p>平成14年に相互評価を行い、さらに、平成19年度には4名の評価員による外部評価を行っている。このように、積極的に相互評価や外部評価に取り組んでいる。</p>
	今後の課題	<p>外部評価についても、実施されることを期待する。</p>	<p>特記事項なし</p>

10.あとかき ～相互評価を終えて～

あとながき ～常葉学園短期大学との相互評価を終えて～

名古屋短期大学

A L O 小川雄二

常葉学園短期大学と名古屋短期大学の相互評価をここに、無事、大きな成果を携えて終えることができました。両短大の多くの教職員の皆様が支えて下さったおかげと心よりお礼申し上げます。

本学における自己点検評価活動の重要性をとりわけ強調してリーダーシップを発揮されたのが、前学長今榮國晴先生でした。大学評価委員会規程を整え、執筆責任者という独自のしくみを作るなど、規程や仕組みを整えて下さいました。今榮國晴先生、前A L O松浦照子先生のもとで、短期大学基準協会の認証評価も行うことができました。

そして、今回の常葉学園短期大学との相互評価についても、今榮学長がその端緒をつけて下さり、2年前に就任した大谷岳学長とA L Oの私が引き継ぎました。日常の教育、研究、大学運営、社会貢献に多忙を極めている中で、その上に、義務でもない相互評価を実施するというのは、正直なところ、避けたいというのが当初の本音でした。しかし、相互評価で多くの成果を得ることができたことを確認できた今、すべての本学教職員に、評価活動を経験してほしいと自信をもって言えます。視察や見学で他の大学を訪れる機会がありますが、それでは表面的なことしか解らない事が多い訳ですが、相互評価ほど、大学運営を学ぶ取り組みは他にないと思います。もちろん、評価をするのは、改善のためであります。今回、常葉学園短期大学から本学に対して、多くの「評価すべき点」と「今後の課題」を提示していただきました。評価していただいたことは今後さらに発展させ、課題については解決策を講じて参りたいと思います。

さて、短期大学基準協会のA L Oマニュアルによれば、A L O (Accreditation Liaison Officer : 第三者評価連絡調整責任者) には、多くの能力が必要であるとされています。A L Oとしての責務理解と任務遂行力、教職員からの信頼、教育者としてのバランス感覚、さらには、コミュニケーション能力として、対人コミュニケーション能力、組織におけるコミュニケーション能力、電子メールによるコミュニケーション能力、対話 (Dialogue) によるコミュニケーション能力などです。果たして、自らがA L Oとしてこうした能力や力量があったかと問われると、十分でなかったことを反省しなければなりません。しかし、A L Oを経験させていただいた中で、こうした力量を高めたいと、努力はして参りました。今回の相互評価を実施するにあたり、常葉学園短期大学A L O一言哲也先生には本当にお世話になりました。相互評価の取組みを常にリードし、常に優れた先見性との的確なご提言、緻密で迅速な仕事ぶりに加えて温厚なお人柄に触れさせていただくことができ、多くのことを学ばせていただいたことも、私にとって大きな収穫となりました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

わが家では、2月の末に雛人形を飾ります。右近の橘(常葉)・左近の桜(桜花)が雛段に彩りを添えています。これから毎年、3月に雛人形を見る度に、今回の相互評価のことを思い出して、新年度にむけた決意を新たにすることに違いありません。

あとかき ～名古屋短期大学との相互評価を終えて～

常葉学園短期大学

A L O 一言哲也

平成20年6月23日、当時の山本伸晴学長、尾崎富義副学長（兼ALO）とともに車で名古屋短期大学に向け出発。約3時間のドライブの後、目的地に到着。本学に比べ広さを感じさせる気持のよいキャンパスが小高い丘の上に広がっていました。これが、当時の今榮國晴学長、ALO松浦照子先生、小川雄二図書館長、事務局の皆様との初対面の日でした。当時、本学では平成19年度の認証評価を済ませ、それに引き続き相互評価を実施すべく、相手校を探していました。そして、名古屋短期大学と本学が学科構成や定員数において類似し距離も比較的近いという好条件から、相互評価のお願いをしたところ快くお受けいただいたため、ご挨拶をさせていただきたく訪問したのです。その後、相互評価に関する基本的な実施要項や評価項目が決まり、平成21年12月4日、今度は名古屋短期大学の島田隆治事務局長が本学までお越しくださり、相互評価の協定承諾書の調印及び交換が行われました。

この間、本学では平成21年秋頃から「平成19年度 自己点検・評価報告書」の改訂作業が始まり、その作業は平成22年9月まで約1年間続くこととなります。学内外からの執筆協力、及び、幾度かの内容検討会議の末、ようやく改訂版（平成22年度版）が完成し、事前の交換資料を持参して相互評価の具体的な実務打ち合わせが出来たのは、平成22年9月22日のことでした。この時は本学の木宮俊峰事務部長と二人で、名古屋短期大学にお邪魔しました。

その後、事前交換資料に基づく質問表の交換、名古屋短期大学から10名の皆様がお出でになった11月2日の第1回相互評価会議、本学から木宮岳志学長をはじめとする6名が出席した11月4日の第2回相互評価会議、事後の相互評価一覧表の作成等々、さらなる調整や会議を重ね、あっと言う間に時間が過ぎました。そして、（これも）ようやく本報告書の編集が済み、今日に至りました。

この長くも短い一年半余の期間、あらゆる作業や会議において両短大の多くの教職員の方々に係わっていただきました。皆様のお力と教職協働作業がなければ、この相互評価は成り立ちませんでした。お陰さまで、その労の甲斐あって、多くのことを名古屋短期大学の皆様から吸収させていただきました。そして同時に、本学の教職員からも多くのことを学びました。そういう意味では、今回の相互評価で最も多くのことを学習したのは、ALOの私かもしれません。学内外の多くの方々と連絡調整に当たり、少しずつ前を進む作業の中で、意思統一を図るためのコミュニケーションの難しさや大切さを痛感しながらの職務でした。この点、Accreditation Liaison Officer の liaison という語には深い意味が感じられますし、この度の相互評価においては、予想された諸問題を半減（いや、それ以上に少なく）してくださったのが、名古屋短期大学ALOの小川雄二先生でした。先生の存在は、私にとって幸運であり、十分な感謝の言葉が見つかりません。

今回の「ピア・レビュー」から学んだ視点は、本学の今後に生かされなければなりません。忙しさと慣れの中で見えなくなっている自分たちの在り方を「同業」のプロから点検・評価していただきました。ただこれは、ある意味では依然として同じ目線ですから、次は異なる目線からの評価、つまり外部評価を受けるべき時だと思います。まずは、短期大学基準協会が示す新しい自己点検・評価基準に則した報告書の改訂が待っています。春が到来し新年度になり、本学の自己点検も新たなサイクルに入ります。

この報告書が完成する頃は桜の季節。そして、それに続き新緑の季節がやってきます。名古屋短期大学と常葉学園短期大学が、この季節の色の繋がりのように、相互評価という経験を通じて繋がり学び合った証として、本報告書を作成し公開いたします。